

基本計画書

基本計画										
事項		記入欄							備考	
計画の区分		研究科の専攻の設置								
フリガナ 設置者		コクリツダガクホウシン オカヤマダガク 国立大学法人岡山大学								
フリガナ 大学の名称		オカヤマダガクダゲダクイン 岡山大学大学院								
大学本部の位置		岡山県岡山市北区津島中一丁目1番1号								
大学の目的		岡山大学は、「自然と人間の共生」に関わる、環境、エネルギー、食料、経済、保健、安全、教育等々の困難な諸課題に対し、既存の知的体系を発展させた新たな発想の展開により問題解決に当たるとい、人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築を大学の目的とする。 このため、我が国有数の総合大学の特色を生かし、既存の学問領域を融合した総合大学院制を基盤にして、高度な研究とその研究成果に基づく充実した教育を実施する。								
新設研究科等の目的		設置する専攻ごとの学問研究分野における専門性を深めるとともに、学校園での実践的授業科目の履修を通して、教科の指導や理論に強く学校現場における実践研究を指導できる専門的な職業能力を有する人材、学校を取り巻く複雑な諸課題に即時対応できる高度な教育実践力を身に付け、地域や学校の中核的リーダー並びに新しい学校づくりの有力な一員となる人材、及びグローバルな視野と開拓的精神を備え、高度な課題解決能力を有し未来を創生する教育関連の専門家を養成する。								
新設研究科等の概要	新設研究科等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 教育学部 14条特例の実施
	教育学研究科 教育科学専攻（修士課程）	年	人	年次 人	人	修士(教育学) 修士(教育 データサイエ ンス)	教育学・保育学 関係	年 月 第 年次 令和7年4 月 第1年次	岡山県岡山市北 区津島中三丁目 1 番 1 号	
	計	2	37	-	74					
同一設置者内における 変更状況 （定員の移行，名称の 変更等）		教育学研究科（修士課程） 教育科学専攻（廃止）（△ 37）（令和7年4月学生募集停止）								
教育課程	新設研究科等の名称	開設する授業科目の総数					修了要件単位数			単位
	教育学研究科 教育科学専攻（修士課程）	講義	演習	実験・実習	計	34（教育学学位プログラム）, 38（教育 データサイエンス学 位プログラム）				
研究科等の名称				専任教員					助手	専任教員以外の教員 （助手を除く）
新設分	教育学研究科 教育科学専攻（修士課程）	人	人	人	人	人	人	人	人	
	計	36 (36)	19 (19)	5 (5)	4 (4)	64 (64)	0 (0)	25 (25)		
既設	教育学研究科 教職実践専攻（専門職学位課程）	23 (23)	8 (8)	5 (5)	1 (1)	37 (37)	0 (0)	10 (10)		
	社会文化科学研究科 国際社会専攻（博士前期課程）	12 (12)	17 (17)	0 (0)	0 (0)	29 (29)	0 (0)	9 (9)		
	社会文化科学研究科 日本・アジア文化専攻（博士前期課程）	6 (6)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	8 (8)		
	社会文化科学研究科 人間社会文化専攻（博士前期課程）	12 (12)	20 (20)	1 (1)	0 (0)	33 (33)	0 (0)	16 (16)		
	社会文化科学研究科 法政理論専攻（博士前期課程）	12 (12)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	11 (11)		
	社会文化科学研究科 経済理論・政策専攻（博士前期課程）	8 (8)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	8 (8)		
	社会文化科学研究科 組織経営専攻（博士前期課程）	4 (4)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	12 (12)		
	社会文化科学研究科 社会文化学専攻（博士後期課程）	53 (53)	56 (56)	5 (5)	0 (0)	114 (114)	0 (0)	2 (2)		
	環境生命自然科学研究科 環境生命自然科学専攻（博士前期課程）	157 (157)	132 (132)	9 (9)	50 (50)	348 (348)	0 (0)	43 (43)		
	環境生命自然科学研究科 環境生命自然科学専攻（博士後期課程）	166 (166)	135 (135)	9 (9)	32 (32)	342 (342)	0 (0)	6 (6)		
	保健学研究科 保健学専攻（博士前期課程）	13 (13)	13 (13)	0 (0)	15 (15)	41 (41)	0 (0)	50 (50)		

分	保健学研究科 保健学専攻（博士後期課程）		13 (13)	13 (13)	0 (0)	9 (9)	35 (35)	0 (0)	5 (5)			
	医歯薬学総合研究科 医歯科学専攻（修士課程）		73 (73)	52 (52)	56 (56)	0 (0)	181 (181)	0 (0)	44 (44)			
	医歯薬学総合研究科 薬科学専攻（博士前期課程）		18 (18)	16 (16)	4 (4)	5 (5)	43 (43)	0 (0)	6 (6)			
	医歯薬学総合研究科 医歯薬学専攻（博士課程）		84 (84)	60 (60)	58 (58)	3 (3)	205 (205)	0 (0)	130 (130)			
	医歯薬学総合研究科 薬科学専攻（博士後期課程）		7 (7)	8 (8)	2 (2)	2 (2)	19 (19)	0 (0)	3 (3)			
	ヘルスシステム統合科学研究科 ヘルス システム統合科学専攻（博士前期課程）		20 (20)	9 (9)	3 (3)	8 (8)	40 (40)	0 (0)	11 (11)			
	ヘルスシステム統合科学研究科 ヘルス システム統合科学専攻（博士後期課程）		20 (20)	9 (9)	3 (3)	6 (6)	38 (38)	0 (0)	7 (7)			
	法務研究科 法務専攻（専門職学位課程）		13 (13)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	20 (20)			
	計		714 (714)	576 (576)	159 (159)	132 (132)	1581 (1, 581)	0 (0)	- (-)			
	合 計		750 (750)	595 (595)	164 (164)	136 (136)	1645 (1, 645)	0 (0)	- (-)			
職 種			専 属			その他			計			
事 務 職 員			942 (942)			0 (0)			942 (942)			
技 術 職 員			150 (150)			0 (0)			150 (150)			
図 書 館 職 員			15 (15)			0 (0)			15 (15)			
そ の 他 の 職 員			1535 (1, 535)			0 (0)			1535 (1, 535)			
指 導 補 助 者			0 (0)			0 (0)			0 (0)			
計			2642 (2, 642)			0 (0)			2642 (2, 642)			
校 地 等	区 分		専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用			計			
	校 舎 敷 地		797, 092 m ²	0 m ²		0 m ²			797, 092 m ²			
	そ の 他		21, 198 m ²	0 m ²		0 m ²			21, 198 m ²			
	合 計		818, 290 m ²	0 m ²		0 m ²			818, 290 m ²			
校 舎			専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用			計			
			367, 175 m ² (367, 175m ²)	0 m ² (0m ²)		0 m ² (0m ²)			367, 175 m ² (367, 175m ²)			
講義室等・新設研究科等 の 専 任 教 員 研 究 室			講義室	実験・実習室		演習室			新設研究科等の 専任教員研究室	大学全体		
			178室	198室		163室			64室			
図 書 ・ 設 備	新設研究科等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊		学術雑誌 〔うち外国書〕 種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点		機械・器具 点	研究科単位での 特定不能なた め，大学全体の 数		
	教育学研究科		1, 980, 710 [674, 222] (1, 980, 710 [674, 222])	27, 660 [21, 066] (27, 660 [21, 066])		74, 390 [43, 315] (74, 390 [43, 315])		26, 825 [25, 264] (26, 825 [25, 264])			14, 338 (14338)	()
	計		1, 980, 710 [674, 222] (1, 980, 710 [674, 222])	27, 660 [21, 066] (27, 660 [21, 066])		74, 390 [43, 315] (74, 390 [43, 315])		26, 825 [25, 264] (26, 825 [25, 264])			14, 338 (14338)	0 ()
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費 の見 積り	区 分		開設前年度	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	国費による		
		教員 1 人当り研究費等			千円	千円	千円	千円	千円			
		共同研究費等			千円	千円	千円	千円	千円			
		図書購入費		千円	千円	千円	千円	千円	千円			
		設備購入費		千円	千円	千円	千円	千円	千円			
	学生 1 人当り 納付金			第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次				
				千円	千円	千円	千円	千円				
学生納付金以外の維持方法の概要												
	大 学 等 の 名 称		岡山大学									
	学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	収 容 定 員 充 足 率	開設 年度	所 在 地		
	文学部 人文学科		4年	175人	—年次人	700人	学士(文学)	1. 11 1. 11	平成16年度	岡山県岡山市北区 津島中三丁目 1－1		
	教育学部 学校教育教員養成課程 養護教諭養成課程		4 4	250 30	— —	1000 120	学士(教育学)	1. 05 1. 05 1. 01	平成11年度 昭和53年度	岡山県岡山市北区 津島中三丁目 1－1		
	法学部 法学科 昼間コース 夜間主コース		4 4	205 20	— —	820 80	学士(法学)	1. 09 1. 09 1. 06	平成16年度 平成16年度	岡山県岡山市北区 津島中三丁目 1－1		
	経済学部 経済学科 昼間コース		4	205	—	820	学士(経済学)	1. 11 1. 10	平成16年度	岡山県岡山市北区 津島中三丁目 1－1		

既設大学等の状況	夜間主コース	4	40	—	160		1. 15	平成16年度		
	理学部					学士(理学)	1. 11		岡山県岡山市北区	
	数学科	4	20	3年次9	98		1. 07	平成7年度	津島中三丁目 1－	
	物理学科	4	35	3年次8	156		1. 10	平成7年度	1	
	化学科	4	30	3年次5	130		1. 10	平成7年度		
	生物学科	4	30	3年次5	130		1. 13	平成7年度		
	地球科学科	4	25	3年次3	106		1. 12	平成7年度		
	医学部					学士(医学)	1. 01		岡山県岡山市北区	
	医学科	6	109	2年次5	691	学士(看護学)	1. 00	昭和24年度	鹿田町二丁目 5－	
	保健学科					学士(保健学)	1. 03		1	
	看護学専攻	4	80	—	320		1. 02	平成10年度		
	放射線技術科学専攻	4	40	—	160		1. 04	平成10年度		
	検査技術科学専攻	4	40	—	160		1. 04	平成10年度		
	歯学部					学士(歯学)	1. 00		岡山県岡山市北区	
	歯学科	6	48	2年次5	313		1. 00	昭和54年度	鹿田町二丁目 5－	
									1	
	薬学部					学士(薬学)	1. 10		岡山県岡山市北区	
	薬学科	6	40	—	240	学士(創薬科学)	1. 06	平成18年度	津島中一丁目 1－	
	創薬科学科	4	40	—	160		1. 15	平成18年度	1	
	工学部					学士(工学)	1. 04		岡山県岡山市北区	
	工学科	4	640	3年次30	2, 530		1. 04	令和3年度	津島中三丁目 1－	
	機械システム系学科	4	—	—	—		—	平成23年度	1	令和3年度より
	電気通信系学科	4	—	—	—		—	平成23年度		学生募集停止
	情報系学科	4	—	—	—		—	平成23年度		(3年次編入学
	化学生命系学科	4	—	—	—		—	平成23年度		定員は令和5年4
										月学生募集停
										止)
	環境理工学部					学士(環境理工学)			岡山県岡山市北区	令和3年度より
	環境数理学科	4	—	—	—		—	平成6年度	津島中三丁目 1－	学生募集停止
	環境デザイン工学科	4	—	—	—		—	平成6年度	1	
	環境管理工学科	4	—	—	—		—	平成6年度		
	環境物質工学科	4	—	—	—		—	平成6年度		
	農学部					学士(農学)	1. 10		岡山県岡山市北区	
	総合農業科学科	4	120	—	480		1. 10	昭和61年度	津島中一丁目 1－	
									1	
	教育学研究科								岡山県岡山市北区	
	[修士課程]					修士(教育学)	1. 03		津島中三丁目 1－	
	教育科学専攻	2	37	—	74		1. 03	平成30年度	1	
	[専門職学位課程]					教職修士(専門職)	0. 71			
	教職実践専攻	2	45	—	90		0. 71	平成30年度		
	社会文化科学研究科								岡山県岡山市北区	
	[博士前期課程]					修士(文学)	1. 14		津島中三丁目 1－	
	国際社会専攻	2	14	—	28	修士(法学)	0. 75	平成30年度	1	
	日本・アジア文化専攻	2	12	—	24	修士(経済学)	1. 61	平成30年度		
	人間社会文化専攻	2	30	—	60	修士(経営学)	1. 15	平成30年度		
	法政理論専攻	2	15	—	30	修士(公共政策学)	1. 17	平成30年度		
	経済理論・政策専攻	2	6	—	12	修士(文化科学)	1. 08	平成30年度		
	組織経営専攻	2	11	—	22	修士(学術)	1. 09	平成18年度		
	[博士後期課程]					博士(文学)	2. 13			
	社会文化学専攻	3	12	—	36	博士(法学)	2. 13	平成16年度		
						博士(経済学)				
						博士(経営学)				
						博士(文化科学)				
						博士(学術)				
	自然科学研究科								岡山県岡山市北区	
	[博士前期課程]					修士(理学)			津島中三丁目 1－	
	数理物理科学専攻	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成11年度	1	令和5年度より
	分子科学専攻	2	—	—	—	修士(学術)	—	平成17年度		学生募集停止
	生物科学専攻	2	—	—	—		—	平成17年度		
	地球科学専攻	2	—	—	—		—	平成11年度		
	機械システム工学専攻	2	—	—	—		—	平成11年度		
	電子情報システム工学専攻	2	—	—	—		—	平成11年度		
	応用化学専攻	2	—	—	—		—	平成27年度		
	[博士後期課程]					博士(理学)				
	数理物理科学専攻	3	—	—	—	博士(工学)	—	平成24年度		令和5年度より
	地球生命物質科学専攻	3	—	—	—	博士(学術)	—	平成24年度		学生募集停止
	学際基礎科学専攻	3	—	—	—		—	平成30年度		
	産業創成工学専攻	3	—	—	—		—	平成17年度		
	応用化学専攻	3	—	—	—		—	平成27年度		
	[5 年一貫博士課程]					博士(理学)	—			
	地球惑星物質科学専攻	5	—	—	—	博士(学術)	—	平成21年度		令和5年度より
										学生募集停止

附属施設の概要	規 模 等：土地 275,869 m ² のうち一部，建物 624 m ² (附属病院) 名 称：岡山大学病院 目 的：診療を通じて医学及び歯学の教育及び研究を行う 所 在 地：岡山県岡山市北区鹿田町二丁目5－1 設置年月：平成21年4月 規 模 等：土地 79,542 m ² ，建物 117,261 m ²
	(附属図書館) 名 称：附属図書館 目 的：教育及び研究に必要な図書館資料を収集、整理、保存し、国立大学法人岡山大学の職員及び本学の学生の利用に供するとともに、必要とする学術情報を速やかに提供する等の図書館奉仕を行う 所 在 地：岡山県岡山市北区津島中三丁目1－1 設置年月：平成16年4月 規 模 等：土地 275,869 m ² のうち一部，建物 16,386 m ²
	(附属学校) 名 称：教育学部附属小学校 目 的：教育基本法及び学校教育法に準拠して義務教育として行われる普通教育のうち、基礎的なものを施し、かつ、教育の理論及び実際に関する研究並びにその実証を行うとともに、教育学部学生の実習を行う 所 在 地：岡山県岡山市中区東山二丁目13－80 設置年月：昭和26年4月 規 模 等：土地 53,210 m ² のうち一部，建物 6,482 m ²
	名 称：教育学部附属中学校 目 的：教育基本法及び学校教育法に準拠して義務教育として行われる普通教育を施し、かつ、教育の理論及び実際に関する研究並びにその実証を行うとともに、教育学部学生 所 在 地：岡山県岡山市中区東山二丁目13－80 設置年月：昭和26年4月 規 模 等：土地 53,210 m ² のうち一部，建物 7,605 m ²
	名 称：教育学部附属特別支援学校 目 的：教育基本法及び学校教育法に準拠し、知的障害者に対して小学校、中学校及び高等学校に準ずる教育を施すとともに、障がいによる学習上又は生活上の困難を克服し、自立を図るために必要な知識技能を授け、かつ、教育の理論及び実際に関する研究と実証を行うとともに、教育学部学生の実習を行う 所 在 地：岡山県岡山市中区平井三丁目914 設置年月：昭和40年4月 規 模 等：土地 13,188 m ² ，建物 4,553 m ²
	名 称：教育学部附属幼稚園 目 的：教育基本法及び学校教育法に準拠して幼児を教育し、かつ、教育の理論及び実際に関する研究並びにその実証を行うとともに、教育学部学生の実習を行う 所 在 地：岡山県岡山市中区東山二丁目13－80 設置年月：昭和26年4月 規 模 等：土地 53,210 m ² のうち一部，建物 1,006 m ²
	(附属施設等) 名 称：農学部附属山陽圏フィールド科学センター 目 的：農学部附属の教育研究施設として、農学教育の基礎的及び専門的段階における実習教育を担う 所 在 地：岡山県岡山市北区津島桑の木町1－62 外 設置年月：平成14年4月 規 模 等：土地 444,746 m ² ，建物 7,231 m ²
	名 称：大学院医歯薬学総合研究科附属薬用植物園 目 的：教育研究のための見本園として各種の薬用植物を植栽 所 在 地：岡山県岡山市北区津島中一丁目1－1 設置年月：平成20年4月 規 模 等：土地 167,503 m ² のうち一部，建物 328 m ²
	名 称：保健管理センター 目 的：健康管理及び衛生管理に関する専門的業務を行い、もって本学の学生及び職員の健康の維持・増進を図る 所 在 地：岡山県岡山市北区津島中二丁目1－1 設置年月：平成20年4月 規 模 等：土地 140,321 m ² のうち一部，建物 668 m ²
	名 称：環境管理センター 目 的：環境保全及び環境安全に関する専門的業務を行い、もって本学の環境マネジメント及び労働安全の充実を図る 所 在 地：岡山県岡山市北区津島中三丁目1－1 設置年月：平成20年4月 規 模 等：土地 275,869 m ² のうち一部，建物 657 m ²
	名 称：情報統括センター 目 的：情報戦略の企画・立案、情報基盤の整備・運用並びに本学の諸活動に関する情報の収集・整備及び役員等への提供を通じて、本学の教育研究その他業務の高度化及び円滑 所 在 地：岡山県岡山市北区津島中三丁目1－1 設置年月：平成22年4月 規 模 等：土地 275,869 m ² のうち一部，建物 2,355 m ²

- (注)
- 共同教育課程の認可の申請及び届出の場合，「計画の区分」，「新設研究科等の目的」，「新設研究科等の概要」，「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
 - 「既設分」については，共同教育課程に係る数を除いたものとする。
 - 私立の大学院の研究科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「講義室等・新設研究科等の専任教員研究室」，及び「図書・設備」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
 - 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「講義室等・新設研究科等の専任教員研究室」，「図書・設備」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
 - 「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
 - 空欄には，「－」又は「該当なし」と記入すること。

国立大学法人岡山大学 設置計画に関わる組織の移行表

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
岡山大学				岡山大学				
文学部				文学部				
人文学科	175	—	700	人文学科	175	—	700	
教育学部				教育学部				
学校教育教員養成課程	250	—	1,000	学校教育教員養成課程	250	—	1,000	
養護教諭養成課程	30	—	120	養護教諭養成課程	30	—	120	
法学部				法学部				
法学科				法学科				
昼間コース	205	—	820	昼間コース	205	—	820	
夜間主コース	20	—	80	夜間主コース	20	—	80	
経済学部				経済学部				
経済学科				経済学科				
昼間コース	205	—	820	昼間コース	205	—	820	
夜間主コース	40	—	160	夜間主コース	40	—	160	
理学部				理学部				
数学科	20	3年次 9	98	数学科	20	3年次 9	98	
物理学科	35	8	156	物理学科	35	8	156	
化学科	30	5	130	化学科	30	5	130	
生物学科	30	5	130	生物学科	30	5	130	
地球科学科	25	3	106	地球科学科	25	3	106	
医学部				医学部				
医学科(6年制)	109	2年次 5	634	医学科(6年制)	100	2年次 5	625	定員変更(△9)
保健学科				保健学科				
看護学専攻	80	—	320	看護学専攻	80	—	320	
放射線技術科学専攻	40	—	160	放射線技術科学専攻	40	—	160	
検査技術科学専攻	40	—	160	検査技術科学専攻	40	—	160	
歯学部				歯学部				
歯学科	48	2年次 5	313	歯学科	48	2年次 5	313	
薬学部				薬学部				
薬学科(6年制)	40	—	240	薬学科(6年制)	40	—	240	
創薬科学科	40	—	160	創薬科学科	40	—	160	
工学部				工学部				
工学科	640	3年次 30	2,620	工学科	640	3年次 30	2,620	
農学部				農学部				
総合農業科学科	120	—	480	総合農業科学科	120	—	480	
計	2,222	2年次 10 3年次 60	9,407	計	2,213	2年次 10 3年次 60	9,398	

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
岡山大学大学院				岡山大学大学院				
教育学研究科				教育学研究科				
教育科学専攻(M)	37	—	74	教育科学専攻(M)	0	—	0	令和7年4月学生募集停止 研究科の専攻の設置(事前相談)
教職実践専攻(P)	45	—	90	教育科学専攻(M)	37	—	74	
				教職実践専攻(P)	45	—	90	
社会文化科学研究科				社会文化科学研究科				
国際社会専攻(M)	14	—	28	国際社会専攻(M)	14	—	28	
日本・アジア文化専攻(M)	12	—	24	日本・アジア文化専攻(M)	12	—	24	
人間社会文化専攻(M)	30	—	60	人間社会文化専攻(M)	30	—	60	
法政理論専攻(M)	15	—	30	法政理論専攻(M)	15	—	30	
経済理論・政策専攻(M)	6	—	12	経済理論・政策専攻(M)	6	—	12	
組織経営専攻(M)	11	—	22	組織経営専攻(M)	11	—	22	
社会文化学専攻(D)	12	—	36	社会文化学専攻(D)	12	—	36	
環境生命自然科学研究科				環境生命自然科学研究科				
環境生命自然科学専攻(M)	501	—	1002	環境生命自然科学専攻(M)	501	—	1002	
環境生命自然科学専攻(D)	96	—	288	環境生命自然科学専攻(D)	96	—	288	
保健学研究科				保健学研究科				
保健学専攻(M)	26	—	52	保健学専攻(M)	26	—	52	
保健学専攻(D)	10	—	30	保健学専攻(D)	10	—	30	
医歯薬学総合研究科				医歯薬学総合研究科				
医歯科学専攻(M)	20	—	40	医歯科学専攻(M)	20	—	40	
薬科学専攻(M)	37	—	74	薬科学専攻(M)	37	—	74	
薬科学専攻(D)	6	—	18	薬科学専攻(D)	6	—	18	
医歯薬学専攻(4年制D)	128	—	512	医歯薬学専攻(4年制D)	128	—	512	
ヘルスシステム統合科学研究科				ヘルスシステム統合科学研究科				
ヘルスシステム統合科学専攻(M)	80	—	160	ヘルスシステム統合科学専攻(M)	80	—	160	
ヘルスシステム統合科学専攻(D)	16	—	48	ヘルスシステム統合科学専攻(D)	16	—	48	
法務研究科				法務研究科				
法務専攻(P)	24	—	72	法務専攻(P)	24	—	72	
計	1,126		2,672	計	1,126		2,672	

設置の前後における学位等及び基幹教員の所属の状況

届出時における状況						新設学部等の学年進行情況					
学部等の名称	授与する学位等		異動先	基幹教員		学部等の名称	授与する学位等		異動元	基幹教員	
	学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授		学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授
教育学研究科	修士(教育学)	教育学・保育学関係	教育科学専攻	64	36	教育学研究科	修士(教育学) 修士(教育データサイエンス)	教育学・保育学関係	教育科学専攻	64	36
			計	64	36				計	64	36

基礎となる学部等の改編状況

開設又は 改編時期	改 編 内 容 等	学 位 又 は 学 科 の 分 野	手 続 きの 区 分
昭和55年4月	大学院教育学研究科学校教育専攻 設置	教育学・保健学関係	設置認可(研究科)
	大学院教育学研究科国語教育専攻 設置	教育学・保健学関係	
	大学院教育学研究科数学教育専攻 設置	教育学・保健学関係	
	大学院教育学研究科理科教育専攻 設置	教育学・保健学関係	
	大学院教育学研究科美術教育専攻 設置	教育学・保健学関係	
	大学院教育学研究科英語教育専攻 設置	教育学・保健学関係	
昭和56年4月	大学院教育学研究科音楽教育専攻 設置	教育学・保健学関係	設置届出(専攻)
	大学院教育学研究科保健体育専攻 設置	教育学・保健学関係	
昭和57年4月	大学院教育学研究科社会科教育専攻 設置	教育学・保健学関係	設置届出(専攻)
昭和59年4月	大学院教育学研究科家政教育専攻 設置	教育学・保健学関係	設置届出(専攻)
平成5年4月	大学院教育学研究科障害児教育専攻 設置	教育学・保健学関係	設置届出(専攻)
平成9年4月	大学院教育学研究科養護教育専攻 設置	教育学・保健学関係	設置届出(専攻)
平成11年4月	大学院教育学研究科学校教育臨床専攻(夜間) 設置	教育学・保健学関係	設置届出(専攻)
平成13年4月	大学院教育学研究科カリキュラム開発専攻 設置	教育学・保健学関係	設置届出(専攻)
平成15年4月	大学院教育学研究科技術教育専攻 設置	教育学・保健学関係	設置届出(専攻)
平成16年4月	大学院教育学研究科教育組織マネジメント専攻(夜間) 設置	教育学・保健学関係	設置届出(専攻)
平成20年4月	大学院教育学研究科学校教育専攻 廃止	—	学生募集停止(専攻)
	大学院教育学研究科国語教育専攻 廃止	—	
	大学院教育学研究科数学教育専攻 廃止	—	
	大学院教育学研究科理科教育専攻 廃止	—	
	大学院教育学研究科美術教育専攻 廃止	—	
	大学院教育学研究科英語教育専攻 廃止	—	
	大学院教育学研究科音楽教育専攻 廃止	—	
	大学院教育学研究科保健体育専攻 廃止	—	
	大学院教育学研究科社会科教育専攻 廃止	—	
	大学院教育学研究科家政教育専攻 廃止	—	
	大学院教育学研究科障害児教育専攻 廃止	—	
	大学院教育学研究科養護教育専攻 廃止	—	
	大学院教育学研究科学校教育臨床専攻(夜間) 廃止	—	
	大学院教育学研究科カリキュラム開発専攻 廃止	—	
	大学院教育学研究科技術教育専攻 廃止	—	
	大学院教育学研究科教育組織マネジメント専攻(夜間) 廃止	—	

開設又は 改編時期	改 編 内 容 等	学 位 又 は 学 科 の 分 野	手 続 き の 区 分
	大学院教育学研究科学校教育学専攻 設置	教育学・保健学関係	設置届出(専攻)
	大学院教育学研究科発達支援学専攻 設置	教育学・保健学関係	
	大学院教育学研究科教科教育学専攻 設置	教育学・保健学関係	
	大学院教育学研究科教育臨床心理学専攻 設置	教育学・保健学関係	
	大学院教育学研究科教職実践専攻(教職大学院) 設置	教育学・保健学関係	設置認可(専攻)
平成30年4月	大学院教育学研究科学校教育学専攻 廃止	—	学生募集停止(専攻)
	大学院教育学研究科発達支援学専攻 廃止	—	
	大学院教育学研究科教科教育学専攻 廃止	—	
	大学院教育学研究科教育臨床心理学専攻 廃止	—	
	大学院教育学研究科教職実践専攻(教職大学院) 廃止	—	
	大学院教育学研究科教育科学専攻 設置	教育学・保健学関係	設置届出(専攻)
	大学院教育学研究科教職実践専攻(教職大学院) 設置	教育学・保健学関係	
令和7年4月	大学院教育学研究科教育科学専攻 廃止	—	学生募集停止(専攻)
	大学院教育学研究科教育科学専攻 設置	教育学・保健学関係	設置届出(専攻)

教 育 課 程 等 の 概 要																
(大学院教育学研究科教育科学専攻【既設】)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任(助手を除く)教員	
目 研究 科 共通 通 科	教育科学の理念と今日的課題A	1・2②		1			○			2	1	0	0	0	0	オムニバス
	小計(1科目)	—		—	1	0	0	—		2	1	0	0	0	0	
通 大 学 院 目 院 共	リーダーシップとSDGs	1・2休		2			○			1	0	0	0	0	0	共同
	教育科学プロジェクト研究概論	1・2①		1			○			2	2	0	0	0	0	
	小計(2科目)	—	—	3	0	0	—			3	2	0	0	0	0	
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	課 題 解 決 型 科 目	教育科学の理念と今日的課題B	1・2①		1		○			8	2	0	1	0	0	共同
		教育科学研究の方法(研究・研修上の倫理、法規、行政)	1・2②		1		○			2	1	0	0	0	0	隔年・オムニバス
		教育科学研究の方法(調査法、実験法)	1・2④		1		○			2	0	0	0	0	0	オムニバス
		教育科学研究の方法(教育科学とICT)	1・2④		1		○			1	0	0	0	0	0	
		教育科学研究の方法(教育と地域・起業)	1・2①		1		○			1	2	0	0	0	0	オムニバス
		教育実地展開概論(教育と地域創生)	1・2休		1		○			1	1	0	1	0	0	共同
		教育実地展開概論(家庭生活と教育の多様性)	1・2③		1		○			1	0	0	0	0	0	
		教育実地展開概論(ESD)	1・2④		1		○			0	0	0	1	0	0	
		教育実地展開概論(国際教育比較)	1・2②		1		○			1	2	1	0	0	0	隔年・共同
		教育実地展開概論(教育のグローバル化)	1・2②		1		○			1	1	0	1	0	0	オムニバス
		PBLⅠ	1・2②		1		○			2	2	0	0	0	0	共同
		PBLⅡ	1・2③		1		○			2	2	0	0	0	0	共同
		PBLⅢ	1・2④		1		○			2	2	0	0	0	0	共同
		発達支援研究特論Ⅰ(発達基礎科学A)	1・2①		1		○			2	0	0	0	0	0	隔年・オムニバス
		発達支援研究特論Ⅰ(発達基礎科学B)	1・2②		1		○			2	0	0	0	0	0	隔年・オムニバス
		発達支援研究特論Ⅱ(発達支援の方法論A)	1・2③		1		○			1	0	0	0	0	0	
		発達支援研究特論Ⅱ(発達支援の方法論B)	1・2④		1		○			1	0	0	0	0	0	
		発達支援研究特論Ⅲ(幼児教育学A)	1・2③		1		○			0	1	0	0	0	0	
		発達支援研究特論Ⅲ(幼児教育学B)	1・2④		1		○			0	1	0	0	0	0	
		発達支援研究特論Ⅲ(特別支援教育学A)	1・2①		1		○			1	0	0	0	0	0	
		発達支援研究特論Ⅲ(特別支援教育学B)	1・2②		1		○			1	0	0	0	0	0	
		発達支援研究特論Ⅲ(養護実践学A)	1・2①		1		○			1	0	1	0	0	0	オムニバス
		発達支援研究特論Ⅲ(養護実践学B)	1・2②		1		○			1	0	1	0	0	0	オムニバス
		発達支援研究特論Ⅳ(保育内容学A)	1・2①		1		○			1	0	2	0	0	0	オムニバス
		発達支援研究特論Ⅳ(保育内容学B)	1・2②		1		○			1	0	2	0	0	0	オムニバス
		発達支援研究特論Ⅳ(特別支援実践学A)	1・2①		1		○			1	0	0	0	0	0	
		発達支援研究特論Ⅳ(特別支援実践学B)	1・2②		1		○			1	0	0	0	0	0	
		発達支援研究特論Ⅳ(学校保健医科学A)	1・2①		1		○			2	0	1	0	0	0	オムニバス
		発達支援研究特論Ⅳ(学校保健医科学B)	1・2②		1		○			2	0	1	0	0	0	オムニバス
		発達支援研究特論Ⅴ(幼児教育実践研究A)	1・2③		1				○	2	1	1	0	0	0	オムニバス・共同
		発達支援研究特論Ⅴ(幼児教育実践研究B)	1・2④		1				○	2	1	1	0	0	0	オムニバス・共同
		発達支援研究特論Ⅴ(特別支援教育実践研究A)	1・2①		1		○			2	0	0	0	0	0	オムニバス
		発達支援研究特論Ⅴ(特別支援教育実践研究B)	1・2②		1		○			2	0	0	0	0	0	オムニバス
		発達支援研究特論Ⅴ(特別支援教育実践研究C)	1・2①		1		○			2	0	0	0	0	0	オムニバス
		発達支援研究特論Ⅴ(特別支援教育実践研究D)	1・2②		1		○			2	0	0	0	0	0	オムニバス
		発達支援研究特論Ⅴ(養護教育実践研究A)	1・2①		1		○			1	0	1	0	0	0	オムニバス
		発達支援研究特論Ⅴ(養護教育実践研究B)	1・2②		1		○			1	0	1	0	0	0	オムニバス
	小計(37科目)	—	—	0	37	0	—			23	12	3	3	0	0	
講 義 ・ 演 習 科 目	講 義 ・ 演 習 科 目	教育哲学特論ⅠA	1・2①	1			○			0	1	0	0	0	0	隔年
		教育哲学特論ⅠB	1・2②	1			○			0	1	0	0	0	0	隔年
		教育哲学特論ⅡA	1・2①	1			○			0	1	0	0	0	0	隔年
		教育哲学特論ⅡB	1・2②	1			○			0	1	0	0	0	0	隔年
		教育哲学特論演習A	1・2③	1				○		0	1	0	0	0	0	
		教育哲学特論演習B	1・2④	1				○		0	1	0	0	0	0	
		日本教育史特論ⅠA	1・2①	1			○			1	0	0	0	0	0	隔年
		日本教育史特論ⅠB	1・2②	1			○			1	0	0	0	0	0	隔年
		日本教育史特論ⅡA	1・2①	1			○			1	0	0	0	0	0	隔年
		日本教育史特論ⅡB	1・2②	1			○			1	0	0	0	0	0	隔年
		日本教育史特論演習A	1・2③	1				○		1	0	0	0	0	0	
		日本教育史特論演習B	1・2④	1				○		1	0	0	0	0	0	
		西洋教育史特論ⅠA	1・2①	1			○			1	0	0	0	0	0	隔年
		西洋教育史特論ⅠB	1・2②	1			○			1	0	0	0	0	0	隔年
		西洋教育史特論ⅡA	1・2①	1			○			1	0	0	0	0	0	隔年
		西洋教育史特論ⅡB	1・2②	1			○			1	0	0	0	0	0	隔年
		西洋教育史特論演習A	1・2③	1				○		1	0	0	0	0	0	
		西洋教育史特論演習B	1・2④	1				○		1	0	0	0	0	0	
		学習心理学特論ⅠA	1・2①	1			○			1	0	0	0	0	0	隔年
		学習心理学特論ⅠB	1・2②	1			○			1	0	0	0	0	0	隔年
		学習心理学特論ⅡA	1・2①	1			○			1	0	0	0	0	0	隔年
		学習心理学特論ⅡB	1・2②	1			○			1	0	0	0	0	0	隔年
		学習心理学特論演習A	1・2③	1				○		1	0	0	0	0	0	隔年
		学習心理学特論演習B	1・2④	1				○		1	0	0	0	0	0	隔年
		教育臨床心理学特論A	1・2③	1			○			1	0	0	0	0	0	隔年
		教育臨床心理学特論B	1・2④	1			○			1	0	0	0	0	0	隔年

教 育 課 程 等 の 概 要																
(大学院教育学研究科教育科学専攻【既設】)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任(助手を除く)教員	
	生徒指導特論A	1・2③			1		○			0	1	0	0	0	0	隔年 隔年
	生徒指導特論B	1・2④			1		○			0	1	0	0	0	0	
	生徒指導特論演習A	1・2③			1			○		1	0	0	0	0	0	
	生徒指導特論演習B	1・2④			1			○		1	0	0	0	0	0	
	教育評価法特論ⅠA	1・2休			1		○			0	1	0	0	0	1	隔年・オムニバス
	教育評価法特論ⅠB	1・2休			1		○			0	1	0	0	0	1	隔年・オムニバス
	教育評価法特論ⅡA	1・2休			1		○			0	1	0	0	0	1	隔年・オムニバス
	教育評価法特論ⅡB	1・2休			1		○			0	1	0	0	0	1	隔年・オムニバス
	教育評価法特論演習A	1・2③			1			○		0	0	0	0	0	1	隔年 隔年
	教育評価法特論演習B	1・2④			1			○		0	0	0	0	0	1	
	児童心理学特論ⅠA	1・2①			1		○			0	1	0	0	0	0	
	児童心理学特論ⅠB	1・2②			1		○			0	1	0	0	0	0	
	青年心理学特論ⅠA	1・2③			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年 隔年
	青年心理学特論ⅠB	1・2④			1		○			1	0	0	0	0	0	
	児童心理学特論ⅡA	1・2①			1		○			0	1	0	0	0	0	
	児童心理学特論ⅡB	1・2②			1		○			0	1	0	0	0	0	
	児童心理学特論演習A	1・2③			1			○		0	1	0	0	0	0	隔年
	児童心理学特論演習B	1・2④			1			○		0	1	0	0	0	0	隔年
	青年心理学特論ⅡA	1・2③			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年 隔年
	青年心理学特論ⅡB	1・2④			1		○			1	0	0	0	0	0	
	青年心理学特論演習A	1・2③			1			○		1	0	0	0	0	0	
	青年心理学特論演習B	1・2④			1			○		1	0	0	0	0	0	
	進路指導特論A	1・2①			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	進路指導特論B	1・2②			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育制度特論A	1・2②			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育制度特論B	1・2②			1		○			1	0	0	0	0	0	
	社会教育学特論A	1・2①			1		○			1	0	0	0	0	0	
	社会教育学特論B	1・2①			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育社会学特論ⅠA	1・2③			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育社会学特論ⅠB	1・2④			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育社会学特論ⅡA	1・2③			1		○			2	1	0	0	0	0	隔年・オムニバス
	教育社会学特論ⅡB	1・2④			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育社会学特論演習A	1・2③			1			○		2	1	0	0	0	0	隔年・オムニバス
	教育社会学特論演習B	1・2④			1			○		1	0	0	0	0	0	隔年 隔年 隔年
	教育方法学特論ⅠA	1・2③			1		○			0	1	0	0	0	0	
	教育方法学特論ⅠB	1・2④			1		○			0	1	0	0	0	0	
	教育方法学特論ⅡA	1・2③			1		○			0	1	0	0	0	0	
	教育方法学特論ⅡB	1・2④			1		○			0	1	0	0	0	0	隔年
	教育方法学特論演習A	1・2③			1			○		0	1	0	0	0	0	隔年
	教育方法学特論演習B	1・2④			1			○		0	1	0	0	0	0	
	教育組織特論	1・2③			1		○			4	2	0	0	0	0	オムニバス
	教育組織特論演習	1・2④			1			○		4	2	1	0	0	0	オムニバス
	学校社会学特論ⅠA	1・2③			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	学校社会学特論ⅠB	1・2④			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	学校社会学特論ⅡA	1・2③			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	学校社会学特論ⅡB	1・2④			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論(国語科教育学ⅠA)	1・2①			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論(国語科教育学ⅠB)	1・2②			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論(国語科教育学ⅡA)	1・2①			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論(国語科教育学ⅡB)	1・2②			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論(国語学ⅠA)	1・2①			1		○			0	1	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論(国語学ⅠB)	1・2②			1		○			0	1	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論(国語学ⅡA)	1・2①			1		○			0	1	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論(国語学ⅡB)	1・2②			1		○			0	1	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論(近代文学ⅠA)	1・2③			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論(近代文学ⅠB)	1・2④			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論(近代文学ⅡA)	1・2③			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論(近代文学ⅡB)	1・2④			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論(漢文学ⅠA)	1・2①			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論(漢文学ⅠB)	1・2②			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論(漢文学ⅡA)	1・2①			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論(漢文学ⅡB)	1・2②			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論(社会科教育学ⅠA)	1・2①			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論(社会科教育学ⅠB)	1・2②			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論演習(社会科教育学ⅠA)	1・2③			1			○		1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論演習(社会科教育学ⅠB)	1・2④			1			○		1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論(社会科教育学ⅡA)	1・2①			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年 隔年 隔年
	教育科学特論(社会科教育学ⅡB)	1・2②			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論演習(社会科教育学ⅡA)	1・2③			1			○		1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論演習(社会科教育学ⅡB)	1・2④			1			○		1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論(日本史ⅠA)	1・2①			1		○			1	0	0	0	0	0	

教 育 課 程 等 の 概 要																
(大学院教育学研究科教育科学専攻【既設】)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任(助手を以て除く)教員	
	教育科学特論（日本史ⅠB）	1・2②			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論演習（日本史ⅠA）	1・2①			1			○		1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論演習（日本史ⅠB）	1・2②			1			○		1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論（日本史ⅡA）	1・2③			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論（日本史ⅡB）	1・2④			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論演習（日本史ⅡA）	1・2③			1			○		1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論演習（日本史ⅡB）	1・2④			1			○		1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論（世界史ⅠA）	1・2①			1		○			0	0	0	1	0	0	
	教育科学特論（世界史ⅠB）	1・2②			1		○			0	0	0	1	0	0	
	教育科学特論演習（世界史ⅠA）	1・2①			1			○		0	0	0	1	0	0	
	教育科学特論演習（世界史ⅠB）	1・2②			1			○		0	0	0	1	0	0	
	教育科学特論（世界史ⅡA）	1・2③			1		○			0	0	0	1	0	0	
	教育科学特論（世界史ⅡB）	1・2④			1		○			0	0	0	1	0	0	
	教育科学特論演習（世界史ⅡA）	1・2③			1			○		0	0	0	1	0	0	
	教育科学特論演習（世界史ⅡB）	1・2④			1			○		0	0	0	1	0	0	
	教育科学特論（自然地理学ⅠA）	1・2①			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論（自然地理学ⅠB）	1・2②			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論演習（自然地理学ⅠA）	1・2①			1			○		1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論演習（自然地理学ⅠB）	1・2②			1			○		1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論（自然地理学ⅡA）	1・2③			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論（自然地理学ⅡB）	1・2④			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論演習（自然地理学ⅡA）	1・2③			1			○		1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論演習（自然地理学ⅡB）	1・2④			1			○		1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論（政治学ⅠA）	1・2①			1		○			0	1	0	0	0	0	
	教育科学特論（政治学ⅠB）	1・2②			1		○			0	1	0	0	0	0	
	教育科学特論演習（政治学ⅠA）	1・2①			1			○		0	1	0	0	0	0	
	教育科学特論演習（政治学ⅠB）	1・2②			1			○		0	1	0	0	0	0	
	教育科学特論（政治学ⅡA）	1・2③			1		○			0	1	0	0	0	0	
	教育科学特論（政治学ⅡB）	1・2④			1		○			0	1	0	0	0	0	
	教育科学特論演習（政治学ⅡA）	1・2③			1			○		0	1	0	0	0	0	
	教育科学特論演習（政治学ⅡB）	1・2④			1			○		0	1	0	0	0	0	
	教育科学特論（経済学ⅠA）	1・2①			1		○			0	1	0	0	0	0	
	教育科学特論（経済学ⅠB）	1・2②			1		○			0	1	0	0	0	0	
	教育科学特論演習（経済学ⅠA）	1・2①			1			○		0	1	0	0	0	0	
	教育科学特論演習（経済学ⅠB）	1・2②			1			○		0	1	0	0	0	0	
	教育科学特論（経済学ⅡA）	1・2③			1		○			0	1	0	0	0	0	
	教育科学特論（経済学ⅡB）	1・2④			1		○			0	1	0	0	0	0	
	教育科学特論演習（経済学ⅡA）	1・2③			1			○		0	1	0	0	0	0	
	教育科学特論演習（経済学ⅡB）	1・2④			1			○		0	1	0	0	0	0	
	教育科学特論（倫理学ⅠA）	1・2①			1		○			0	1	0	0	0	0	
	教育科学特論（倫理学ⅠB）	1・2②			1		○			0	1	0	0	0	0	
	教育科学特論（倫理学ⅡA）	1・2③			1		○			0	1	0	0	0	0	
	教育科学特論（倫理学ⅡB）	1・2④			1		○			0	1	0	0	0	0	
	教育科学特論（代数学ⅠA）	1・2①			1		○			0	1	0	0	0	0	
	教育科学特論（代数学ⅠB）	1・2②			1		○			0	1	0	0	0	0	
	教育科学特論（代数学ⅡA）	1・2③			1		○			0	1	0	0	0	0	
	教育科学特論（代数学ⅡB）	1・2④			1		○			0	1	0	0	0	0	
	教育科学特論（代数学ⅢA）	1・2①			1		○			0	1	0	0	0	0	
	教育科学特論（代数学ⅢB）	1・2②			1		○			0	1	0	0	0	0	
	教育科学特論（代数学ⅣA）	1・2③			1		○			0	1	0	0	0	0	
	教育科学特論（代数学ⅣB）	1・2④			1		○			0	1	0	0	0	0	
	教育科学特論（幾何学ⅠA）	1・2①			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論（幾何学ⅠB）	1・2②			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論（幾何学ⅡA）	1・2③			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論（幾何学ⅡB）	1・2④			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論（解析学ⅢA）	1・2①			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論（解析学ⅢB）	1・2②			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論（解析学ⅣA）	1・2③			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論（解析学ⅣB）	1・2④			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論演習（数学ⅠA）	1・2①			1			○		0	1	0	0	0	0	
	教育科学特論演習（数学ⅠB）	1・2③			1			○		0	1	0	0	0	0	
	教育科学特論演習（数学ⅠC）	1・2①			1			○		1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論演習（数学ⅠE）	1・2③			1			○		1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論演習（数学ⅡA）	1・2②			1			○		0	1	0	0	0	0	
	教育科学特論演習（数学ⅡB）	1・2④			1			○		0	1	0	0	0	0	
	教育科学特論演習（数学ⅡC）	1・2②			1			○		1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論演習（数学ⅡE）	1・2④			1			○		1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論（理科教育学ⅠA）	1・2①②③④			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論（理科教育学ⅠB）	1・2①②③④			1		○			0	1	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論（理科教育学ⅡA）	1・2①②③④			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論（理科教育学ⅡB）	1・2①②③④			1		○			0	1	0	0	0	0	隔年

教 育 課 程 等 の 概 要																
(大学院教育学研究科教育科学専攻【既設】)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任(助手を 教員を除く)	
	教育科学特論演習 (理科教育学A)	1・2①②③④			1			○		1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論演習 (理科教育学B)	1・2①②③④			1			○		0	1	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (物理学ⅠA)	1・2①			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (物理学ⅠB)	1・2②			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (物理学ⅡA)	1・2①②③④			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (物理学ⅡB)	1・2①②③④			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論演習 (物理学ⅡA)	1・2①②③④			1			○		1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論演習 (物理学ⅡB)	1・2①②③④			1			○		1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (物理学ⅢA)	1・2③			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (物理学ⅢB)	1・2④			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (物理学ⅣA)	1・2③			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (物理学ⅣB)	1・2④			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論演習 (物理学ⅢA)	1・2①②③④			1			○		1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論演習 (物理学ⅢB)	1・2①②③④			1			○		1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (有機化学ⅠA)	1・2③			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (有機化学ⅠB)	1・2④			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (有機化学ⅡA)	1・2③			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (有機化学ⅡB)	1・2④			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論演習 (分析化学A)	1・2①②③④			1			○		1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論演習 (分析化学B)	1・2①②③④			1			○		1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (無機化学A)	1・2①②③④			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (無機化学B)	1・2①②③④			1					1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論演習 (無機化学A)	1・2①②③④			1			○		1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論演習 (無機化学B)	1・2①②③④			1			○		1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (物理化学A)	1・2①②③④			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (物理化学B)	1・2①②③④			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論演習 (物理化学A)	1・2①②③④			1			○		1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論演習 (物理化学B)	1・2①②③④			1			○		1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (生物化学ⅠA)	1・2③			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (生物化学ⅠB)	1・2④			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (生物化学ⅡA)	1・2③			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (生物化学ⅡB)	1・2③			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (動物学ⅠA)	1・2③			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (動物学ⅠB)	1・2④			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (動物学ⅡA)	1・2③			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (動物学ⅡB)	1・2④			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論演習 (動物学A)	1・2①②③④			1			○		1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論演習 (動物学B)	1・2①②③④			1			○		1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (植物学ⅠA)	1・2③			1		○			0	1	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (植物学ⅠB)	1・2④			1		○			0	1	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論演習 (植物学A)	1・2①②③④			1			○		0	1	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論演習 (植物学B)	1・2①②③④			1			○		0	1	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (植物学ⅡA)	1・2③			1		○			0	1	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (植物学ⅡB)	1・2④			1		○			0	1	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (固体地球科学A)	1・2①②③④			1		○			0	0	0	1	0	0	隔年
	教育科学特論 (固体地球科学B)	1・2①②③④			1		○			0	0	0	1	0	0	隔年
	教育科学特論演習 (固体地球科学A)	1・2①②③④			1			○		0	0	0	1	0	0	隔年
	教育科学特論演習 (固体地球科学B)	1・2①②③④			1			○		0	0	0	1	0	0	隔年
	教育科学特論 (流体地球科学ⅠA)	1・2③			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (流体地球科学ⅠB)	1・2④			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (流体地球科学ⅡA)	1・2③			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (流体地球科学ⅡB)	1・2④			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論演習 (流体地球科学A)	1・2①②③④			1			○		1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論演習 (流体地球科学B)	1・2①②③④			1			○		1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (音楽科教育学ⅠA)	1・2③			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (音楽科教育学ⅠB)	1・2④			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (音楽科教育学ⅡA)	1・2③			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (音楽科教育学ⅡB)	1・2④			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (音楽科教育学ⅢA)	1・2③			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (音楽科教育学ⅢB)	1・2④			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (音楽科教育学ⅣA)	1・2③			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (音楽科教育学ⅣB)	1・2④			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (声楽ⅠA)	1・2①			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (声楽ⅠB)	1・2②			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (声楽ⅡA)	1・2①			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (声楽ⅡB)	1・2②			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (器楽ⅠA)	1・2③			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (器楽ⅠB)	1・2④			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (器楽ⅡA)	1・2③			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (器楽ⅡB)	1・2④			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育科学特論 (器楽ⅢA)	1・2③			1		○			0	1	0	0	0	0	隔年

教 育 課 程 等 の 概 要																
(大学院教育学研究科教育学専攻【既設】)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任(助手を 教員以外を除く) 教員	
	教育学特論 (器楽ⅢB)	1・2④			1		○			0	1	0	0	0	0	隔年
	教育学特論 (器楽ⅣA)	1・2③			1		○			0	1	0	0	0	0	隔年
	教育学特論 (器楽ⅣB)	1・2④			1		○			0	1	0	0	0	0	隔年
	教育学特論 (美術科教育学ⅠA)	1・2③			1		○			2	0	0	0	0	0	隔年・共同
	教育学特論 (美術科教育学ⅠB)	1・2④			1		○			2	0	0	0	0	0	隔年・共同
	教育学特論 (美術科教育学ⅡA)	1・2③			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育学特論 (美術科教育学ⅡB)	1・2④			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育学特論 (美術科教育学ⅢA)	1・2③			1		○			0	0	0	1	0	0	隔年
	教育学特論 (美術科教育学ⅢB)	1・2④			1		○			0	0	0	1	0	0	隔年
	教育学特論 (美術科教育学ⅣA)	1・2③			1		○			0	0	0	1	0	0	隔年
	教育学特論 (美術科教育学ⅣB)	1・2④			1		○			0	0	0	1	0	0	隔年
	教育学特論 (美術科教育学ⅤA)	1・2①			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育学特論 (美術科教育学ⅤB)	1・2②			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育学特論 (美術科教育学ⅥA)	1・2①			1		○			0	0	0	1	0	0	
	教育学特論 (美術科教育学ⅥB)	1・2②			1		○			0	0	0	1	0	0	
	教育学特論 (美術科教育学ⅦA)	1・2③			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育学特論 (美術科教育学ⅦB)	1・2④			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育学特論 (平面造形ⅠA)	1・2①			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育学特論 (平面造形ⅠB)	1・2②			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育学特論 (平面造形ⅡA)	1・2①			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育学特論 (平面造形ⅡB)	1・2②			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育学特論 (立体造形ⅠA)	1・2①			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育学特論 (立体造形ⅠB)	1・2②			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育学特論 (立体造形ⅡA)	1・2①			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育学特論 (立体造形ⅡB)	1・2②			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育学特論 (立体造形ⅢA)	1・2③			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育学特論 (立体造形ⅢB)	1・2④			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育学特論 (美術理論・美術史A)	1・2②			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育学特論 (美術理論・美術史B)	1・2③			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	教育学特論 (美術理論・鑑賞A)	1・2①②③④			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育学特論 (美術理論・鑑賞B)	1・2①②③④			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育学特論 (保健体育科教育学ⅠA)	1・2③			1		○			0	1	0	0	0	0	
	教育学特論 (保健体育科教育学ⅠB)	1・2④			1		○			0	1	0	0	0	0	
	教育学特論 (保健体育科教育学ⅡA)	1・2③			1		○			0	1	0	0	0	0	
	教育学特論 (保健体育科教育学ⅡB)	1・2④			1		○			0	1	0	0	0	0	
	教育学特論 (体育学A)	1・2①			1		○			0	0	0	1	0	0	
	教育学特論 (体育学B)	1・2②			1		○			0	0	0	1	0	0	
	教育学特論演習 (体育学A)	1・2③			1			○		0	0	0	1	0	0	
	教育学特論演習 (体育学B)	1・2④			1			○		0	0	0	1	0	0	
	教育学特論 (運動学ⅠA)	1・2①			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育学特論 (運動学ⅠB)	1・2②			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育学特論演習 (運動学ⅠA)	1・2③			1			○		1	0	0	0	0	0	
	教育学特論演習 (運動学ⅠB)	1・2④			1			○		1	0	0	0	0	0	
	教育学特論 (運動学ⅢA)	1・2①			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育学特論 (運動学ⅢB)	1・2②			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育学特論演習 (運動学ⅢA)	1・2③			1			○		1	0	0	0	0	0	
	教育学特論演習 (運動学ⅢB)	1・2④			1			○		1	0	0	0	0	0	
	教育学特論 (学校保健学A)	1・2①			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育学特論 (学校保健学B)	1・2②			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育学特論 (技術科教育学ⅠA)	1・2①			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育学特論 (技術科教育学ⅠB)	1・2②			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育学特論 (技術科教育学ⅡA)	1・2③			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育学特論 (技術科教育学ⅡB)	1・2④			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育学特論 (機械ⅠA)	1・2①			1		○			0	1	0	0	0	0	
	教育学特論 (機械ⅠB)	1・2②			1		○			0	1	0	0	0	0	
	教育学特論 (機械ⅡA)	1・2③			1		○			0	1	0	0	0	0	
	教育学特論 (機械ⅡB)	1・2④			1		○			0	1	0	0	0	0	
	教育学特論 (電気ⅠA)	1・2①			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育学特論 (電気ⅠB)	1・2②			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育学特論 (電気ⅡA)	1・2③			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育学特論 (電気ⅡB)	1・2④			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育学特論 (情報ⅠA)	1・2①			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育学特論 (情報ⅠB)	1・2②			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育学特論 (情報ⅡA)	1・2③			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育学特論 (情報ⅡB)	1・2④			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育学特論 (家庭科教育学ⅠA)	1・2③			1		○			0	0	0	1	0	0	
	教育学特論 (家庭科教育学ⅠB)	1・2④			1		○			0	0	0	1	0	0	
	教育学特論 (家庭経営学A)	1・2③			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育学特論 (家庭経営学B)	1・2④			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育学特論 (家族関係学ⅠA)	1・2①			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育学特論 (家族関係学ⅠB)	1・2②			1		○			1	0	0	0	0	0	

教 育 課 程 等 の 概 要																
(大学院教育学研究科教育科学専攻【既設】)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任（助手を 教員以外を除く）	
	教育科学特論（家族関係学ⅡA）	1・2③			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論（家族関係学ⅡB）	1・2④			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論（食物科学ⅠA）	1・2①			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論（食物科学ⅠB）	1・2②			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論（食物科学ⅡA）	1・2③			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論（食物科学ⅡB）	1・2④			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論（食物科学ⅢA）	2①			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論（食物科学ⅢB）	2②			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論（被服科学ⅠA）	1・2①			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論（被服科学ⅠB）	1・2②			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論（被服科学ⅡA）	1・2③			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論（被服科学ⅡB）	1・2④			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論実験（被服科学A）	1・2③			1				○	1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論実験（被服科学B）	1・2④			1				○	1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論（英語科教育学ⅠA）	1・2①			1		○			0	1	0	0	0	0	
	教育科学特論（英語科教育学ⅠB）	1・2②			1		○			0	1	0	0	0	0	
	教育科学特論（英語科教育学ⅡA）	1・2③			1		○			0	1	0	0	0	0	
	教育科学特論（英語科教育学ⅡB）	1・2④			1		○			0	1	0	0	0	0	
	教育科学特論（英語学ⅠA）	1・2①			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論（英語学ⅠB）	1・2②			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論（英語学ⅡA）	1・2③			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論（英語学ⅡB）	1・2④			1		○			1	0	0	0	0	0	
	教育科学特論（英米文学ⅠA）	1・2①			1		○			0	1	0	0	0	0	
	教育科学特論（英米文学ⅠB）	1・2②			1		○			0	1	0	0	0	0	
	教育科学特論（英米文学ⅡA）	1・2③			1		○			0	1	0	0	0	0	
	教育科学特論（英米文学ⅡB）	1・2④			1		○			0	1	0	0	0	0	
	P B L 特論Ⅰ	1①			1		○			11	7	1	1	0	0	共同
	P B L 特論Ⅱ	1②			1		○			12	4	1	1	0	0	共同
	P B L 特論Ⅲ	1③			1		○			13	4	1	1	0	0	共同
	P B L 特論Ⅳ	1④			1		○			13	4	1	1	0	0	共同
	P B L 特論Ⅴ	2①			1		○			13	4	1	1	0	0	共同
	P B L 特論Ⅵ	2②			1		○			13	4	1	1	0	0	共同
	P B L 特論Ⅶ	2③			1		○			13	4	1	1	0	0	共同
	P B L 特論Ⅷ	1・2④			1		○			12	4	1	1	0	0	共同
	保育内容特論（造形表現A）	1・2③			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	保育内容特論（造形表現B）	1・2④			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	保育内容特論演習（造形表現A）	1・2③			1			○		1	0	0	0	0	0	隔年
	保育内容特論演習（造形表現B）	1・2④			1			○		1	0	0	0	0	0	隔年
	保育内容特論（健康A）	1・2①			1		○			0	0	1	0	0	0	隔年
	保育内容特論（健康B）	1・2②			1		○			0	0	1	0	0	0	隔年
	保育内容特論演習（健康A）	1・2①			1			○		0	0	1	0	0	0	隔年
	保育内容特論演習（健康B）	1・2②			1			○		0	0	1	0	0	0	隔年
	保育内容特論（人間関係A）	1・2③			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	保育内容特論（人間関係B）	1・2④			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	保育内容特論演習（人間関係A）	1・2③			1			○		1	0	0	0	0	0	隔年
	保育内容特論演習（人間関係B）	1・2④			1			○		1	0	0	0	0	0	隔年
	幼児教育学特論A	1・2①			1		○			0	1	0	0	0	0	隔年
	幼児教育学特論B	1・2②			1		○			0	1	0	0	0	0	隔年
	幼児教育学特論演習A	1・2①			1			○		0	1	0	0	0	0	隔年
	幼児教育学特論演習B	1・2②			1			○		0	1	0	0	0	0	隔年
	幼児心理学特論A	1・2①			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	幼児心理学特論B	1・2②			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	幼児心理学特論演習A	1・2①			1			○		1	0	0	0	0	0	隔年
	幼児心理学特論演習B	1・2②			1			○		1	0	0	0	0	0	隔年
	特別支援教育学演習A	1・2③			1			○		1	0	0	0	0	0	
	特別支援教育学演習B	1・2④			1			○		1	0	0	0	0	0	
	特別支援実践学演習A	1・2③			1			○		1	0	0	0	0	0	隔年
	特別支援実践学演習B	1・2④			1			○		1	0	0	0	0	0	隔年
	特別支援授業論特論A	1・2③			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	特別支援授業論特論B	1・2④			1		○			1	0	0	0	0	0	隔年
	特別支援心理学特論A	1・2①			1		○			0	1	0	0	0	0	
	特別支援心理学特論B	1・2②			1		○			0	1	0	0	0	0	
	特別支援心理学演習A	1・2③			1			○		0	1	0	0	0	0	
	特別支援心理学演習B	1・2④			1			○		0	1	0	0	0	0	
	特別支援病理学特論A	1・2①			1		○			1	0	0	0	0	0	
	特別支援病理学特論B	1・2②			1		○			1	0	0	0	0	0	
	特別支援病理学演習A	1・2③			1			○		1	0	0	0	0	0	隔年
	特別支援病理学演習B	1・2④			1			○		1	0	0	0	0	0	隔年
	特別支援教育臨床特論A	1・2①			1		○			1	0	0	0	0	0	
	特別支援教育臨床特論B	1・2②			1		○			1	0	0	0	0	0	
	特別支援教育総合演習A	1・2①			1			○		4	0	0	0	0	0	オムニバス

教 育 課 程 等 の 概 要																			
(大学院教育学研究科教育科学専攻【既設】)																			
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考		
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任(助手を除く)教員			
		特別支援教育総合演習B	1・2②			1				○		4	0	0	0	0	0	オムニバス オムニバス オムニバス	
		特別支援教育総合演習C	1・2③			1				○		4	0	0	0	0	0		
		特別支援教育総合演習D	1・2④			1				○		4	0	0	0	0	0		0
		養護実践学特論(養護教諭論A)	1・2①			1				○		1	0	0	0	0	0		0
		養護実践学特論(養護教諭論B)	1・2②			1				○		1	0	0	0	0	0		0
		養護実践学特論演習(養護教諭論A)	1・2③			1				○		1	0	0	0	0	0		0
		養護実践学特論演習(養護教諭論B)	1・2④			1				○		1	0	0	0	0	0		0
		養護実践学特論(学校保健学A)	1・2①			1				○		0	0	1	0	0	0		0
		養護実践学特論(学校保健学B)	1・2②			1				○		0	0	1	0	0	0		0
		養護実践学特論演習(学校保健学A)	1・2③			1				○		0	0	1	0	0	0		0
		養護実践学特論演習(学校保健学B)	1・2④			1				○		0	0	1	0	0	0		0
		学校保健医科学特論(健康科学A)	1・2①			1				○		0	0	1	0	0	0		0
		学校保健医科学特論(健康科学B)	1・2②			1				○		0	0	1	0	0	0		0
		学校保健医科学特論演習(健康科学A)	1・2③			1				○		0	0	1	0	0	0		0
		学校保健医科学特論演習(健康科学B)	1・2④			1				○		0	0	1	0	0	0		0
		学校保健医科学特論(環境と健康A)	1・2③			1				○		1	0	0	0	0	0		0
		学校保健医科学特論(環境と健康B)	1・2④			1				○		1	0	0	0	0	0		0
		学校保健医科学特論演習(環境と健康A)	1・2③			1				○		1	0	0	0	0	0		0
		学校保健医科学特論演習(環境と健康B)	1・2④			1				○		1	0	0	0	0	0		0
		グローバル・プレゼンテーション1	1・2①②③④			1				○		1	0	0	0	0	0		0
		グローバル・プレゼンテーション2	1・2①②③④			1				○		1	0	0	0	0	0		0
					小計(402科目)	—	—	0	402	0		—		51	21	4	5		0
大学院 共通科目 (課題研究)	教育科学課題研究	1・2①②③④		4					○		42	17	3	4	0	0			
	小計(1科目)	—			—	4	0	0		—		42	17	3	4	0	0		
合計(443科目)			—	—	8	439	0		—		54	25	4	7	0	2			
学位又は称号		修士(教育学)			学位又は学科の分野			教育学・保育学関係											
卒業・修了要件及び履修方法										授業期間等									
(教育学学位プログラム) 【修了要件】 1. 2年以上在学し、34単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、研究科の行う学位論文の審査及び最終試験に合格する。 2. 研究科共通科目において、1単位を修得する。 3. 大学院共通科目において、3単位を修得する。 4. プログラム専門科目の課題解決型科目において、10単位を修得する。 5. プログラム専門科目の講義・演習科目において、16単位を修得する。 6. 大学院共通科目(課題研究)において、4単位を修得する。 【履修方法】 指導教員の指導のもとに年間の履修計画を立て、指定された期間に履修登録を行い、必ず登録の確認を行うこと。										1 学年の学期区分				4期					
										1 学期の授業期間				8週					
										1 時限の授業の標準時間				50分					

授 業 科 目 の 概 要				
(大学院教育学研究科教育科学専攻)				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
研究 科 共 通 科 目	教育科学の理念と今日的課題A		今日の教育が抱える諸問題に関して理論的見地から検討を加えるための基礎的な教養を培い、広く教育にかかわる専門職にふさわしい知見の獲得をめざして： （1）教育の意義と本質、教育事象の科学的・学問的な探究方法について、 （2）教育観の変遷、学校と教師を中心とした教育の歴史的展開、（3）それに対応した教育学・教育科学の発展・変遷、などに関わるトピックを取り上げる。 授業は、講義・文献講読・討議を組み合わせ実施する。オムニバス方式（全15回）（13 尾上雅信/5回）教育科学の成立と発展（西洋編）（15 梶井一暁/5回）教育科学の成立と発展（日本編）（48 平田仁胤/5回）教育と教育科学	オムニバス
大 学 院 共 通 科 目	リーダーシップとSDGs		本科目では、リーダーシップについて基礎的かつ学際的な理解を深めることを目的としています。リーダーシップ理論や種類について学習するとともに、リーダーシップ研究における最新の動向について、またリーダーシップに関する現代の課題についてケーススタディを用いて議論します。受講者自身のリーダーシップのあり方を考え、必要な能力の開発を通して、SDGs課題の解決に活かせることができるようになります。	
	教育科学プロジェクト研究概論		教育科学によって、幸福な社会を築くためには、その社会を構成する多様な知見を活用し、課題を設定し、解決に向かうPBL（Project-Based Learning）を基盤とした研究が不可欠である。従って教育科学の研究者としての資質・能力の一端は、地域社会での主体的で実践的な研究基盤から、他者の価値を見出し、共有し、新たな価値づけをするプロセスの中で培うことができるともいえる。本授業では、社会の中の諸問題の中から教育科学として「課題」を見出し、その解決に向けて自己の研究をPBLとして価値づけし、以降の教育科学専攻の研究指針を立てる。	共同
	教育データサイエンス実践インターンシップI		専門分野での学びを社会実装等に繋ぐための統合型演習科目であり、大学院共通科目の「プロジェクト・マネジメント演習」科目である。企業等との協業によるプロジェクト体験を通して、データサイエンスに関する専門分野での学びを深め、教育とデータサイエンスの新たな価値について学ぶ。45時間の学修をもって1単位とする。 実際の企業の事例や調査データ、地域の生データを用いた具体的な問題を採用した課題発見・解決型の演習をおこなうことを目標としており、研究員（企業社員）による演習や業界のスペシャリストによる最先端の講義等を取り入れ専門分野を超えたグループワークをベースとする。既存の数学的理論や数理モデルを活用するのみでなく、現象の解明の課程で新たな理論やモデルを生み出すことにも挑戦する。	
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	教育科学の理念と今日的課題B		修士課程に入学したばかりの学生へのガイダンス授業である。教員による修士時代の研究生活の紹介を通じて、研究テーマ、修士論文作成の課題と展望について理解する。併せて専門分野からみた教育の現在に関する講話を通して、教育研究活動に対する意識付けを行う。	共同
	教育科学研究の方法（研究・研修上の倫理、法規、行政）		（オムニバス方式／全15回）学校教育での研究活動においては、未成年である子どもを対象とすることも多く、十分な倫理的配慮のもと実施されなければならない。研究者の責務として、子どもの権利の尊重、自由意思による同意、個人情報の保護、研究の倫理的妥当性および科学的合理性の確保、利益相反の管理等に努めることが求められていることについて理解する。 特に、授業初日に学生それぞれが設定したテーマにより研究をデザインしたうえで、研究・研修上の倫理・法規・行政に関する専門的な事項について理解を深め、最終日に各自の研究デザインの見直しを行う。 [41 高田宏史／担当7回]教育研究の専門性を踏まえ、インフォームドコンセプトやストックホルム宣言などについて学び、研究倫理・生命倫理について研究不正例や倫理的問題がある事例を紹介し、どのような対応をすべきか解決方法を考える。[67 高瀬淳／担当8回]教育研究活動の公共性を踏まえ、より高い倫理観に基づく取り組みが求められる教育関係者として、教育問題をめぐる法規や制度について学び、自らの社会的責任を認識し、保護者・地域住民の信頼に応える社会規範の遵守（コンプライアンス）にかかる理解を深める。	隔年・オムニバス

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学研究の方法（調査法、実験法）		人間の行動データを厳密に収集する方法は、心理学の領域で古くから研究されている。本授業では、その方法を調査法と実験法に分けて概説する他、ICTを活用し教育分野で収集され始めた大量の行動データ（教育ビッグデータ）を用いた研究法を紹介する。どの方法も本格的に利用できるようにするためには、かなりの学習が必要となるが、本授業はその入門的な位置付となる。 （オムニバス方式／全15回）（26 寺澤孝文／7.5回）実験法に関する講義と全体まとめ（33 三宅幹子／7.5回）調査法に関する講義	オムニバス
	教育科学研究の方法（教育科学とICT）		インターネットの普及と情報技術の進化は、教育・学習をより効果的にする様々な可能性を含んでいる。同時に、インターネットや情報技術の活用には危険も多い。児童・生徒や教師自身が安全にこれらの技術を活用するために、情報倫理の基礎知識について理解する。これらの知識を前提に、最新の情報技術について理解するとともに、安全により効果的にICTを活用する方法について、実践的に学ぶ。	
	教育科学研究の方法（教育と地域・起業）		（オムニバス方式／全15回）教育科学の成果を理解したうえで、教育の地域社会に果たすべき役割や、地域社会や地域の企業・団体と学校や大学の連携についての実例を、学校教育を通して学ぶ（21 桑原敏典／7回）。上記について、学童保育を通して学ぶ（78 中山芳一／全6回）。上記について、スポーツ経営学を通して学ぶ（77 高岡教史／2回）。	オムニバス
	教育実地展開概論（教育と地域創生）		本講義ではまず、「学校教育の構成と地域芸術文化資源」について考えます。実際に岡山に存在する多様な芸術文化資源についての情報を整理し、それらを活用した取り組みについて、実践例の報告を受けたうえで、ディスカッションを通して現状と課題を認識し、地域との連携・協働のあり方について検討し、「コミュニティに向けた地域芸術文化資源活用」について考えます。受講生が主体的にコミュニティと関わり、地域芸術文化資源を活用した既存の教育プログラムの実践に取り組む企画を考えるため、公益財団が地域の社会活動に対して行う助成申請のフォーマットを利用した企画開発を行います。	共同
	教育実地展開概論（家庭生活と教育の多様性）		本講義では、統計や事例に基づいて日本の家族の変化と変化に伴う家庭生活の変容を確認する。また、さまざまな環境における子どもに対する教育上の配慮と支援について、子どもの貧困、児童虐待、社会的養護の観点から実情を確認し、解決課題を見出す。その上、家庭、学校、地域社会は、どのような支援を行うことができるかを考える。	
	教育実地展開概論（ESD）		新学力観への理解を深めるため、および、教育の社会的役割を多面的に理解する視点を養うために、教育の変革を通じて人類共通の課題である持続可能な社会を実現しようとするESDについて、その理念と方法を踏まえ、多様な場で、多様なネットワークを介して多様な学びが実践され、具体的成果をあげていることを学ぶ。その際、当該学習の過程で、社会変化の担い手としての学習者の価値観と行動の変容を企図する。	
	教育実地展開概論（国際教育比較）		グローバルな教育課題を具体的な事例や研究例を元にその課題の解決策を探究する。日本を含め、世界の最新の教育動向と先進国ならびに途上国における教育課題について理解を深め、比較しながらグローバルな教育課題を明らかにする。また直接国際教育支援に関わっている教員から各国の教育課題の現状や資料の提示を行う。	隔年・共同
	教育実地展開概論（教育のグローバル化）		（オムニバス方式／全15回）教育科学の成果を理解したうえで、グローバル化の進展にともない学校や地域において生じている様々な問題や、その問題の解決のために行われている政策の実例を、国際バカロレア（IB）を通して学ぶ（79 MAHMOOD SABINA／4回）、上記についてグローバル・シティズンシップ教育（GCED）を通して学ぶ（21 桑原敏典／7回）。上記について、ボランティア学習、多文化教育などを通して学ぶ（62 柴川弘子／4回）。	オムニバス
	P B L I		受講生が、研究分野や母国語が異なるメンバーでPBL（Project Based Learning）をつくり、「創造性の追究」と「チーム学習による資質・能力の向上」の2つのアプローチから社会の中の問題から、教育的課題を設定し達成目標を設定する。	共同
	P B L II		受講生が、PBL I で構成したチームがそれぞれに設定した目標達成のため、フィールド調査、データ検証、プロジェクト事業の実施と省察を行い、チームメンバーの研究者としての成長を相互評価する。	共同

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	P B L III		受講生が、PBL I、II で学修した成果をまとめて最終プレゼンテーションを行い、各チームの成果と課題について検討を行う。	共同
	発達支援研究特論Ⅰ（発達基礎科学A）		生涯発達における乳幼児期の心身の発達の特徴を概説すると共に、受講生が子どもの育ちや子育てを取り巻く環境における現代的な課題を見出し、提示、討議等を通して、乳幼児期の健やかな心身の発達に資する支援のあり方について理解を深める。（オムニバス方式／全15回） （17 片山美香／5回）生涯発達における乳幼児期の心理社会的な発達について概説すると共に、受講生が子どもの育ちや子育てを取り巻く環境における現代的な課題を見出し、提示、討議等を通して、乳幼児期の健やかな心身の発達に資する支援のあり方について理解を深める。 （12 大守伊織／10回）脳の発生・発達と構造・機能、脳性麻痺について概説し、インクルーシブ教育や医療的ケアへの理解と支援の在り方について実践的に理解を深める。さらに、発達障害の病理と育てにくさの要因について概説し、乳幼児期からの健やかな心身の発達に資する支援のあり方について理解を深める。	隔年・オムニバス
	発達支援研究特論Ⅰ（発達基礎科学B）		幼児期後期から学齢期の心身の発達の概要、及び健やかな発育・発達に関する基本的理解を深める。 （オムニバス方式／全15回） （17 片山美香／5回）生涯発達における幼児期後期から児童期の心理社会的な発達の特徴を概説すると共に、健やかな育ちに資する支援のあり方について共に考える。 （71 三村由香里／10回）身体的発育発達に関する基本的な知識、及び関連する疾患について取り上げ、必要な生理学・病理学的知識の習得を図る。	隔年・オムニバス
	発達支援研究特論Ⅲ（幼児教育学A）		児童中心主義の幼児教育論及び幼児カリキュラム論の基本的考え方について理解した上で、今日の日本における幼児カリキュラム論を検討する。	
	発達支援研究特論Ⅲ（幼児教育学B）		系統主義の幼児教育論及び幼児カリキュラム論の基本的考え方について理解した上で、今日の日本における幼児カリキュラム論を検討する。	
	発達支援研究特論Ⅲ（養護実践学A）		養護と学校保健の概念や制度、歴史について概説したうえで養護実践のあり方について討議検討を行う。 （オムニバス方式／全8回） （60 山内愛 4回）学校保健活動の講義を通して、教育職員としての養護教諭の基本原則と実践活動について概説するとともに、その内容の討議を行う。 （18 上村弘子 4回）養護の概念および制度の歴史に基づき、養護実践を検討する。	オムニバス
	発達支援研究特論Ⅲ（養護実践学B）		子供の課題に応じた養護実践と学校保健活動について概説したうえで養護実践のあり方について討議検討を行う。 （オムニバス方式／全8回） （60 山内愛 4回）養護実践の講義を通して、教育職員としての養護教諭の基本原則と実践活動について概説するとともに、その内容の討議を行う。 （18 上村弘子 4回）子供の課題に応じた養護実践を省察する方法を検討する	オムニバス
	発達支援研究特論Ⅳ（学校保健医科学A）		子供の発達過程や健康の成立とその支援法の講義を通して、養護実践や学校保健の推進に必要な医学・看護学の理論について概説するとともに、その内容の討議を行う。特に、小児保健と公衆衛生の視点から学ぶ。 （オムニバス方式／全15回）（59 津島愛子／5回）子供の発達過程とその支援法（8 伊藤武彦／5回）環境と子供の健康（70 松枝睦美／5回）学校救急処置	オムニバス
	発達支援研究特論Ⅳ（学校保健医科学B）		子供の発達過程や健康の成立とその支援法の講義を通して、養護実践や学校保健の推進に必要な医学・看護学の理論について概説するとともに、その内容の討議を行う。特に、学校看護と公衆衛生の視点から学ぶ。 （オムニバス方式／全15回）（59 津島愛子／5回）学校救急処置（8 伊藤武彦／5回）感染症と集団的予防（70 松枝睦美／5回）医療的ケア	オムニバス

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		発達支援研究特論Ⅳ（保育内容学A）		本授業では、保育内容に関わる理論と実践、発達支援研究等について、資料等を適宜提示しながら講義し、履修者と共に討論する。 （オムニバス方式／全15回） （30 西山修／5回）主に保育内容「人間関係」に関わる理論と実践 （44 馬場訓子／5回）主に保育内容「健康」に関わる理論と実践 （56 大平修也／5回）主に保育内容「表現」に関わる理論と実践	オムニバス
		発達支援研究特論Ⅳ（保育内容学B）		本授業では、保育内容に関わる理論と実践、発達支援研究等について、資料等を適宜提示しながら講義し、履修者との討議を通じて発展的な展開を図る。 （オムニバス方式／全15回） （30 西山修／5回）主に保育内容「人間関係」に関わる理論と実践、その展開 （44 馬場訓子／5回）主に保育内容「健康」に関わる理論と実践、その展開 （56 大平修也／5回）主に保育内容「表現」に関わる理論と実践、その展開	オムニバス
		発達支援研究特論Ⅴ（幼児教育実践研究A）		岡山大学教育学部幼児教育講座の教員が、実践研究における観察記録とカンファレンスの重要性について論じた後、保育内容と指導に関する実践研究、設定保育における指導に関する実践研究、幼児理解と個別対応に関する実践研究のポイントについて解説する。その上で、附属幼稚園と連携・協力しながら、実践観察と記録を通して、実践研究のための専門的知識・技能を学習すると共に、幼児理解を深め、講義内容に基づく保育技術を習得することをめざす。 （オムニバス方式／全15回） （主担当教員〔輪番〕／2回）実践研究における観察記録とカンファレンスの重要性 （30 西山修・44 馬場訓子・56 大平修也／6回）（共同）保育内容と指導に関する実践研究 （55 横松友義／5回）設定保育における指導に関する実践研究 （17 片山美香／2回）幼児理解と個別対応に関する実践研究	オムニバス・共同
	講義・演習科目	発達支援研究特論Ⅴ（幼児教育実践研究B）		発達支援研究特論Ⅴ（幼児教育実践研究A）で学習した、実践研究における観察記録とカンファレンスの重要性、保育実践研究のポイントを踏まえて、附属幼稚園において実践観察と記録を行う。その上で、岡山大学教育学部幼児教育講座と附属幼稚園が連携・協力しながら実施する、実践記録に関するカンファレンスを通して、実践研究のための専門的知識・技能を学習すると共に、幼児理解を深め、講義内容に基づく保育技術を習得することをめざす。 （オムニバス方式／全15回） （30 西山修・44 馬場訓子・56 大平修也／2回）（共同） 保育内容と指導に関する実践研究とカンファレンス （30 西山修・44 馬場訓子・56 大平修也・55 横松友義・17 片山美香／4回）（共同） 保育内容と指導に関する実践研究とカンファレンス （55 横松友義／3回） 設定保育における指導に関する実践研究とカンファレンス （17 片山美香／6回） 幼児理解と個別対応に関する実践研究とカンファレンス	オムニバス・共同
		発達支援研究特論Ⅴ（養護教育実践研究A）		附属学校園での養護実践を通してフィールドノーツを作成し、実際の事例をもとに、省察・研究レポートの作成を行う。（オムニバス方式／全8回） （60 山内 愛／4回）保健室登校、健康相談の事例省察 （18 上村 弘子／4回）健康診断、保健室経営の事例省察	オムニバス
		発達支援研究特論Ⅴ（養護教育実践研究B）		附属学校園での養護実践を通して省察した事例をもとに、養護実践を研究的視点からとらえ、成果と課題を明らかにする。（オムニバス方式／全8回） （60 山内 愛／4回）保健室登校、健康相談の事例まとめ （18 上村 弘子／4回）健康診断、保健室経営の事例まとめ	オムニバス
		教育哲学特論ⅠA		現代は、教育の進むべき方向性が見えない時代だと言われている。取り組むべき課題は山積し、実践現場には疲労の色すら見えるのではないだろうか。本講義では、そのような時代状況に鑑み、近代教育学の歩みを思想的に俯瞰する。その作業を通じて、受講者に、これからの教育を展望してもらいたい。具体的には、古代哲学と教育、キリスト教と教育の関連性、そしてルネサンスとヒューマニズム、さらにはコメニウス、ロック、ルソーの教育思想を扱う。	隔年

科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		教育哲学特論ⅠB		現代は、教育の進むべき方向性が見えない時代だと言われている。取り組むべき課題は山積し、実践現場には疲労の色すら見えるのではないだろうか。本講義では、そのような時代状況に鑑み、近代教育学の歩みを思想史的に俯瞰する。その作業を通じて、受講者に、これからの教育を展望してもらいたい。具体的には、古典的な人間形成論、ペスタロッチとフレーベル、ヘルバルト、新教育運動を扱い、その後、近世日本の教育思想を取り上げ、最後に、デュルケームと教育学、デューイと新教育、近代教育批判を扱う。	隔年
		教育哲学特論ⅡA		教育哲学とは、教育目的・現象・理論などを歴史的・論理的・批判的に検討する知的営みを指す。本講義は、その教育哲学の体得を目指すものである。毎週、受講生は新しい課題論文を与えられ、それを熟読のうえ、講義に臨む。割り当てられた発表順番にしたがって受講生がその論文内容を発表する。そして、その発表に基づいて、受講生同士のディスカッションによる課題論文の検討を行う。その過程を通じて、受講生自身が自明としてきた教育観を吟味し、教育目的・現象・理論に対する新しい視点の獲得を目指す。具体的には、まず特別支援領域における被教育権をめぐる論考や、日本の学校・教室の特殊性にかかる論考から議論を開始する。	隔年
		教育哲学特論ⅡB		教育哲学とは、教育目的・現象・理論などを歴史的・論理的・批判的に検討する知的営みを指す。本講義は、その教育哲学の体得を目指すものである。毎週、受講生は新しい課題論文を与えられ、それを熟読のうえ、講義に臨む。割り当てられた発表順番にしたがって受講生がその論文内容を発表する。そして、その発表に基づいて、受講生同士のディスカッションによる課題論文の検討を行う。その過程を通じて、受講生自身が自明としてきた教育観を吟味し、教育目的・現象・理論に対する新しい視点の獲得を目指す。具体的には、教育現場における「不登校」言説を批判的に検討し、教育が根本的に有するその暴力性、それが寄ってたつ人権思想を議論の俎上にのせる。	隔年
		教育哲学特論演習A		Robin Barrow & Ronald Woods eds. An Introduction to Philosophy of Education, Routledge, 2006. の輪読を行い、近代教育の枠組みへの理解を深める。	
		教育哲学特論演習B		近代教育を批判的に問うている初論考を輪読する作業を通じて、その意義と課題を展望する。	
		日本教育史特論ⅠA		地域（岡山県を中心に）に伝存する教育文化史資料（文書、遺跡、建築など）に触れる（訪問、見学）。その訪問や見学などの経験をふまえ、教育文化の伝統・継承・革新などのあり方について、自身の視点を持ち、考察を展開する。そして、考察内容を発表し、受講者間で成果を共有し、評価を形成する。	隔年
		日本教育史特論ⅠB		教育の現在は、その過去との接続と断絶の両側面の蓄積をもって形成される。時代と社会の変化のなか、教育に付される意味や役割は変わる。あるいは、変わらない。この授業では、地域に伝存する教育史事象に目を向け、その考察と調査をふまえ、過去が現在に伝える内容の意味を捉え直してみたい。過去から現在への過程、過去と現在の比較などの検討を通じ、教育に関する歴史的・長期的な知見を得ようとするものである。また、授業では、受講者による課題発表の機会を適宜設ける。	隔年
		日本教育史特論ⅡA		歴史的長期的視点から教育の状況や変化について考察する。考察の際、資料は文献だけでなく、地域に伝存する教育遺産を活用する。旧学校・幼稚園舎や資料館を訪問し、体験的実践的な学習機会を活かす。このことを通じ、教育の歴史に対する理解を深めるとともに、教育遺産の今日的活用や伝承に関する意義や課題について検討し、発表する。	隔年
		日本教育史特論ⅡB		歴史の語られ方について考察する。歴史認識は、歴史事実の把握とともに、歴史がどのような媒体で、どのように叙述されるかにより、形成される。学校における教科書や資料集、社会における博物館や資料館、商業メディアにおける映画や漫画などにおける歴史の叙述を検討・報告する。そして、歴史認識に果たす教育作用の特色と課題について理解と視点を得る。	隔年
		日本教育史特論演習A		教育史に関する論考の検討と評価および発表を中心に行う。主として、受講者は1. 研究論文を読み、その批判的検討を通じ、研究の到達と課題を明確化する視点を得る。2. 論文を構成するテーマ性、論理性、実証性、叙述性の要素の考察を通じ、歴史研究にもとづく教育（学）の理解を得る。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	日本教育史特論演習B		教育史に関する論考の検討と発表、および資料（史料）の調査と発表を中心に行う。主として、1. 研究論文を読み、その批判的検討を通じ、研究の到達と課題を明確化する視点を獲得。2. 史料の分析を通じ、歴史研究にもとづく教育（学）の理解を得る。	
	西洋教育史特論ⅠA		近代日本が学校教育（制度）のモデルとしてきた西洋近代の学校教育制度について、その成立過程と発展を中心に、概説的な文献と資料をもとに授業を展開する。とくにイギリス、フランス、ドイツならびにアメリカ合衆国における義務教育制度を中心に取り上げる。授業は受講生による発表と討議、ならびに教員による解説と補足説明を中心とする。	隔年
	西洋教育史特論ⅠB		西洋近代における教育思想の展開について、概説的な文献と資料をもとに授業を展開する。具体的には、コメニウス、ルソー、ペスタロッチ、ヘルバルト、そしてデューイなどについて、それぞれの教育思想の基本的な特質、相互の影響関係・継続性、さらに日本への影響などの事項を取り上げる。授業は受講生による発表と討議、ならびに教員による解説と補足説明を中心とする。	隔年
	西洋教育史特論ⅡA		西洋近代における公教育の思想と制度の展開について、ここではとくに絶対王政期と市民革命期（イギリス、フランス、ドイツならびにアメリカ合衆国）の公教育の思想と制度の展開、とくに国民教育制度の成立過程について、専門的な文献と資料をもとに授業を展開する。授業は受講生による発表と討議、ならびに教員による解説と補足説明を中心とする。	隔年
	西洋教育史特論ⅡB		西洋近代における公教育の思想と展開について、ここではとくに産業革命期（イギリス・フランス・ドイツならびにアメリカ合衆国）の公教育の思想と制度の展開について取り上げる。具体的には、各国の初等教育（義務教育）制度の展開とそれに密接に関連する初等教員養成制度の展開を取り扱った専門的な文献と資料をもとに授業を展開する。授業は受講生による発表と討議、ならびに教員による解説と補足説明を中心とする。	隔年
	西洋教育史特論演習A		西洋教育史に関する近年の日本における研究文献、ここではとくに西洋（イギリス・フランス・ドイツ）における近代的な初等教育制度、初等教員養成制度に関する専門図書ならびに専門雑誌掲載論文を取り上げ、受講生で分担して講読・発表し、それにもとづく質疑応答と討議を行ない、かつ教員による補足的な説明と解説を行なう。	
	西洋教育史特論演習B		西洋教育史に関する近年の日本における研究文献、ここではとくに個別の教育思想家（コメニウス、ルソー、ペスタロッチ、ヘルバルト、デュルケム、デューイなど）の教育思想を対象とした専門図書ならびに専門雑誌掲載論文を取り上げ、受講生で分担して講読・発表し、それにもとづく質疑応答と討議を行ない、かつ教員による補足的な説明と解説を行なう。	
	学習心理学特論A		学習及び教授には人間の認識や知識の理解が必須である。例えば、知識とは何か、理解とは何か、話し合いの機能、創造的な思考とはどのようなメカニズムであるのかなど、多くの概念が実体を踏まえ説明されていない現状がある。本授業では、それらの概念やメカニズムを最新の認識の理論を基に説明し、それをベースに学習法や教育支援の在り方を論じる。具体的には、知識や言語の基盤である潜在記憶の特徴と記憶の永続性、記憶や知覚がエピソード的にまとまった膨大な感覚情報から生成される生成理論の考え方などを実験デモンストラレーションも交えて説明する。また、主体的な学びを引き出す、動機づけの原理とそれを向上させる方法についても解説する。	隔年
	学習心理学特論B		学習心理学特論Aで紹介する人間の認知特性を考慮し、学習者の知識習得レベルを正確に測定していくための新たなテスト原理と、ICTを活用しそれを実装し質の高い大量の学習・意識・行動データ（高精度教育ビッグデータと呼ぶ）を収集・解析していくための方法論の概要を紹介する。その方法により、学習内容（英単語など）の一つひとつについて実力の成績が個人ごとに時系列データとして集約され、その変動パターンから完全習得された学習内容を特定し学習から排除していく、【形成的評価の自動化】が実現された事実を紹介する。さらに、そのビッグデータを学校外の専門家等が利用することで、新たな教育支援が実現されることを紹介する。具体的には、意欲を失っている子どもの意欲を確実に向上させる方法、危機的状況にある子どもを科学的に検知する方法、経済格差と教育格差の負の連鎖を断つ方法等々、解決が難しかった諸問題を実質的に解決できる将来像を共有する。学習心理学特論Aを履修済みであることを受講要件とする。	隔年

科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		学習心理学特論演習		学習心理学特論Bで紹介した、高精度教育ビッグデータを活用した新たな教育支援等から一つの支援を選び、実際の支援者や協力者とともに各フィールドで支援の実際を学ぶとともに、その成果をレポートとしてまとめる。行動データに基づいた支援を発展させるための知識とスキルの習得を目指すとともに、実践の成果を論文等としてまとめていくためのトレーニングを行う。さらに、取り組んだ実践の課題と改善方法を検討し、異分野の専門人材と接点を持てる場（クロスラボ）でその改善を実現するための文理融合のプロジェクトを組織（もしくは参加）し、新たな教育支援法の開発と実践を試行し、その取り組みを客観データに基づき評価しまとめる。クロスラボでは、新たな教育法の開発に必要な企業や専門家等と受講生の人的ネットワークの拡大も支援する。学習心理学特論Bを履修済み、もしくは教育イノベーション演習を受講していることを受講要件とする。	隔年
		教育評価法特論A		教育評価と教育測定に関する基礎的事項と一般的事項を取り上げる。具体的には、母集団と標本、統計的検定及び統計的推定の考え方、2群の平均値に関する分析、多群の平均値に関する分析、について講義・演習を行う。授業を通して、教育評価・測定領域で研究を行うため、あるいは、人間の行動データを用い科学的判断を行うために必要となる、基礎的な統計的方法、統計的仮説検定に関わる知識とスキルを身につける。特に、人間の行動データの特徴、テスト問題の違いによりテストデータ（受検者の解答）が変化する事実等を踏まえ、学習者の能力を適切に測定することの重要性を論じる。	隔年
		教育評価法特論B		教育評価と教育測定に関する基礎的事項と一般的事項を取り上げる。人間の意識や行動を測定するために必要な知識と方法の理解を促す。具体的には、アンケート（心理尺度、質問紙）やテストの設計、作成、実施、分析、結果の解釈を行うことができるようになることを目指す。また、項目分析や探索的因子分析・確認的因子分析、妥当性・信頼性の検討の仕方等、調査データを分析する際に必要となる基本的事項に関して講義・演習を行う。	隔年
		教育評価法特論演習		教育評価と教育測定に関する基礎的事項と一般的事項を取り上げる。人間の意識や行動を測定するために必要な知識と方法の理解を促す。具体的には、アンケート（心理尺度、質問紙）やテストの設計、作成、実施、分析、結果の解釈を行うことができるようになることを目指す。また、項目分析や探索的因子分析・確認的因子分析、妥当性・信頼性の検討の仕方等、調査データを分析する際に必要となる基本的事項に関して講義・演習を行う。	隔年
		発達心理学特論ⅠA		発達心理学の歴史、研究方法、および、認知・思考、自己意識、社会性等の主要領域における子どもの発達について生涯発達の視点を含めて学ぶとともに、この領域に関連したテーマやトピックについての文献講読（文献のレビュー、プレゼンテーション、ディスカッション）を通して、子どもの心身の発達とそれに伴う諸問題について発達心理学的観点からの理解を深める。学齢期を中心とした発達のプロセスやそれにまつわる諸問題について、広い視野で理解し科学的根拠に基づいてアプローチするための基礎力を養う。	隔年
		発達心理学特論ⅠB		発達心理学の歴史、研究方法、および、主要領域における発達のプロセスについて生涯発達の視点を含めて学ぶとともに、この領域に関連したテーマやトピックについての文献講読（文献のレビュー、プレゼンテーション、ディスカッション）を通して、心身の発達とそれに伴う諸問題について発達心理学的観点からの理解を深める。学齢期を中心とした発達のプロセスやそれにまつわる諸問題について、広い視野で理解し科学的根拠に基づいてアプローチするための基礎力を養う。	隔年
		発達心理学特論ⅡA		発達心理学の歴史、代表的な研究方法、および、主要な領域における発達のプロセスについて学ぶとともに、学齢期の発達心理学に関連するテーマやトピックについての文献講読（文献のレビュー、プレゼンテーション、ディスカッション）を通して、学齢期の子どもの心身の発達とそれに伴う学校教育の諸問題について発達心理学的観点からの理解を深める。子どもの心身の発達の課題に関連した学校教育における諸問題について、より広い視野で捉え科学的根拠に基づいたアプローチを行うための力量を養う。	隔年

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	発達心理学特論Ⅱ B		発達心理学の歴史や主要な領域における発達のプロセスと発達支援について学ぶとともに、学齢期の発達心理学に関連するテーマやトピックについての文献講読（文献のレビュー、プレゼンテーション、ディスカッション）を通して、学齢期の子どもの心身の発達とそれに伴う学校教育の諸問題について発達心理学的観点からの理解を深める。子どもの心身の発達の課題に関連した学校教育における諸問題について、より広い視野で捉え科学的根拠に基づいたアプローチを行うための力量を養う。	隔年
	発達心理学特論演習		発達を理解するための諸理論や代表的なアセスメント方法、および社会性や対人関係の発達の様相、適応状態を分析する手法について学ぶ。また、子どもの心身の発達とそれに伴う諸問題に関する発達心理学的文献や予防的・開発的介入に関する文献を講読し、プレゼンテーション、ディスカッションを行うことを通じて、この領域の先行研究の理解やデータの分析に必要な学術的知識・スキルを習得する。子どもの心身の発達とそれに伴う諸問題へのアプローチについて理解を深めることにより、発達をみる視点を磨き、学校教育における諸問題に対して発達心理学的視点から分析し、予防的・開発的視点からアプローチするための力量を高める。	隔年
	集団心理学特論 A		人間が集団を形成した際に発現する心理特性や行動機序を理解するための基礎理論を学ぶ。集団の発達過程や集団内の対人関係の構築等の観点から、人間の集団が活動する際の特性とダイナミクスについての理解を深める。効果的な集団づくりや集団運営に関する文献講読と発表・ディスカッションを行い、集団の問題に着目して研究課題を設定する視点と考え方を身に付ける。	隔年
	集団心理学特論 B		集団が効果的に機能するための条件や、円滑な協働を実現するための集団づくりの実践方策に関する科学的な研究知見を学ぶ。講義に加えて、現代社会や学校教育にみられる集団の活性化や病理などの問題について、受講者は各自が関心を持つテーマを設定し、発表・ディスカッションを通じて、科学的根拠に基づいた集団現象の把握と問題解決アプローチに関する理解を深める。	隔年
	集団心理学特論演習		集団の特性や集団内の対人関係に基づく構造について、心理学的な測定・分析を行うための実践的方法を修得する。集団に関する心理学研究で用いられる主要な技法について、文献講読と発表・ディスカッションを通じて理論的基礎を学び、集団への適応や集団づくりに関連するデータ解析の演習に取り組み、教育の諸課題を集団レベルの現象として吟味・解釈するための実践的な思考力とスキルを身に付ける。	隔年
	教育制度特論 A		教育制度に関する具体的な課題を取り上げ、その背景・現状・改善策について検討する。特に、日本における教育に関する法規・法制を中心に「教育を受ける権利」の保証に向けた立法・行政・司法の動きを総合的に考察する。その際、国際人権規約などを手がかりとしながら、国際的なスタンダードを踏まえた「基本的人権としての教育」の理念的・実践的な捉え方について理解を深める。	
	教育制度特論 B		教育制度に関する具体的な課題を取り上げ、その背景・現状・改善策について検討する。特に、教育制度を生活者の視点から捉え直し、国家や社会を形成する人々が個人として本来的にもっている力を育成するうえでのサポート機能の充実・強化に向けた取組について考察する。その際、コミュニティをそれぞれの価値や利害関係によって結びついた小グループから構成されるものとし、個人や組織、地域の力を引き出すコミュニティ・エンバワメントに基づいた教育制度の在り方を探求する。	隔年
	社会教育学特論 A		前半は、社会教育や生涯学習についての概論を講義形式の授業によって論じていく。後半は、子どもと社会教育・生涯学習や学校・家庭・地域の連携等テーマに関する論文を演習形式で検討することにより、生涯学習社会における教育や学習のあり方について考えを深めていく。	
	社会教育学特論 B		前半は、社会教育や生涯学習についての概論を講義形式の授業によって論じていく。後半は、成人学習に関する論文を演習形式で検討することにより、生涯学習社会における教育や学習のあり方について考えを深めていく。	隔年

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育社会学特論ⅠA		教育社会学の基礎的な学説を概観し、学校制度・学級経営などを横断する教育現象を社会学的に把握するための考察力を養う。	隔年
	教育社会学特論ⅠB		教育社会学の理論と方法に関する理解を深める。教育の状況や課題について、教育と社会の関係、社会のなかの教育、社会としての教育（学校）などの視点から考察する。たとえば、教育社会学は、教育に配分や選抜の機能、ジェンダーやカーストの性質、属性主義や業績主義の傾向を析出する。文献や資料の検討を通じ、教育社会学の見方を理解する。	隔年
	教育社会学特論ⅡA		教育社会学の主要な学説・理論に対する理解を深めるとともに、その研究方法の特質を知る。	隔年
	教育社会学特論ⅡB		教育社会学に関する文献や資料の検討を通じ、子ども、学校、社会、文化などの関係について考察する。日本や世界（主に欧米）、小・中学校や大学、学問や芸術などに視野を広げながら考察を行い、教育社会学の理論と方法に関する視点と理解を形成する。	隔年
	教育社会学特論演習A		教育社会学特論での講義内容を踏まえて、オリジナル文献、周辺文献を講読し、文化研究、教育組織研究を中心とする学説への理解を深める。	
	教育社会学特論演習B		教育社会学の学説に関する理解を深める。子ども、学校、社会、文化などの関係について、社会学の分類や統計、文化学の解釈や記号、教育学の規範や行為などの考え方を視野に入れながら考察する。文献や資料の検討を通じ、教育社会学の研究的な視点と理解を得る。	
	教育方法学特論ⅠA		教育方法学研究の発展をささえた授業研究の特質について解説する。とりわけ、民間教育運動における成果を中心に解説することで、教育方法学の研究方法論と成果に重点を置く。	隔年
	教育方法学特論ⅠB		教育方法学研究の発展に影響を与える教育のグローバル。スタンダードについて解説する。とりわけ、OECDのPISAとその背景を中心に解説することで、教育方法学の研究方法論と課題に重点を置く。	隔年
	教育方法学特論ⅡA		戦後わが国における授業研究の歴史的成果と現代的課題について講義する。とりわけ、陶冶と訓育の統一という視点から「学級で教える」ことの今日的意義を検討する。	隔年
	教育方法学特論ⅡB		戦後わが国における授業研究の歴史的成果と現代的課題について講義する。とりわけ、「Lesson Study」として海外から注目された授業改善のメカニズムについて講義する。	隔年

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育方法学特論演習 A		受講者が興味・関心を持つ、学習指導および生活指導に関する教育問題に関する文献を選定し、輪読と討議を行う	
	教育方法学特論演習 B		授業づくりにかかわる、いくつかの授業実践記録を検討することを通して、授業の過程的・歴史的な性格について理解を深めながら、実際に授業を構成する教育方法技術の基礎について学ぶ。	
	教育組織特論		学校運営の活性化を促進する教育組織のあり方について考察する。学校の理念や歴史、教員と事務職員の専門性、教員と事務職員の協働関係などの検討を通じ、教育組織の本質と課題を考察する。 オムニバス方式（全15回）（13 尾上雅信・48 平田仁胤・15 梶井一暁/2回） 目的・方法（13 尾上雅信/2回）西洋の学校の成り立ちとその意義（15 梶井一暁/2回）日本の学校の成立とその意義（48 平田仁胤/4回）学校の教育目標をふまえた事務職員と教員の協働（67 高瀬淳・75 金川舞貴子/2回）学校の教育目標の実現を図る事務職員の専門性（48 平田仁胤/2回）教材研究（15 梶井一暁/1回）まとめ	オムニバス
	教育組織特論演習		教育組織の改善のため、教員と事務職員に向けた研修講座を企画・実施し、その省察・改善を行う。研修講座の運営を通じ、教員と事務職員が協働する教育組織に関する課題と展望を考察する。 オムニバス方式（全15回）（13 尾上雅信・48 平田仁胤・15 梶井一暁/2回） 目的・方法（13 尾上雅信/2回）学校と社会に関する歴史的展開（81 宮本勇一/2回）学校と社会に関する今日的課題（66 熊谷慎之輔/4回）学校の教育目標を実現する事務職員と地域学校協働（67 高瀬淳・75 金川舞貴子/2回）学校の教育目標の実現を図る事務職員の専門性（48 平田仁胤/2回）教材研究（15 梶井一暁/1回）まとめ	オムニバス
	学校社会学特論 I A		「授業の社会学」に関する主な学説や理論に関する理解を深め、その研究方法の特質を探索。講義と演習（論文講読）とを組み合わせ実施する。I Aでは「自主学习」「自発協同学習」「バズ学習」のトピックを中心に扱う。	隔年
	学校社会学特論 I B		「授業の社会学」に関する主な学説や理論に関する理解を深め、その研究方法の特質を探索。講義と演習（論文講読）とを組み合わせ実施する。I Bでは「学習集団の構造」「小集団学習の理論と実践」「個を生かす集団づくり」のトピックを中心に扱う。	隔年
	学校社会学特論 II A		学校社会学に関する様々な研究論文の講読を通して、その研究方法の特質を知る。単なる購読で終わるのではなく、3～4回ごとに設定しているテーマごとの課題レポートを作成・整理し。ポートフォリオを作成する。II Aでは「学校社会学の研究方法」「学校の組織と文化」「学力調査研究と「効果のある学校」のトピックを中心に扱う。	隔年
	学校社会学特論 II B		学校社会学に関する様々な研究論文の講読を通して、その研究方法の特質を知る。なお、単なる購読で終わるのではなく、3～4回ごとに設定しているテーマごとの課題レポートを作成・整理し。ポートフォリオを作成する。II Bでは「学校臨床社会学の方法」「現代的教育課題の諸相」「格差社会と学校」のトピックを中心に扱う。	隔年
	教育科学特論（国語科教育学 I A）		近年、アカウンタビリティ（説明責任）の観点から評価が注目されている。評価に関する文献を読み進めながら、特に国語科における評価について考察する。評価に関する先行研究の検索 評価に関する研究動向、話すこと・聞くことの評価に関して講義・演習を行う。	隔年

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学特論（国語科教育学ⅠB）		近年、アカウンタビリティ（説明責任）の観点から評価が注目されている。評価に関する文献を読み進めながら、特に国語科における評価について考察する。話すこと聞くことの評価、書くことの評価、読むことの評価に関して講義・演習を行う。	隔年
	教育科学特論（国語科教育学ⅡA）		近年、アカウンタビリティ（説明責任）の観点から評価が注目されている。評価に関する文献を読み進めながら、特に国語科における評価について考察する。読むことの評価、ポートフォリオによる評価、パフォーマンス課題の評価 言語活動の評価、言語活動の評価に関して講義・演習を行う。	隔年
	教育科学特論（国語科教育学ⅡB）		近年、アカウンタビリティ（説明責任）の観点から評価が注目されている。評価に関する文献を読み進めながら、特に国語科における評価について考察する。教師の評価、単元学習の評価、評価のこれからに関して講義・演習を行う。	隔年
	教育科学特論（国語学ⅠA）		授業の概要は以下のとおりである。国語科の学習内容の、特に「国語の特質」の理解を深めるために必要な概念や理論について、演習をととして整理したり考えたりする。具体的には、音声を取り扱い、「言語の多様な働きについての理解」を深める。さらに、「国語の特質」を授業で扱う場合の指導の観点や授業展開などについて演習をととして具体的に考える。	隔年
	教育科学特論（国語学ⅠB）		授業の概要は以下のとおりである。国語科の学習内容の、特に「国語の特質」の理解を深めるために必要な概念や理論について、演習をととして整理したり考えたりする。具体的には、表記を取り扱い、「言語の多様な働きについての理解」を深める。さらに、「国語の特質」を授業で扱う場合の指導の観点や授業展開などについて演習をととして具体的に考える。	隔年
	教育科学特論（国語学ⅡA）		授業の概要は以下のとおりである。国語科の学習内容の、特に「国語の特質」の理解を深めるために必要な概念や理論について、演習をととして整理したり考えたりする。具体的には、語彙を取り扱い、「言語の多様な働きについての理解」を深める。さらに、「国語の特質」を授業で扱う場合の指導の観点や授業展開などについて演習をととして具体的に考える。	隔年
	教育科学特論（国語学ⅡB）		授業の概要は以下のとおりである。国語科の学習内容の、特に「国語の特質」の理解を深めるために必要な概念や理論について、演習をととして整理したり考えたりする。具体的には、文法を取り扱い、「言語の多様な働きについての理解」を深める。さらに、「国語の特質」を授業で扱う場合の指導の観点や授業展開などについて演習をととして具体的に考える。	隔年
	教育科学特論（近代文学ⅠA）		主として教科書に採録されている文学作品、特に近代小説を対象に、その表現技法や作品世界の構造・思想・特質について分析し、教科指導上の要点を理解するとともに、演習・レポートを通じて言語文化（文学）への関心・理解を深める。	隔年
	教育科学特論（近代文学ⅠB）		主として教科書に採録されている文学作品、特に現代小説を対象に、その表現技法や作品世界の構造・思想・特質について分析し、教科指導上の要点を理解するとともに、演習・レポートを通じて言語文化（文学）への関心・理解を深める。	隔年
	教育科学特論（近代文学ⅡA）		主として教科書に採録されている近代詩・現代詩を対象に、その表現技法や作品世界の構造・思想・特質について分析し、教科指導上の要点を理解するとともに、演習・レポートを通じて言語文化（文学）への関心・理解を深める。	隔年

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学特論（近代文学Ⅱ B）		主として教科書に採録されている短歌・俳句を対象に、その表現技法や作品世界の構造・思想・特質について分析し、教科指導上の要点を理解するとともに、演習・レポートを通じて言語文化（文学）への関心・理解を深める。	隔年
	教育科学特論（漢文学Ⅰ A）		小中高等学校の国語で取り扱う漢文学の諸作品を中心として、これを科学的に読解するために必要な学問的手続きを講義する。漢字の特質に対する充分な理解は、現代の言葉とのつながりを理解する上でも、小中高等学校国語の教員として一貫して必要である。そこで小中学校の漢字学習を視野に入れつつ、漢詩・韻文の講義や演習を通じて、昔の人のものの見方や感じ方を実際に読み解く。その際には、中国から招来された資料だけでなく、日本に伝存する旧鈔本や和刻本資料をも参照することによって、我が国の歴史の中で創造され、継承されてきた漢文学の伝統を学ぶ。	隔年
	教育科学特論（漢文学Ⅰ B）		小中高等学校の国語で取り扱う漢文学の諸作品を中心として、これを科学的に読解するために必要な学問的手続きを講義する。漢字の特質に対する充分な理解は、現代の言葉とのつながりを理解する上でも、小中高等学校国語の教員として一貫して必要である。そこで小中学校の漢字学習を視野に入れつつ、思想的文章の講義や演習を通じて、昔の人のものの見方や感じ方を実際に読み解く。その際には、中国から招来された資料だけでなく、日本に伝存する旧鈔本や和刻本資料をも参照することによって、我が国の歴史の中で創造され、継承されてきた漢文学の伝統を学ぶ。	隔年
	教育科学特論（漢文学Ⅱ A）		小中高等学校の国語で取り扱う漢文学の諸作品を中心として、これを科学的に読解するために必要な学問的手続きを講義する。漢字の特質に対する充分な理解は、現代の言葉とのつながりを理解する上でも、小中高等学校国語の教員として一貫して必要である。そこで小中学校の漢字学習を視野に入れつつ、抒情的散文の講義や演習を通じて、昔の人のものの見方や感じ方を実際に読み解く。その際には、中国から招来された資料だけでなく、日本に伝存する旧鈔本や和刻本資料をも参照することによって、我が国の歴史の中で創造され、継承されてきた漢文学の伝統を学ぶ。	隔年
	教育科学特論（漢文学Ⅱ B）		小中高等学校の国語で取り扱う漢文学の諸作品を中心として、これを科学的に読解するために必要な学問的手続きを講義する。漢字の特質に対する充分な理解は、現代の言葉とのつながりを理解する上でも、小中高等学校国語の教員として一貫して必要である。そこで小中学校の漢字学習を視野に入れつつ、史伝的文章の講義や演習を通じて、昔の人のものの見方や感じ方を実際に読み解く。その際には、中国から招来された資料だけでなく、日本に伝存する旧鈔本や和刻本資料をも参照することによって、我が国の歴史の中で創造され、継承されてきた漢文学の伝統を学ぶ。	隔年
	教育科学特論（社会科教育学ⅠA）		社会科教育学研究の基礎的な理論について著書・論文の講読を通して考察する。	
	教育科学特論（社会科教育学ⅠB）		社会科教育学研究の方法論についての著書・論文の講読を通して考察する。	
	教育科学特論演習（社会科教育学ⅠA）		社会科教育学の調査の方法について基礎的な知識とスキルを身に付けたうえで、研究計画を立案する。	
	教育科学特論演習（社会科教育学ⅠB）		社会科教育学の調査研究に関する論文の講読し、分析して報告する。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学特論（社会科教育学ⅡA）		研究の方法論に関する基礎的文献を講読したうえで、社会科教育学に関する論文についての受講生の報告に基づいて議論する。	
	教育科学特論（社会科教育学ⅡB）		授業の指導案や授業記録を手がかりにして、子どもの認識・思考、学力、技術や技能等の実態を視野に入れた中等社会科・公民科の基礎的な授業設計の方法や、中等社会科・公民科の特性に応じたICT機器、教材の効果的な活用法を理解した上で、学習指導案作成や模擬授業の実施にそれらを活かし、授業設計力の向上に取り組んでいく。	
	教育科学特論演習（社会科教育学ⅡA）		国内外の優れた社会科教育の教材や実践及びそれに関する研究成果を分析し、社会科の目標原理やカリキュラムについて論じる。	
	教育科学特論演習（社会科教育学ⅡB）		社会科教育学の基本的文献を講読し、履修生の報告に基づいて議論する。	
	教育科学特論（日本史ⅠA）		小中高等学校の社会科でとりあげられる日本史上の主な事象や、先人の業績についての重要な研究を輪読し、その内容を検討する。選定したテーマについての特に重要な先行研究を取り上げる。	
	教育科学特論（日本史ⅠB）		小中高等学校の社会科でとりあげられる日本史上の主な事象や、先人の業績についての重要な研究を輪読し、その内容を検討する。選定したテーマに関連して幅広い先行研究を取り上げる。	
	教育科学特論演習（日本史ⅠA）		中世の地域権力が出した法令を集めた『中世法制史料集 第四巻 武家家法II』（岩波書店、1998年）収載の史料を読む。おもに永正から大永年間の部分を輪読する。法令から武士による政治、守護と戦国大名、地域社会のあり方、かつての人々の観念などについて学ぶ。基礎的な読解方法の習得に重点を置く。	
	教育科学特論演習（日本史ⅠB）		中世の地域権力が出した法令を集めた『中世法制史料集 第四巻 武家家法II』（岩波書店、1998年）収載の史料を読む。おもに大永から天文年間前半の部分を輪読する。法令から武士による政治、守護と戦国大名、地域社会のあり方、かつての人々の観念などについて学ぶ。応用的な読解方法の習得に重点を置く。	
	教育科学特論（日本史ⅡA）		小中高等学校の社会科でとりあげられる日本史上の主な事象や、先人の業績についての重要な研究を輪読し、その内容を検討する。先行研究の整理から選定したテーマについての課題発見に重点を置く。	
	教育科学特論（日本史ⅡB）		小中高等学校の社会科でとりあげられる日本史上の主な事象や、先人の業績についての重要な研究を輪読し、その内容を検討する。先行研究の整理から研究実践に結びつけて研究発表をおこなう。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学特論演習（日本史ⅡA）		中世の地域権力が出した法令を集めた『中世法制史料集 第五巻 武家家法III』（岩波書店、2001年）収載の史料を読む。おもに永禄年間前半の部分を輪読する。法令から武士による政治、戦国大名、織田権力、地域社会のあり方、かつての人々の観念などについて学ぶ。基礎的な読解方法の習得に重点を置く。	
	教育科学特論演習（日本史ⅡB）		中世の地域権力が出した法令を集めた『中世法制史料集 第五巻 武家家法III』（岩波書店、2001年）収載の史料を読む。おもに永禄年間中期の部分を輪読する。法令から武士による政治、戦国大名、織田権力、地域社会のあり方、かつての人々の観念などについて学ぶ。応用的な読解方法の習得に重点を置く。	
	教育科学特論（世界史ⅠA）		ロシア帝国の政治外交史に関連する書籍を輪読し、ロシア史に関する知識を身に着ける。担当者は、読んできた内容を報告し、それから討論を行う。	
	教育科学特論（世界史ⅠB）		ソ連の政治外交史に関連する書籍を輪読し、ソ連史に関する知識を身に着ける。担当者は、読んできた内容を報告し、それから討論を行う。	
	教育科学特論演習（世界史ⅠA）		講師が隔週でヨーロッパ政治外交史に関する講義を行いつつ、受講者も自分の研究テーマに沿った先行研究・論文を隔週で報告する。報告後にはそれぞれで研究に関する議論を行う。	
	教育科学特論演習（世界史ⅠB）		講師が隔週でロシア・ソ連政治外交史に関する講義を行いつつ、受講者も自分の研究テーマに沿った論文・先行研究を隔週で報告する。報告後にはそれぞれで研究に関する議論を行う。	
	教育科学特論（世界史ⅡA）		西洋史に関する史料（外交文書や当時にパンフレットなど）を原語で輪読することで、歴史学論文における史料の扱い方や史料批判の方法について学ぶ。	
	教育科学特論（世界史ⅡB）		ロシア史に関する史料（外交文書や当時にパンフレットなど）を原語で輪読することで、歴史学論文における史料の扱い方や史料批判の方法について学ぶ。	
	教育科学特論演習（世界史ⅡA）		講師が隔週でヨーロッパ政治外交史(ロシアを含む)に関する講義を行いつつ、受講者も自分の研究テーマに沿った先行研究について報告する。また修士論文指導についても並行して行う。	
	教育科学特論演習（世界史ⅡB）		講師が隔週でヨーロッパ政治外交史(ロシアを含む)に関する講義を行いつつ、受講者は修士論文の執筆状況について随時報告する。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学特論（自然地理学ⅠA）		自然地理学を理解するうえでの、必要な基礎的な概念を学ぶ。とくに自然地理学のうち、環境と人類の関わりについて論じる。	
	教育科学特論（自然地理学ⅠB）		自然地理学を理解するうえでの、必要な概念の応用例を学ぶ。とくに自然地理学のうち、環境と人類の関わりについて論じる。	
	教育科学特論演習（自然地理学ⅠA）		地域学習を行うために必要な自然環境をとらえる基礎的な概念を学ぶ。	
	教育科学特論演習（自然地理学ⅠB）		地域学習を行うために必要な自然環境をとらえる概念の応用例を学ぶ。	
	教育科学特論（自然地理学ⅡA）		自然地理学の諸問題を解明するための視点・方法および問題点についての基礎を学び、地図を判読し、具体的な資料や調査報告に基づき討論する。必要に応じて野外実習も行う。	
	教育科学特論（自然地理学ⅡB）		自然地理学の諸問題を解明するための視点・方法および問題点について応用例を学び、地図を判読し、具体的な資料や調査報告に基づき討論する。必要に応じて野外実習も行う。	
	教育科学特論演習（自然地理学ⅡA）		自然地理学を理解するうえでの、必要な基礎的な概念を学ぶ。とくに自然地理学のうち、外的営力の地形と関わりのある諸問題について論じる。	
	教育科学特論演習（自然地理学ⅡB）		自然地理学を理解するうえでの、必要な概念の応用例を学ぶ。とくに自然地理学のうち、外的営力の地形と関わりのある諸問題について論じる。	
	教育科学特論（政治学ⅠA）		本授業は、小中高等学校の社会科ならびに公民科で扱われる政治学分野に関し、その基礎理論の習得を目指すものである。本授業では、現代政治理論の諸理論家あるいは諸テーマについて、関連する重要論文・書籍を講読し、発表・討論することを通じて、小中高等学校の授業実践において必要な知識を獲得するだけでなく、そこで扱われている諸制度や諸概念の背景を分析・考察する。本年度はロールズ『政治的リベラリズム』とその関連論文を輪読する。	
	教育科学特論（政治学ⅠB）		本授業は、小中高等学校の社会科ならびに公民科で扱われる政治学分野に関し、その基礎理論の習得を目指すものである。本授業では、現代政治理論の諸理論家あるいは諸テーマについて、関連する重要論文・書籍を講読し、発表・討論することを通じて、小中高等学校の授業実践において必要な知識を獲得するだけでなく、そこで扱われている諸制度や諸概念の背景を分析・考察する。本年度はロールズ『政治的リベラリズム』と関連論文を輪読し、それを教育科学の課題と結びつけつつ考察する。	

科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		教育科学特論演習（政治学ⅠA）		本演習は、小中高等学校の社会科ならびに公民科で扱われる政治学分野に関して、その基礎理論の習得を目指すものである。本演習では、日本政治思想史の諸理論家あるいは諸テーマについて、関連する重要論文・書籍を講読し、発表・討論することを通じて、小中高等学校の授業実践において必要な知識を獲得するだけでなく、そこで扱われている諸制度や諸概念の背景を分析・考察する。	
		教育科学特論演習（政治学ⅠB）		本演習は、小中高等学校の社会科ならびに公民科で扱われる政治学分野に関して、その基礎理論の習得を目指すものである。本演習では、日本政治思想史の諸理論家あるいは諸テーマについて、関連する重要論文・書籍を講読し、発表・討論することを通じて、小中高等学校の授業実践において必要な知識を獲得するだけでなく、専門知識を教育科学の諸課題と結びつけつつ考察・分析する。	
		教育科学特論（政治学ⅡA）		本授業は、小中高等学校の社会科ならびに公民科で扱われる政治学分野に関して、その基礎理論の習得を目指すものである。本授業では、現代政治理論の諸理論家あるいは諸テーマについて、関連する重要論文・書籍を講読し、発表・討論することを通じて、小中高等学校の授業実践において必要な知識を獲得するだけでなく、そこで扱われている諸制度や諸概念の背景を分析・考察する。本年度は、ラトウール『社会的なものを組み直す』を取り上げ、それを教育科学の諸課題と結びつけつつ考察する。	
		教育科学特論（政治学ⅡB）		本授業は、小中高等学校の社会科ならびに公民科で扱われる政治学分野に関して、その基礎理論の習得を目指すものである。本授業では、現代政治理論の諸理論家あるいは諸テーマについて、関連する重要論文・書籍を講読し、発表・討論することを通じて、小中高等学校の授業実践において必要な知識を獲得するだけでなく、そこで扱われている諸制度や諸概念の背景を分析・考察する。本年度は、ラトウール『虚構の「近代」』を取り上げ、それを教育科学の諸課題と結びつけつつ考察する。	
		教育科学特論演習（政治学ⅡA）		本演習は、小中高等学校の社会科ならびに公民科で扱われる政治学分野に関して、その基礎理論の習得を目指すものである。本演習では、日本政治思想史の諸理論家あるいは諸テーマについて、関連する重要論文・書籍を講読し、発表・討論することを通じて、小中高等学校の授業実践において必要な知識を獲得するだけでなく、そこで扱われている諸制度や諸概念の背景を分析・考察する。本年度は、丸山眞男『中世と反逆』を取り上げ、それを教育科学の諸課題と結びつけつつ考察する。	
		教育科学特論演習（政治学ⅡB）		本演習は、小中高等学校の社会科ならびに公民科で扱われる政治学分野に関して、その基礎理論の習得を目指すものである。本演習では、日本政治思想史の諸理論家あるいは諸テーマについて、関連する重要論文・書籍を講読し、発表・討論することを通じて、小中高等学校の授業実践において必要な知識を獲得するだけでなく、そこで扱われている諸制度や諸概念の背景を分析・考察する。本年度は、丸山眞男『日本の思想』を取り上げ、それを教育科学の諸課題と結びつけつつ考察する。	
		教育科学特論（経済学ⅠA）		教育をはじめとするさまざまな社会事象を科学的に解明するためには、そのための方法論的基礎の修得とともに、現代社会の制度的前提である市場機構の機能と限界についての十分な理解が必要不可欠である。そこで、この授業科目では経済学の原理と方法を理論・実証の両面から学ぶことで、経済学の方法を用いた教育科学研究を行うための知識・技能の修得を図る。標準的な経済学の一般的包括的内容が取り扱われるが、この授業科目では特に経済学の理論的側面に重点が置かれる。	
		教育科学特論（経済学ⅠB）		教育をはじめとするさまざまな社会事象を科学的に解明するためには、そのための方法論的基礎の修得とともに、現代社会の制度的前提である市場機構の機能と限界についての十分な理解が必要不可欠である。そこで、この授業科目では経済学の原理と方法を理論・実証の両面から学ぶことで、経済学の方法を用いた教育科学研究を行うための知識・技能の修得を図る。標準的な経済学の一般的包括的内容が取り扱われるが、この授業科目では特に経済学の一般的包括的内容が取り扱われるが、この授業科目では特に経済学の理論的側面に重点が置かれる。	
		教育科学特論演習（経済学ⅠA）		教育をはじめとするさまざまな社会事象を科学的に解明するためには、そのための方法論的基礎の修得とともに、現代社会の制度的前提である市場機構の機能と限界についての十分な理解が必要不可欠である。そこで、この授業科目では経済学の原理と方法を理論・実証の両面から演習形式で学ぶことで、経済学の方法を用いた教育科学研究を行うための知識・技能の定着を図る。標準的な経済学の一般的包括的内容が取り扱われるが、この授業科目では特に経済学の理論的側面に重点が置かれる。	
		教育科学特論演習（経済学ⅠB）		教育をはじめとするさまざまな社会事象を科学的に解明するためには、そのための方法論的基礎の修得とともに、現代社会の制度的前提である市場機構の機能と限界についての十分な理解が必要不可欠である。そこで、この授業科目では経済学の原理と方法を理論・実証の両面から演習形式で学ぶことで、経済学の方法を用いた教育科学研究を行うための知識・技能の定着を図る。標準的な経済学の一般的包括的内容が取り扱われるが、この授業科目では特に経済学の理論的側面に重点が置かれる。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学特論（経済学Ⅱ A）		教育をはじめとするさまざまな社会事象を科学的に解明するためには、そのための方法論的基礎の修得とともに、現代社会の制度的前提である市場機構の機能と限界についての十分な理解が必要不可欠である。そこで、この授業科目では経済学の実用と実際を理論・実証の両面から学ぶことで、経済学の方法を用いた教育科学研究を行うための知識・技能を活用する力の向上を図る。標準的な経済学の一般的包括的内容が取り扱われるが、この授業科目では特に経済学の理論的側面に重点が置かれる。	
	教育科学特論（経済学Ⅱ B）		教育をはじめとするさまざまな社会事象を科学的に解明するためには、そのための方法論的基礎の修得とともに、現代社会の制度的前提である市場機構の機能と限界についての十分な理解が必要不可欠である。そこで、この授業科目では経済学の実用と実際を理論・実証の両面から学ぶことで、経済学の方法を用いた教育科学研究を行うための知識・技能を活用する力の向上を図る。標準的な経済学の一般的包括的内容が取り扱われるが、この授業科目では特に経済学の実証的側面に重点が置かれる。	
	教育科学特論演習（経済学Ⅱ A）		教育をはじめとするさまざまな社会事象を科学的に解明するためには、そのための方法論的基礎の修得とともに、現代社会の制度的前提である市場機構の機能と限界についての十分な理解が必要不可欠である。そこで、この授業科目では経済学の実用と実際を理論・実証の両面から演習形式で学ぶことで、経済学の方法を用いた教育科学研究を行うための知識・技能を活用する力の定着を図る。標準的な経済学の一般的包括的内容が取り扱われるが、この授業科目では特に経済学の理論的側面に重点が置かれる。	
	教育科学特論演習（経済学Ⅱ B）		教育をはじめとするさまざまな社会事象を科学的に解明するためには、そのための方法論的基礎の修得とともに、現代社会の制度的前提である市場機構の機能と限界についての十分な理解が必要不可欠である。そこで、この授業科目では経済学の実用と実際を理論・実証の両面から演習形式で学ぶことで、経済学の方法を用いた教育科学研究を行うための知識・技能を活用する力の定着を図る。標準的な経済学の一般的包括的内容が取り扱われるが、この授業科目では特に経済学の実証的側面に重点が置かれる。	
	教育科学特論（倫理学Ⅰ A）		小中社会および高等学校公民の学習目標に大きくかわる「人間の尊重」、「個人の尊厳」などの主題と関連づけて、特に、ソクラテス、プラトン、アリストテレスなどの西洋古代の代表的な倫理思想に焦点を当てながら、倫理学の基本的な考え方や倫理学的視点について理解します。そして、こうした学習を通じて、倫理学的観点からの「論理」に基づいて思考していく力の育成をめざすとともに、小中社会および高等学校公民の指導において必要な思考力の涵養をめざします。	
	教育科学特論（倫理学Ⅰ B）		小中社会および高等学校公民の学習目標に大きくかわる「人間の尊重」、「個人の尊厳」などの主題と関連づけて、特に、デカルトやカントやヘーゲルなどの西洋近代の代表的な倫理思想に焦点を当てながら、倫理学の基本的な考え方や倫理学的視点について理解します。そして、こうした学習を通じて、倫理学的観点からの「論理」に基づいて思考していく力の育成をめざすとともに、小中社会および高等学校公民の指導において必要な思考力の涵養をめざします。	
	教育科学特論（倫理学Ⅱ A）		小中社会および高等学校公民の学習目標に大きくかわる「人間の尊重」、「個人の尊厳」などの主題と関連づけて、特に、現代思想の主要な潮流をなしているプラグマティズムの立場からの倫理思想を考察します。具体的には、デューイらの古典的プラグマティズムやローティらの現代版プラグマティズムの倫理思想を検討します。こうした学習を通じて、倫理学観点からの「論理」に基づいて思考していく力の向上をめざすとともに、小中社会および高等学校公民の指導において必要な思考力の涵養をめざします。	
	教育科学特論（倫理学Ⅱ B）		小中社会および高等学校公民の学習目標に大きくかわる「人間の尊重」、「個人の尊厳」などの主題と関連づけて、社会的弱者に焦点を当てている倫理学的な著作について考察します。具体的には、ケアリング倫理思想、ヌスバウムらの徳を重んじる倫理思想、キースやジョリアンらの当事者による倫理思想を検討します。こうした学習を通じて、倫理学観点からの「論理」に基づいて思考していく力の向上をめざすとともに、小中社会および高等学校公民の指導において必要な思考力の涵養をめざします。	
	教育科学特論（代数学Ⅰ A）		漸化式および微分方程式について理論を学習し、数学教員としての素養を高める。	
	教育科学特論（代数学Ⅰ B）		漸化式および微分方程式についての理論を深く理解し、学校現場で利用できるようにする。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学特論（代数学Ⅱ A）		単因子論について理論を学習し、数学教員としての素養を高める。	
	教育科学特論（代数学Ⅱ B）		単因子論についての理論を深く理解し、漸化式や微分方程式をはじめ、様々な応用を学ぶ。	
	教育科学特論（代数学Ⅲ A）		小中高等学校数学でも扱う整数の性質を代数的に理解するのに必要な、初等整数論の基本事項について講義をする。「整数、小数及び分数の計算の意味について理解し、それらの計算の仕方を考え、計算に習熟し活用することができる」能力を養うために必要な事柄を、代数的なものの方から講義する。	
	教育科学特論（代数学Ⅲ B）		小中高等学校数学で扱う整数の除法の余りの性質について、代数的な観点から講義を行う。	
	教育科学特論（代数学Ⅳ A）		代数学に関連した教材の数学的背景について説明し、代数学を用いた数学の教材作りを行う。	
	教育科学特論（代数学Ⅳ B）		代数学の立場から算数・数学の教科書を見直し、数学の教員としての資質を高める。	
	教育科学特論（幾何学Ⅰ A）		この講義では、図形の対称性を記述する数学的な道具である「群論」を利用して、正多角形や正多面体、平面幾何文様などの図形を数学的に解明する。具体的には、「群」の概念・公理の復習から始めて、平面上の正多角形の対称性を記述する「二面体群」、空間内の正多面体の対称性を記述する「正多面体群」を取り上げた後、図形の対称性を記述するために必要な数学的道具（ユークリッド空間、数ベクトル空間、一般線形群、直交群、線形変換、直交変換など）について学習する。	
	教育科学特論（幾何学Ⅰ B）		この講義は「幾何学ⅠA」の続編であり、図形の対称性を記述する数学的な道具である「群論」を利用して、正多角形や正多面体、平面幾何文様などの図形を数学的に解明する。具体的には、群論の基本事項（準同型写像、準同型定理、群の直積・半直積）を復習した後、ユークリッド空間上の合同変換および、その全体からなる合同変換群を導入し、群論の知識を用いて、平面上の合同変換群の群構造を完全に決定する。さらに、応用として、平面上の繰返し文様と文様群について学習する。	
	教育科学特論（幾何学Ⅱ A）		「トポロジー（位相幾何学）」は「柔らかい幾何学」とも呼ばれ、連続的に変形しても変わらない、図形の性質を調べる分野である。この講義では、「トポロジー（位相幾何学）」について、基本的な考え方や手法を学習する。具体的には、トポロジーの先駆けとも言えるオイラー（Euler）の「ケーニヒスベルク（Konigsberg）の橋渡りの問題」や「多面体定理」、平面グラフの切断数やベッチ（Betti）数を取り上げ、トポロジーの基本的な考え方を理解することを目指す。	
	教育科学特論（幾何学Ⅱ B）		この講義は「幾何学ⅠA」の続編であり、引き続き「トポロジー（位相幾何学）」について、基本的な考え方や手法を学習する。具体的には、幾何学ⅠAで学習したトポロジーの基本的な考え方をを用いて、写像の回転数を定義し、その応用としてブラウワー（Brouwer）の不動点定理やボルスク・ウラム（Borsuk-Ulam）の定理を学習する。さらには、曲面上のベクトル場の概念を導入し、ベクトル場の零点と曲面のオイラー標数との関係を記述するオイラー・ポアンカレ（Poincare）の定理を取り上げ、その応用として、ハミルトン（Hamilton）の「四元数」を含む「数の体系」について学習する。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学特論（解析学Ⅲ A）		小学校算数、中学校および高等学校数学で扱う教科内容について、その原理や構造を数理科学的に理解するために必要な概念を学ぶ。応用数理科学の探求に必要な数学として、関数解析の基礎を学ぶ。実数列の極限やベクトル空間の定義を確認する地点からスタートとし、関数解析の前提となる考え方（距離空間等）と関数解析の基本的な舞台の一つであるノルム空間で展開される基本的な理論について学び、学校数学で扱う教科内容との関連等についても考察する。	
	教育科学特論（解析学Ⅲ B）		小学校算数、中学校および高等学校数学で扱う教科内容について、その原理や構造を数理科学的に理解するために必要な概念を学ぶ。応用数理科学の探求に必要な数学として、関数解析の基礎を学ぶ。ここでは関数解析の基本的な舞台（ノルム空間、内積空間、バナッハ空間、ヒルベルト空間、共役空間）で展開される基本的な理論を学ぶ中で、特にバナッハ空間上の線型作用素についての基礎概念として、連続性、有界性、作用素の双対と各種の収束等に注目する。ヒルベルト空間上の作用素については作用素の共役の概念を導入しその基本性質を確認しながら、学校数学での教科内容との関連等についても考察する。	
	教育科学特論（解析学Ⅳ A）		小学校算数、中学校および高等学校数学で扱う教科内容について、その原理や構造を数理科学的に理解するために必要な概念を学ぶ。応用数理科学の探求に必要な数学として、作用素論の基礎を学ぶ。ヒルベルト空間の上での有界作用素の理論について学ぶ。ここでは、一つの見方として関数解析を線形代数の拡張としてとらえ、基本の概念であるベクトル空間、内積空間の基本性質を確認した上で、シュワルツの不等式から始めて、正規直交系、次元、直交分解、リースの表現定理等を学び、学校数学の教科内容との関連等についても考察する。	
	教育科学特論（解析学Ⅳ B）		小学校算数、中学校および高等学校数学で扱う教科内容について、その原理や構造を数理科学的に理解するために必要な概念を学ぶ。応用数理科学の探求に必要な数学として、作用素論の基礎を学ぶ。ヒルベルト空間の上での有界作用素の理論について学ぶ。ヒルベルト空間上の作用素について、作用素の共役の概念に着目して作用素を分類し、自己共役または対称、正規、ユニタリー等の概念を導入する。特に、自己共役作用素には大小の概念が導入され、実数の世界での性質が再現されることから、学校数学の教科内容との関連等についても考察する。さらに、作用素のスペクトルの基本性質とスペクトルの分類についても学ぶ。	
	教育科学特論演習（数学Ⅰ A）		漸化式および微分方程式についての演習を通して数学教員としての素養を高める。	
	教育科学特論演習（数学Ⅰ B）		小中高における算数・数学の整数分野に関連する数の体系(実数、複素数、四元数)について概説する。	
	教育科学特論演習（数学Ⅰ C）		「ユークリッド幾何学」における「第五公準(平行線の公理)」を証明しようとする試みの中から、「非ユークリッド幾何学」という新しい幾何学が誕生した。この演習では、文献の講読および受講生による発表を通して、「ユークリッド幾何学」から「非ユークリッド幾何学」を含む新しい幾何学が誕生した経緯について学習する。具体的には、ユークリッドの「原論」第1巻の48個の命題の吟味から始めて、「第五公準(平行線の公理)」の役割、意味するところを理解することを目標とする。	
	教育科学特論演習（数学Ⅰ E）		小学校算数、中学校および高等学校数学で扱う教科内容について、その原理や構造を数理科学的に理解するために必要な概念を学ぶ。応用数理科学の探求に必要な数学として基本的な不等式を取り上げ、その証明や関連する事項について学ぶ。適宜、演習を行う。ここでは、相加平均（算術平均）は相乗平均（幾何平均）より大であるという有名な定理の複数の証明をを学び、そこで現れる証明の手法について考察する。さらに、凸関数の一般的性質と凸関数に關係する不等式、累乗関数に関する調和的で美しい関係、コーシーの不等式とその拡張等についても考察する。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学特論演習（数学Ⅱ A）		単因子論についての演習を通して数学教員としての素養を高める。	
	教育科学特論演習（数学Ⅱ B）		小中高における算数・数学の整数分野に関連する初等整数論(平方剰余の相互法則)について概説する。	
	教育科学特論演習（数学Ⅱ C）		「ユークリッド幾何学」における「第五公準(平行線の公理)」を証明しようとする試みの中から、「非ユークリッド幾何学」という新しい幾何学が誕生した。この演習は、演習ICの続きとして文献の講読および受講生による発表を通して、「ユークリッド幾何学」から「非ユークリッド幾何学」を含む新しい幾何学が誕生した経緯について学習する。具体的には、「第五公準(平行線の公理)」を証明しようとした様々な試み(サッケーリ(Saccheri)、ランベルト(Lambert)、ルジャンドル(Legendre))について学習し、そこからボヤイ(Bolyai)とロバチェフスキー(Lobachevsky)による「双曲幾何学」の発見の経緯を概観し、最後に双曲幾何学のモデルの一つである「ポアンカレのモデル」を紹介する。	
	教育科学特論演習（数学Ⅱ E）		小学校算数、中学校および高等学校数学で扱う教科内容について、その原理や構造を数理科学的に理解するために必要な概念を学ぶ。応用数理科学の探求に必要な数学として標準的な不等式を取り上げ、その証明や関連する事項について学ぶ。適宜、演習を行う。有名な不等式の多くは純粋数学および応用数学の双方において良い結果をもたらしている。ここでは、ベルヌイの不等式、ヤングの不等式、平均に関する不等式、ヘルダーの不等式、チェビシェフの不等式、ミンコフスキーの不等式、イェンゼンの不等式等を取り上げ、相互関係や性質、それらの拡張等について考察する。	
	教育科学特論（理科教育学Ⅰ A）		我が国の現在の理科教育を理解したり、これからの理科教育を創造したりするために、本講義では理科教育（学）を歴史的な視点から追究する。その中で、歴史的に一貫して重視されている理科教育の目的・目標、内容、方法について見いだしたり、社会的な影響等により変化、発展している点を見いだしたりする。そして、これらの学修を通して、現在の理科教育を史的な連続性から捉えることができるような見方や考え方を養う。	隔年
	教育科学特論（理科教育学Ⅰ B）		理科教育学的見地から、近年の理科教育に関する動向について講義を行う。なお、本講義では理科教育学の中でも、とりわけアーギュメント、モデリングなどの学習指導に関する領域を扱う。そして、理科教育学のこれらの知見から、理科教育全体や個別の理科授業に対する見方・考え方を養うとともに、理科教育を科学として捉える能力を身に付ける。	隔年
	教育科学特論（理科教育学Ⅱ A）		我が国の現在の理科教育を理解したり、これからの理科教育を創造したりするために、本講義では理科教育（学）を海外との比較を通して追究する。その中で、国際的に共通して重視されている理科教育の目的・目標、内容、方法について見いだしたり、その国の歴史や文化、社会情勢等により日本と異なっている点や日本が他の国と異なっている点を見いだしたりする。そして、これらの学修を通して、日本の理科教育を文化的、社会的な視点から捉えることができるような見方や考え方を養う。	隔年
	教育科学特論（理科教育学Ⅱ B）		教科教育学的見地から、近年の理科教育に関する動向について講義を行う。なお、本講義では教科教育学の中でも、とりわけ教科の本質論、構成原理に関する領域を扱う。そして、教科教育学のこれらの知見から、理科教育全体や個別の理科授業に対する見方・考え方を養うとともに、理科教育を科学として捉える能力を身に付ける。	隔年
	教育科学特論演習（理科教育学 A）		これからの理科教育を創造するために、本講義ではESDについて扱う。具体的には、気候変動問題を中心としながら、理科教育の視点から取り組めること、理科教育の枠組みを超えて取り組まなければならないこと等を見だし、その具体的な方策について検討する。そして、このような学修を通して、新たな理科教育、理科授業を創造することのできる見方や考え方を養う。	隔年

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学特論演習（理科教育学B）		学習科学的見地から、近年の理科教育に関する動向について講義を行う。なお、本講義では学習科学の中でも、とりわけ社会構成主義、状況論の観点から学習者と環境の相互作用に関する領域を扱う。そして、学習科学のこれらの知見から、理科教育全体や個別の理科授業に対する見方・考え方を養うとともに、理科教育を科学として捉える能力を身に付ける。	隔年
	教育科学特論（物理学ⅠA）		小中高等学校理科で扱う物質の物性を科学的に理解するために必要な概念を講義する。理科で扱う物性（電気伝導、熱伝導、磁性、状態の変化他）の理解に欠かすことのできない事項を学修する。特にIAでは磁性と状態変化の原理について学修する。「理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行う」ために必要不可欠な自然を見る目を養うために必要な量子力学的見方を中心に、物性物理の基礎を学ぶ。	隔年
	教育科学特論（物理学ⅠB）		小中高等学校理科で扱う物質の物性を科学的に理解するために必要な概念を講義する。理科で扱う物性（電気伝導、熱伝導、磁性、状態の変化他）の理解に欠かすことのできない事項を学修する。特にIBでは電気伝導と熱伝導の原理について学修する。「理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行う」ために必要不可欠な自然を見る目を養うために必要な量子力学的見方を中心に、物性物理の基礎を学ぶ。	隔年
	教育科学特論（物理学ⅡA）		教育科学を学修するために必要な専門科目としてこの授業を設ける。小中高等学校の理科実験の意味を理解して授業を構成する能力を養うために、物理で使用される磁性や相転移に関する実験手法の原理を科学的に学ぶ。各種測定技術を知ることによって様々な工夫を認識し、小中高等学校の理科で扱う実験に工夫を加える能力を養う。	隔年
	教育科学特論（物理学ⅡB）		教育科学を学修するために必要な専門科目としてこの授業を設ける。小中高等学校の理科実験の意味を理解して授業を構成する能力を養うために、物理で使用される電気伝導や光・音に関する実験手法の原理を科学的に学ぶ。各種測定技術を知ることによって様々な工夫を認識し、小中高等学校の理科で扱う実験に工夫を加える能力を養う。	隔年
	教育科学特論演習（物理学ⅡA）		教育科学を学修するために必要な専門科目としてこの授業を設ける。自然科学的事象を通して教育科学に関わるときに必要な知見を学修する。合わせて、小中高等学校の理科実験の意味を理解して授業を構成する能力を養うために、物理で使用される磁性や相転移に関する実験を体験することでその原理を理解する。各種測定技術を知ることによって様々な工夫を認識し、小中高等学校の理科で扱う実験に工夫を加える能力を養う。	隔年
	教育科学特論演習（物理学ⅡB）		教育科学を学修するために必要な専門科目としてこの授業を設ける。自然科学的事象を通して教育科学に関わるときに必要な知見を学修する。合わせて、小中高等学校の理科実験の意味を理解して授業を構成する能力を養うために、物理で使用される電気伝導や光・音に関する実験を体験することでその原理を理解する。各種測定技術を知ることによって様々な工夫を認識し、小中高等学校の理科で扱う実験に工夫を加える能力を養う。	隔年
	教育科学特論（物理学ⅢA）		小学校、中学校、高等学校の理科の物理分野で扱われる光の性質に関連したテーマを設定し、物質科学の先端的研究例に基づいて、物理法則、概念、科学的背景を学ぶ。受講生自ら課題を設定し、プレゼンテーションおよび討論形式を取り入れることで、小学校、中学校、高等学校の理科教員として必要とされる探求能力や説明能力および教育科学を学理探求するための資質能力の育成を図る。	隔年
	教育科学特論（物理学ⅢB）		小学校、中学校、高等学校の理科の物理分野で扱われる電磁気現象に関連したテーマを設定し、物質科学の先端的研究例に基づいて、物理法則、概念、科学的背景をミクロな観点から学ぶ。受講生自ら課題を設定し、プレゼンテーションおよび討論形式を取り入れることで、小学校、中学校、高等学校の理科教員として必要とされる探求能力や説明能力および教育科学を学理探求するための資質能力の育成を図る。	隔年
	教育科学特論（物理学ⅣA）		小学校、中学校、高等学校の理科の物理分野の内容と機能性材料科学に関連したテーマを設定し、物理法則、概念、科学的背景をミクロな観点から学ぶ。	隔年

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学特論（物理学Ⅳ B）		小学校、中学校、高等学校の理科の物理分野の内容とエネルギー材料に関連したテーマを設定し、物理法則、概念、科学的背景をミクロな観点から学ぶ。	隔年
	教育科学特論演習（物理学 Ⅲ A）		小学校、中学校、高等学校の理科の物理分野で扱われる内容に関連したテーマを設定し、物質の性質に関する先端的研究例に基づいて、物理法則、概念および科学的背景を演習形式で学ぶ。	隔年
	教育科学特論演習（物理学 Ⅲ B）		小学校、中学校、高等学校の理科の物理分野で扱われる内容に関連したテーマを設定し、物質の構造に関する先端的研究例に基づいて、物理法則、概念および科学的背景を演習形式で学ぶ。	隔年
	教育科学特論（有機化学Ⅰ A）		有機化学の学問体系、様々な化学反応のメカニズム、基本的な合成反応について概説する。有用な化学物質の合成法や性質等、石油化学の内容についても述べる。こととし、有機化学系の研究に携わるための基本的な知識を養う。高校化学で扱う有機化学の内容に関し、それらを学ぶ意義について、また生活における有機化合物との関わりなど、理科教員として必要な基礎知識についても論じる。随時、有機合成実験の授業も行い、化合物や器具類の取り扱いや安全管理についての知識を習得する。	隔年
	教育科学特論（有機化学Ⅰ B）		有機化学分野において、特に高分子化学の内容について詳説する。様々な重合反応のメカニズムや基本的な合成反応について概説する。有用な繊維、プラスチックの合成法や性質等についても述べる。こととし、有機化学系の研究に携わるための基本的な知識を養う。理科教育全般、あるいは高校化学で扱う高分子化学関連の内容に関し、それらを学ぶ意義について、また生活における高分子化合物との関わりなど、理科教員として必要な基礎知識についても論じる。随時、高分子合成に関する実験授業も行い、化合物や器具類の取り扱いや安全管理についての知識を習得する。	隔年
	教育科学特論（有機化学Ⅱ A）		有機化学分野において、主に生体関連物質の性質に関連する内容について広く概説する。生活に関する有機化合物（各種食品添加物など）、有用な天然化合物、生理活性物質、あるいは天然の毒生物質の性質等についても述べる。こととし、有機化学系の研究に携わるための基本的な知識を養う。高校化学で扱う生物物質の内容に関し、それらを学ぶ意義について、また生活における生体関連化合物との関わりなど、理科教員として必要な基礎知識についても論じる。	隔年
	教育科学特論（有機化学Ⅱ B）		有機化学分野において、本講義では主に医薬品化学や医薬品製造方法に関する内容について概説する。生活で汎用されているような医薬品類の合成反応を取り上げ論説する。物質生産としての医薬品製造と石油化学の関連についても述べる。こととし、有機化学系の研究に携わるための基本的な知識を養う。高校化学で扱う医薬品関連の内容に関し、それらを学ぶ意義について、また生活における医薬品との関わりなど、理科教員として必要な基礎知識についても論じる。	隔年
	教育科学特論（生物化学Ⅰ A）		生物化学分野において、本講義では主に遺伝子関連物質、タンパク質の内容について詳説する。代表的な生体物質であるアミノ酸やタンパク質の構造、遺伝子に含まれる拡散塩基、DNA、RNAの構造と生物機能について論じる。遺伝子情報の転写、翻訳、タンパク質合成について解説することで生物化学で重要となるタンパク質高次構造等への理解を深める。代表的な機能性タンパク質（インスリン、各種酵素類など）の構造と生体内における機能、加えて細胞のシグナル伝達系についても概説する。	隔年
	教育科学特論（生物化学Ⅰ B）		生物化学分野において、本講義では主に栄養素の代謝（分解、生合成）、ホルモン等の重要生体物質の構造、機能、生合成などについて詳説する。3大栄養素とされる炭水化物、脂質、タンパク質の構造や、その代謝経路について概説し、ATP生産に関連する生体エネルギー論についても論説する。また中等理科教育でも扱うような消化酵素の構造や機能についても解説し、随時、生体反応（酵素反応等）を用いた実験授業も行い、生体内化学反応についての理解を深める。	隔年

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		教育科学特論（生物化学Ⅱ A）		生物化学分野において、本講義では主に医薬品の構造と機能について論じ、特に抗菌薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬、加えて各種ワクチンの作用等について詳説する。様々な感染症治療薬の歴史、化学構造と作用機序について、また人類の健康を支えてきたそれら治療薬の現状、将来における薬剤耐性菌の問題等についても解説する。現代社会において、様々な感染症へのワクチン開発が進められているが、その方法、効果や問題点について議論し、科学リテラシーと生物化学、また理科教育との関連性についても理解を深める。	隔年
		教育科学特論（生物化学Ⅱ B）		生物化学分野において、本講義では主に医薬品の構造と機能、及び農薬の作用機序等について論じる。特に抗炎症薬、降圧剤などの汎用医薬品の構造と作用機序、抗癌剤や糖尿病治療薬、また農薬として重要な殺虫剤や除草剤の構造と機能などについて詳説する。加えて、本講義を農業の進歩と人口増加における化学肥料や農薬の普及の関係、その問題点などについて議論する機会とし、生物化学と科学リテラシー、また理科教育との関連性についても理解を深める。	隔年
		教育科学特論演習（分析化学 A）		分析化学全般において、様々な分析方法とその原理について概説する。また本講義では主に滴定実験における基本的な操作方法や原理、様々な呈色反応について述べることで、化学系の教育研究に携わるための基本的な知識を養う。理科教育全般、および高校化学で扱う上記分析化学の内容に関し、それらを学ぶ意義について、また理科教員として必要な基礎知識についても論じる。随時実験観察の授業も行い、化合物や器具類の取り扱い、安全管理についての知識や技術を習得する。	隔年
		教育科学特論演習（分析化学 B）		分析化学分野において、特に機器分析の手法とその原理について概説する。本講義では主に各種スペクトル測定における基本的な操作方法や原理、化合物の構造決定法について述べることで、化学系の研究に携わるための基本的な知識を養う。高校化学で扱う機器分析の内容に関し、それらを学ぶ意義について、また科学技術の進歩と機器分析技術との関わりなど、理科教員として必要な基礎知識についても論じる。随時機器分析装置を利用した授業も行い、機器や器具類の取り扱いについての知識や技術を習得する。	隔年
		教育科学特論（無機化学 A）		無機化学分野全般における、様々な化合物の構造や性質について論説する。また本講義では錯体化学の内容について概説し、遷移元素錯体の構造や性質、その分析方法の原理等についても述べることで、化学系の研究や教育に携わるための基本的な知識を養う。高校化学で扱う無機化学の内容に関し、それらを学ぶ意義について、また無機化学と分析化学との関わり、無機材料と科学技術の進歩との関係など、理科教員として必要な基礎知識についても論じる。	隔年
		教育科学特論（無機化学 B）		無機化学の内容において、本講義では様々な機能性無機化合物の構造や性質について論説する。特に生体関連無機化合物や、環境保全に関する無機材料について詳説し、水質浄化への利用方法やその原理等についても述べることで、化学系の研究や教育に携わるための基本的な知識を養う。理科教育全般、あるいは高校化学で扱う無機材料に関する内容に関し、それらを学ぶ意義について、また無機化学と環境化学との関わりなど、理科教員として必要な基礎知識についても論じる。	隔年
		教育科学特論演習（無機化学 A）		無機化学の内容において、本講義では様々な金属資源の確保や利用方法について概説する。鉄や銅など、生活に密着する金属材料の製錬方法等について詳説することが講義例であり、その他化学系の研究や教育に携わるための基本的な知識を養う。理科教育全般、あるいは高校化学で扱う金属材料に関する内容に関して理解し、理科教員として必要な基礎知識について学ぶ。随時、重金属イオンの性質を見る実験観察授業も行い、化学物質や実験器具類の取り扱いについての知識や技術を習得する。	隔年
		教育科学特論演習（無機化学 B）		無機化学の内容において、本講義では主に金属資源と環境問題の関係について概説する。過去の金属資源確保に必要であった鉱山開発と公害問題等について詳説することが講義例であり、その他無機化学が関連する問題への理解を深め、化学系の教育に携わるための基本的な知識を養う。理科教育全般で扱う環境問題、特に重金属汚染の内容に関しても理解する機会とし、理科教員として必要な基礎知識について学ぶ。随時、有害無機物質分析等の実験観察授業も行い、またESDとの関連について演習形式で論じる。	隔年
		教育科学特論（物理化学 A）		物理化学分野全般における、様々な化学現象について概説する。本講義では熱力学、化学反応における反応速度論、化学平衡等の基本的な内容について論じ、化学系の研究や教育に携わるための基本的な知識を養う。溶解、物質の3態など理科教育の粒子領域で扱う内容との関連、また高校化学で扱う上記物理化学分野の内容を取り上げ、それらを学ぶ意義について、また物理化学と他の化学分野との関わりなど、理科教員として必要な基礎知識についても論じる。	隔年

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学特論（物理化学 B）		物理化学分野全般における、様々な化学現象について概説する。本講義では電気化学、界面化学、分光法等の基本的な内容について論じ、化学系の研究や教育に携わるための基本的な知識を養う。界面化学においては物質の吸着現象の原理、また分光法の解説においては、赤外・可視・紫外吸収の原理や、それらの機器分析化学への応用について論じることが講義例となる。高校化学で扱う上記物理化学の内容に関し、それらを学ぶ意義について、理科教員として必要な基礎知識についても論じる。	隔年
	教育科学特論演習（物理化学 A）		物理化学分野の内容において、本講義では界面化学、気相、液相における吸着現象等について、実験観察授業を中心とした演習形式の授業を行う。その実験活動を通し、上記化学現象への理解を深め、また化学物質や器具類の取り扱いについての知識や実験技術を習得する。具体的には、様々な吸着物質材料（イオン交換機能材料、活性炭、ゼオライトなど）を用いた、液相における有機化合物、色素、陽イオン、陰イオンの吸着実験とその反応速度解析等が講義例となる。	隔年
	教育科学特論演習（物理化学 B）		物理化学分野の内容において、本講義では電気化学、また界面化学に関する物質の染色等について、実験観察授業を中心とした演習形式の授業を行う。その実験活動を通し、上記化学現象への理解を深め、また化学物質や器具類の取り扱いについての知識や実験技術を習得する。具体的には、様々な電極材料（各種金属や炭素電極）を利用した簡易電池の作成、色素による繊維類の染色実験等が例となる。またそれらの現象を利用した理科実験教材の開発を指導する。	隔年
	教育科学特論（動物学 I A）		授業の概要 恒常性（ホメオスタシス）という動物学でもっとも重要な概念のひとつを「ものの動き」の制御という視点でとらえ、基本的な生体制御機構について解説する。	隔年
	教育科学特論（動物学 I B）		授業の概要 恒常性（ホメオスタシス）という動物学でもっとも重要な概念のひとつを「ものの動き」の制御という視点でとらえ、各器官ごとの生体制御機構について解説する。	隔年
	教育科学特論（動物学 II A）		近年の生命科学の著しい発展によって、我々は様々な恩恵を被ると同時にいくつかの困難に直面することにもなった。神の領域にまで踏み込もうとしている現代生命科学に対して、教員としてその効用と問題点について正しく説明できることが求められる。本講義では、日々更新される生命科学研究について生理学的側面から解説する。	隔年
	教育科学特論（動物学 II B）		近年の生命科学の著しい発展によって、我々は様々な恩恵を被ると同時にいくつかの困難に直面することにもなった。神の領域にまで踏み込もうとしている現代生命科学に対して、教員としてその効用と問題点について正しく説明できることが求められる。本講義では、日々更新される生命科学研究について細胞生物学的側面から解説する。	隔年
	教育科学特論演習（動物学 A）		生命科学領域における生体制御機構に関する研究成果やその問題点について実例を挙げて解説する。また、受講生自身が関連領域の論文を講読し、その内容についての発表を行う。	
	教育科学特論演習（動物学 B）		生命科学領域における細胞制御機構に関する研究成果やその問題点について実例を挙げて解説する。また、受講生自身が関連領域の論文を講読し、その内容についての発表を行う。	
	教育科学特論（植物学 I A）		植物の生理・生態の科学的理解に必要な概念について、分子、細胞、個体、集団からなる生命の階層構造に基づいて説明する。	隔年

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学特論（植物学Ⅰ B）		植物に関する基礎的知見がいかにして科学技術や産業へ応用されているかについて、科学的な研究成果に基づいて説明する。	隔年
	教育科学特論演習（植物学 A）		本講義では、植物の栽培および成長解析の原理を科学的に理解するために必要な概念の講義および演習を行う。	
	教育科学特論演習（植物学 B）		本講義では、植物の生化学実験および遺伝学・分子生物学実験の原理を科学的に理解するために必要な概念の講義および演習を行う。	
	教育科学特論（植物学Ⅱ A）		植物の成長と発生の科学的理解に必要な概念について、変異体を用いたタンパク質機能の解明を主とした分子生物学的研究成果に基づいて説明する。	隔年
	教育科学特論（植物学Ⅱ B）		植物の環境応答の科学的理解に必要な概念について、変異体を用いたタンパク質機能の解明を主とした分子生物学的研究成果に基づいて説明する。	隔年
	教育科学特論（固体地球科学 A）		地球科学の諸分野のうち、地球史における固体地球と連動する地球表層システム（火山、プレートテクトニクス、気候など）について解説するとともに、小中高での地学分野における学習内容に関連づけて地球科学的視点から講義する。	
	教育科学特論（固体地球科学 B）		地球科学の諸分野のうち、地球史における固体地球と連動する地球表層システム（火山、プレートテクトニクス、気候など）について解説するとともに、現代の環境問題、SDGsに関連づけて地球科学的視点から講義する。	
	教育科学特論演習（固体地球科学 A）		完新世における地形や地質について、最新の研究成果等を踏まえて解説するとともに、フィールドにて地質の観察を行い、地球環境を理解するための基礎的知識の習得を行う。	
	教育科学特論演習（固体地球科学 B）		完新世における地形や地質について、最新の研究成果等を踏まえて解説するとともに、フィールドにて堆積物の観察を行い、地球環境を理解するための基礎的知識の習得を行う。	
	教育科学特論（流体地球科学 A）		小中高でも扱う日本付近の気象・気候系やその理解のための基礎過程との関連も意識して、気象の理論やマルチスケール気候・水循環系と変動（例えば温帯低気圧、台風、モンスーン、梅雨、豪雨と豪雪、海洋循環、大気海洋相互作用等）、地球規模の環境変動に対する地域規模現象の応答過程など、最先端の研究の知見も踏まえて考察・体系化する。なお、この授業は、教育科学特論（流体地球科学B）とセットとして行う。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学特論（流体地球科学B）		小中高でも扱う日本付近の気象・気候系やその理解のための基礎過程との関連も意識して、気象の理論やマルチスケール気候・水循環系と変動（例えば温帯低気圧、台風、モンスーン、梅雨、豪雨と豪雪、海洋循環、大気海洋相互作用等）、地球規模の環境変動に対する地域規模現象の応答過程、人間活動との関わりなど、教育科学特論（流体地球科学A）での内容を踏み台に、最先端の研究の知見も踏まえて更なる考察・体系化を行う。	
	教育科学特論演習（流体地球科学A）		小中高でも扱う日本付近の気象・気候系やその理解のための基礎過程との関連も意識して、気象・気候環境システムにおける諸々の重要な基礎過程、マルチスケール気候・水循環系の実態・仕組みとその変動等について、専門基礎的な教科書や研究論文の講読や、種々のデータ取得とその融合解析の手法に関する計算機も活用した実習を行なう。なお、この授業は、教育科学特論演習（流体地球科学B）とセットとして行う。	
	教育科学特論演習（流体地球科学B）		小中高でも扱う日本付近の気象・気候系やその理解のための基礎過程との関連も意識して、気象・気候環境システムにおける諸々の重要な基礎過程、マルチスケール気候・水循環系の実態・仕組みとその変動、人間活動との関わり等について、専門基礎的な教科書や研究論文の講読や、種々のデータ取得とその融合解析の手法に関する計算機も活用した実習等を行ない、教育科学特論演習（流体地球科学A）の内容を踏み台に、更に論考・技能を深める。	
	教育科学特論（音楽科教育学ⅠA）		音楽教育学研究の方法論に関する基礎的文献を講読した上で、音楽教育学に関する論文についての受講生の報告に基づいて、議論を行う。	隔年
	教育科学特論（音楽科教育学ⅠB）		ⅠAの講義内容を踏まえ、音楽教育学研究に関連する周辺諸科学の基礎的文献や論文について、議論を行う。	隔年
	教育科学特論（音楽科教育学ⅡA）		受講者の課題意識に沿って、様々な音楽教育の問題、および音楽教育学研究の諸課題を取り上げ考察していく。	隔年
	教育科学特論（音楽科教育学ⅡB）		ⅡAの講義内容を踏まえ、周辺諸科学の知見を含む音楽教育学研究の課題を取り上げ考察していく。	隔年
	教育科学特論（声楽ⅠA）		声楽発声に関する様々な問題を検討する。特に、発声時の呼吸法に着目し、歌唱する場合に起こる発声の問題点を生理学的側面から取り上げる。	隔年
	教育科学特論（声楽ⅠB）		声楽発声に関する様々な問題を検討する。特に、呼吸法と発声の関係を歌唱実践で体得する中で、歌唱する場合に起こる発声の問題点を生理学的側面から取り上げる。	隔年
	教育科学特論（声楽ⅡA）		小中学校における歌唱指導の問題点等を議論する。第1次の学習指導要領、音楽指導書から現在の学習指導要領、音楽指導書の内容について議論し、教育現場での歌唱指導・合唱指導の改善点等を検討する。	隔年

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学特論（声楽ⅡＢ）		小中学校における歌唱指導の問題点等を議論する。受講者一人一人の歌唱能力の向上をはかるとともに、諸外国の歌唱・合唱の実践例、岡山市内の小学校または中学校の授業見学等を通して、教育現場での歌唱・合唱活動の改善点等を検討する。	隔年
	教育科学特論（器楽ⅠＡ）		中世からバロック期に至る鍵盤音楽の諸作品を取り上げ、その時代の思想を踏まえながら作品を分析、構造を明らかにできるよう講義し、楽器を用いて演習する。	隔年
	教育科学特論（器楽ⅠＢ）		器楽ⅠＡを踏まえ、中世からバロック期に至る鍵盤音楽の諸作品を取り上げ、解釈と奏法について追及する。	隔年
	教育科学特論（器楽ⅡＡ）		古典派から近現代に至る鍵盤音楽の諸作品を取り上げ、その時代の思想を踏まえながら作品を分析、構造を明らかにできるよう講義し、楽器を用いて演習する。	隔年
	教育科学特論（器楽ⅡＢ）		器楽ⅡＡを踏まえ、古典派から近現代に至る鍵盤音楽の諸作品から任意の作品を取り上げ、解釈と奏法について追及する。	隔年
	教育科学特論（器楽ⅢＡ）		独奏及び少人数の器楽アンサンブルにおいて音楽の構築作業を追及し、その中の方法論と問題点を検討する。演奏を行なう上で、楽曲分析とその指導方法の内容を具体的に考え、また演奏を充実・向上させることができるように探っていく。楽曲の背景については作曲家の生きた時代背景を主に研究し、演奏への反映の手段とする。	隔年
	教育科学特論（器楽ⅢＢ）		大編成オーケストラ及び吹奏楽などの器楽アンサンブルにおいて音楽の構築作業を追及し、その中の方法論と問題点を検討する。演奏を行なう上で、楽曲分析とその指導方法の内容を具体的に考え、また演奏を充実・向上させることができるように探っていく。楽曲の背景については作曲家の国や地域の特性を主に研究し、演奏への反映の手段とする。	隔年
	教育科学特論（器楽ⅣＡ）		教会音楽及び宗教的音楽から派生した器楽アンサンブルにおいて音楽の構築作業を追及し、その中の方法論と問題点を検討する。演奏を行なう上で、楽曲分析とその指導方法の内容を具体的に考え、また演奏を充実・向上させることができるように探っていく。楽曲の背景については作曲家の宗教上（宗派など）の特性を主に研究し、演奏への反映の手段とする。	隔年
	教育科学特論（器楽ⅣＢ）		20世紀以降の近現代音楽の器楽アンサンブルにおいて音楽の構築作業を追及し、その中の方法論と問題点を検討する。演奏を行なう上で、楽曲分析とその指導方法の内容を具体的に考え、また演奏を充実・向上させることができるように探っていく。楽曲の背景については時代により新しく考案された特殊奏法の特性を主に研究し、演奏への反映の手段とする。	隔年
	教育科学特論（美術科教育学ⅠＡ）		美術科教育学を基礎づける学術的背景や、学習者理解に基づいた美術教育の空間的な環境構造の基礎についての理解を深め、児童期、青年期における美術科教育の課題解決に向けての研究基盤習得を目標とする。	隔年・共同

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		教育科学特論（美術科教育学ⅠB）		美術科教育学を基礎づける学術的背景や、学習者理解に基づいた美術教育のカリキュラム構造の基礎についての理解を深め、児童期、青年期における美術科教育の課題解決に向けての研究基盤習得を目標とする。	隔年・共同
		教育科学特論（美術科教育学ⅡA）		美術科教育実践をめぐるユニバーサルデザイン化について学修するとともに、課題に即した学術的背景を基に教育現場実践を観察し、環境構造の効果や課題を纏めることを通して理解を深る。授業は、講義と授業観察、Team Based Learning（チーム学習）を組み合わせ、協働で学修に取り組む。	隔年
		教育科学特論（美術科教育学ⅡB）		発達の道筋に沿った、美術科教育での目標と、その達成のための長期的な学習計画の効果や課題について、学術的背景を基に教育現場実践を観察し、考察を通して理解を深る。授業は、講義と授業観察、Team Based Learning（チーム学習）を組み合わせ、協働で学修に取り組む。	隔年
		教育科学特論（美術科教育学ⅢA）		学校教育における美術教育（幼児教育造形表現、小学校図画工作、中学校美術、高等学校芸術科美術・工芸）を通貫するカリキュラム構造について、以下の視点から検討する。 ・学習者の発達段階や成長過程とカリキュラムとの関係 ・育成すべき資質・能力と美術のカリキュラムとの関係 ・具体的な実践を通して抽出される課題	隔年
		教育科学特論（美術科教育学ⅢB）		美術科教育（図画工作科・美術科・芸術科）の実践的課題を各自が設定し、それぞれの課題に視点を置いた授業実践観察を行うとともに、Team Based Learning（チーム学習）を通してそれぞれの課題を共有しながら明確にさせる。	隔年
		教育科学特論（美術科教育学ⅣA）		学校教育における美術教育（幼児教育造形表現、小学校図画工作、中学校美術、高等学校芸術科美術・工芸）を通貫するカリキュラム構造について、以下の視点から検討する。 ・学習者の発達段階や成長過程とカリキュラムとの関係 ・育成すべき資質・能力と美術のカリキュラムとの関係 ・具体的な実践を通して抽出される課題	隔年
		教育科学特論（美術科教育学ⅣB）		美術科教育（図画工作科・美術科・芸術科）の実践的課題を各自が設定し、それぞれの課題に視点を置いた授業実践観察を行うとともに、Team Based Learning（チーム学習）を通してそれぞれの課題を共有しながら明確にさせる。	隔年
		教育科学特論（美術科教育学ⅤA）		美術科教育の現代的課題と科学的基盤について学修するとともに、各自が設定した課題について段階的に発表と検討を積み重ねていくことで美術科教育学研究を進めていく上での課題を共有し、その克服の方策を探る。授業は、講義とTeam Based Learning（チーム学習）を組み合わせ、協働で課題解決に取り組む。	
		教育科学特論（美術科教育学ⅤB）		各自が研究課題に取り組み、その経過を報告し合うことを通して、美術科教育研究の基礎的理解を共有すると共に、教育現場での実践的課題の解決に取り組む。授業は、講義とTeam Based Learning（チーム学習）を組み合わせ、協働で学修に取り組む。必要に応じて教育現場での実地研究を行う。	
		教育科学特論（美術科教育学ⅥA）		本授業では、まずは履修者が創造的な実践を通して、人が創造的であるということの意味について考え、学習者の創造性を開発するために必要な要件について検討する。さらに、不断の授業改善を積み重ねてより良い教育実践を目指す美術教育の指導者に求められる創造的実践者としての資質・能力について考え、創造的教育者(Creative Educator)に求められる要件を導き出す。学修は、講義、演習、Team Based Learning(TBL)を組み合わせで行う。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学特論（美術科教育学ⅥB）		本授業では、創造的実践者を育成する美術教育の視点から美術鑑賞の可能性について検討する。従来の美術鑑賞とは異なる、創造的思考を中心とした鑑賞学習により培われる資質・能力について、具体的な実践を通して検討していく。美術教育を通して創造的教育者(Creative Educator)を育成する具体的な手立てを明らかにしていく事をめざす。学修は、講義、演習、Team Based Learning(TBL)を組み合わせで行う。	
	教育科学特論（美術科教育学ⅦA）		美術科教育すなわち現在の小学校図画工作科、中学校・高等学校美術科の成立過程について、明治初期から昭和戦前・戦中期までを対象に解説する。まず、明治期における「美術」概念の受容と普及の過程を確認し、学校教育制度がどのような役割を果たしてきたと考えられるか、具体的な史料、特に明治前期の鉛筆画教科書と明治中期の毛筆画教科書を通覧することによって検討する。さらに、明治後期から昭和戦前・戦中期の国定図画教科書および手工教科書についても検討し、その性格が大きく変化した背景には何があったのかを明らかにする。授業の後半では、大正期の自由画教育運動と学校における美術科教育のあり方について、史料の読解を踏まえた受講生によるディスカッションを通して考察を深める。	
	教育科学特論（美術科教育学ⅦB）		美術科教育すなわち現在の小学校図画工作科、中学校・高等学校美術科の成立過程について、昭和戦後期から高度経済成長期、昭和後期から現在に至るまでを対象に解説する。まず、戦前・戦中期と戦後期の断絶と連続に関して、具体的な史料、特に図画工作科教科書が登場する以前の参考書や戦前・戦後を通じて活況を呈していた美術教育ジャーナリズムの言説に基づいて検討する。さらに、昭和20年代から30年代にかけての民間美術教育団体の動向や教員養成系大学・学部において開始された美術科教育研究の方向性を確認する。授業の後半では、図画工作科・美術科の学習指導要領の変遷の背景に何があったのかについて、史料の読解を踏まえた受講生によるディスカッションを通して考察を深める。	
	教育科学特論（平面造形ⅠA）		TBL（Team Based Learning）と課題研究を進めることにより、平面造形の多様な造形様式に関する学術的背景を掘り下げ、発想・構想を導く基礎的な造形能力の教育的課題を探究する。	隔年
	教育科学特論（平面造形ⅠB）		TBL（Team Based Learning）と課題研究を進めることにより、平面造形の多様な表現内容に関する学術的背景を掘り下げ、発想・構想を導く基礎的な表現能力の教育的課題を探究する。	隔年
	教育科学特論（平面造形ⅡA）		個々の研究テーマに沿って、TBL（Team Based Learning）と課題研究を進めることにより、平面造形に必要なコンテンツの学術的背景を掘り下げ、発想・構想を導く基礎的な編集能力の教育的課題を探究する。	隔年
	教育科学特論（平面造形ⅡB）		個々の研究テーマに沿って進められた、TBL（Team Based Learning）と課題研究の成果をコンテンツとし、平面造形に必要なデザイン概念の学術的背景を掘り下げ、発想・構想を導く基礎的なデザイン能力の教育的課題を探究する。	隔年
	教育科学特論（立体造形ⅠA）		基本的には個々の研究テーマに沿って立体造形との関連事項を検討。関連図書の講読と探究を通して立体造形の学術的背景を掘り下げる。	隔年
	教育科学特論（立体造形ⅠB）		（基本的には個々の研究テーマに沿って立体造形との関連事項を検討。） ⅠAで研究した内容について、立体造形の制作を通して実践し、基礎的な造形能力の教育的課題を探究する。	隔年

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		教育科学特論（立体造形Ⅱ A）		TBLと制作を通して立体造形の学術的背景を掘り下げ、発想・構想を導く基礎的な能力の教育的課題を探究する。 参考書籍をベースに講読と、理解を元にした立体造形の試作と討議、展開を模索する。	隔年
		教育科学特論（立体造形Ⅱ B）		TBLと制作演習を通して立体造形の学術的背景を掘り下げ、工芸・デザインの本質的な課題を問いながら、モノを「つくり」「つかう」ことの教育的課題を探究する。	隔年
		教育科学特論（立体造形Ⅲ A）		TBLと制作演習を通して立体造形の学術的背景を掘り下げ、発想・構想を導く基礎的な能力の教育的課題を探究する。	
		教育科学特論（立体造形Ⅲ B）		造形論に関する書籍を選択し、各単元のテーマをTBLと調査で研究。 教材資料の収集と共に、読解による作品制作を通して教育的課題を探究する。	
		教育科学特論（美術理論・美術史A）		授業前半は講義形式で、美学、芸術学や美術史研究の発生と展開について概説する。この段階での目的は、受講生が近代日本における美学・芸術学・美術史学の受容過程や学問分野としての発展過程を理解することである。授業中盤は演習形式で進め、受講生が自身の専門分野や関心の範囲に基づいて、日本の近代までの範囲内で研究対象を定めたうえで、具体的な作品や作家に関して研究を深める探究活動を支援する。この段階では、先行研究のレビュー、問題意識の明確化、具体的な史料へのアクセス、分析方法の確立等に、受講生が主体的に取り組むことを目的とする。最終的に受講生は、自分で設定したテーマについて小論文を作成し、最終回の授業でプレゼンテーションを行い、ディスカッションを通して考察を深める。	隔年
		教育科学特論（美術理論・美術史B）		授業前半は講義形式で、現在の美学、芸術学や美術史研究の動向について概説する。この段階での目的は、受講生が、美学・芸術学・美術史学において現時点で何が課題あるいは争点となっているかを理解することである。授業中盤は演習形式で進め、受講生が自身の専門分野や関心の範囲に基づいて研究対象を定めたうえで、具体的な作品を実見することを重視し、作品成立を支える諸要因について研究を深める探究活動を支援する。作品とその展示空間との関係、鑑賞者の作品への反応といった課題に、受講生が主体的に取り組むことを目的とする。最終的に受講生は、自分で設定したテーマについて小論文を作成し、最終回の授業でプレゼンテーションを行い、ディスカッションを通して考察を深める。	隔年・共同
		教育科学特論（美術理論・鑑賞A）		授業前半は講義形式で、美術科教育において表現領域と同様に重視されるべき鑑賞領域についての基本的な理論を概説する。まず、鑑賞とはどのような行為なのかを多角的に論じる。続いて、幼児・児童の描画発達段階や鑑賞能力の発達段階に関する最新の研究動向を整理して提示する。さらに美術鑑賞教育のタイポロジーについて解説し、表現と鑑賞を一体化した図画工作科・美術科の単元構成について論じる。授業後半では、特に小学校高学年以上を対象とする授業実践において、他者に「見せる」ことを意識した展覧会の企画・展示活動（キュレーション）を導入する事例を取り上げ、具体的に検証する。授業終盤では、受講生によるディスカッションを通して、学校教育および社会教育における鑑賞学習支援の意義について理解を深める。	
		教育科学特論（美術理論・鑑賞B）		授業前半は講義形式で、現代の美術教育において様々なかたちで導入が試みられている「対話型鑑賞」について解説する。まず、教育の場で対話が重視される理由について時代を遡って考察したうえで、対話を取り入れた美術鑑賞授業の試みがどのように始まったかを検証する。中盤からは演習形式で、1990年代半ばに日本の美術館教育に導入されたVTS（Visual Thinking Strategies）と呼ばれる対話型鑑賞の理論的背景、日本への受容過程や学校教育への広がり等のトピックについて、基本的な文献や先行研究のレビューを行いながら検証する。授業終盤では、受講生自身によるファシリテーション実践と振り返りの活動を通して、対話型鑑賞の意義について理解を深める。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		教育科学特論（保健体育科教育学ⅠA）		体育授業をどのようにデザインしていくのかについて、学問的な知見をもとに考える。その際に、これまで議論されてきた学習論やプレイ論を深く理解し、授業として児童生徒にどのような学びを準備すれば良いのかについてディスカッションを通して考えを深める。また、関連学会の議論を紹介し新たな情報を獲得しながら理解していく。	
		教育科学特論（保健体育科教育学ⅠB）		体育授業を実際に観に行き、児童生徒の実態とそこでの学びを理解すると同時に現場の教員とのディスカッションを通して自らの考えを深める。また、ビデオ等で体育授業を分析し、客観的に授業を捉えることができるような活動を実施する。その活動と、関連学会の議論を比較検討しながら理解していく。	
		教育科学特論（保健体育科教育学ⅡA）		プレイ論から体育授業を理論的に検討し、人間とスポーツの関係を問い直す。様々なデータや知見から、豊かなスポーツライフを構築するために必要な考え方を獲得し、ディスカッションを通して考えを深める。また、関連学会の議論を紹介し新たな情報を獲得しながら理解していく。	
		教育科学特論（保健体育科教育学ⅡB）		スポーツをゲーム論という視点から考えることによって、体育授業の中で児童生徒が何を考えながらプレイしているのかについて行為論のレベルから捉え直す。また、ゲーム論から捉えた際に、実際の授業がどのように変わるのかについて現場との対話を通して学びを深める。	
		教育科学特論（体育学A）		体育学のうち人文領域の研究を進める上での基礎となる研究方法、研究対象、研究動向を確認するためにテキストの解説と受講者間での輪読を行う。 体育学（人文領域）について詳説し、関連学会で議論の対象とされている課題について解説する。	
		教育科学特論（体育学B）		体育学の分野のうち体育・スポーツ哲学領域に焦点を当て、研究を進める上での基礎となる研究方法、研究対象、研究動向を確認するためにテキストの解説と受講者間での輪読を行う。 体育学の分野のうち体育・スポーツ哲学領域について詳説し、関連学会で議論の対象とされている課題について解説する。	
		教育科学特論演習（体育学A）		体育学の人文科学領域の書籍をテキストとして取り上げ、受講生同士で輪読することで、体育学の人文科学領域で議論の対象とされている課題を明確にして、その課題について批判的に思考する。レジュメや発表スライドの作成を通して、研究成果発表の方法、人文科学領域の研究資料の作成方法等についても解説する。	
		教育科学特論演習（体育学B）		体育学の人文科学領域の中でも、特に体育哲学領域から公表された論文をテキストとして取り上げ、受講生同士で輪読することで、体育哲学領域で議論の対象とされている課題を明確にして、その課題について批判的に思考する。レジュメや発表スライドの作成を通して、研究成果発表の方法、人文科学領域の研究資料の作成方法等についても解説する。	
		教育科学特論（運動学ⅠA）		身体運動のメカニズムを分析・考察するために不可欠な運動学に関する知識の確認と、運動指導につながる運動分析や実験（計画）法についてテキスト、関連学会論文を詳説することで体育及び保健体育科にある課題を明確にしてその解決策を探る。	
		教育科学特論（運動学ⅠB）		身体運動のメカニズムを分析・考察するために不可欠な運動学に関する知識の確認と、運動指導につながる運動分析や実験（計画）法についてテキスト、関連学会論文を詳説することで体育及び保健体育科にある課題を明確にしてその解決策を探る。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学特論演習（運動学ⅠA）		運動学（身体表現領域）に関連する研究の中から、受講生が興味を持つテーマについて文献を選び、受講生とともに批判的検討を行う。	
	教育科学特論演習（運動学ⅠB）		運動学（身体表現領域）に関連する研究の中から、受講生が興味を持つテーマについて文献を選び、受講生とともに批判的検討を行う。	
	教育科学特論（学校保健学A）		学校保健，中でも子どもの体力向上に関係する内容について概説すると共に、受講生がこの分野で興味ある文献を抄読し、その内容についてディスカッションしていく。	
	教育科学特論（学校保健学B）		学校保健，中でも子どもの健康増進に関係する内容について概説すると共に、受講生がこの分野で興味ある文献を抄読し、その内容についてディスカッションしていく。	
	教育科学特論（技術科教育学ⅠA）		中学校に技術科が新設された理由，その歴史および現状と課題について文献等から理解を深める。その上で，技術科の授業に必要な安全確保や自然環境保全等について考究する。	
	教育科学特論（技術科教育学ⅠB）		技術科のよい授業に貢献する教材・題材，指導方法について，文献参照や実験などを行って，考究を行う。	
	教育科学特論（技術科教育学ⅡA）		技術科のよい授業を実現するために，授業研究，授業評価および授業分析について主として文献を参照して考究する。	
	教育科学特論（技術科教育学ⅡB）		技術科のよい授業を実現に寄与するために，授業分析の手順を検討した後に，現場に出向いて授業を参観・録画し，その授業の分析を行う。分析結果から有用な授業の法則性を見出す。	
	教育科学特論（機械ⅠA）		設計，加工，材料，機構などの生産・機械に関する専門的知識を深め，科学的な考え方および実的な技能（3DCADと3Dプリンター）を身につける。	
	教育科学特論（機械ⅠB）		設計，加工，材料，機構などの生産・機械に関する専門的知識を深め，科学的な考え方および実的な技能（レーザーカッターとプログラミング）を身につける。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学特論（機械ⅡＡ）		機械分野・教育分野で利用できる確率統計に関する専門的知識を深め、実際の技能（データの読み方、使用例の調査）を身につける。	
	教育科学特論（機械ⅡＢ）		機械分野・教育分野で利用できる確率統計に関する専門的知識を深め、実際の技能（検定と解析方法）を身につける。	
	教育科学特論（電気ⅠＡ）		電気計測の手法を体系的に説明するとともに、具体的な計測法について取り上げる。また、測定誤差の問題と測定データの取り扱いの重要性について講義する。	
	教育科学特論（電気ⅠＢ）		教育科学特論（電気ⅠＡ）で取り上げた測定データの取り扱い方法を基礎としながら、実際に電気計測を行い、取得された抵抗値データを分析する手法について学習する。	
	教育科学特論（電気ⅡＡ）		デジタル回路の基礎について取り上げる。主に、アナログ信号とデジタル信号の変換、論理演算を学習することで現代の情報化社会の基盤技術について理解を深める。	
	教育科学特論（電気ⅡＢ）		教育科学特論（電気ⅡＡ）で取り上げたデジタル回路を基礎としながら、加算器とフリップフロップを学習することで電気・電子技術とコンピュータの関係について理解を深める。	
	教育科学特論（情報ⅠＡ）		情報数学、認知科学、知識工学などの情報系学問の基礎的な内容について輪講形式で学習する。この講義では、情報数学の1つである離散数学の基礎的な内容として、集合、写像、命題と述語について学習する。	
	教育科学特論（情報ⅠＢ）		情報数学、認知科学、知識工学などの情報系学問の基礎的な内容について輪講形式で学習する。この講義では、情報数学の1つである離散数学の基礎的な内容として、関係、グラフについて学習する。	
	教育科学特論（情報ⅡＡ）		情報数学、認知科学、知識工学などの情報系学問の基礎的な内容について輪講形式で学習する。この講義では、知識工学の基礎的な内容として、問題表現、探索法について学習する。	
	教育科学特論（情報ⅡＢ）		情報数学、認知科学、知識工学などの情報系学問の基礎的な内容について輪講形式で学習する。この講義では、知識工学の基礎的な内容として、記号論理、導出原理について学習する。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学特論（家庭科教育学ⅠA）		小・中・高等学校における家庭科の授業実践の検討を通して、家庭科における教育論・授業構成論の基礎を学修する。	共同
	教育科学特論（家庭科教育学ⅠB）		家庭科と他教科との関連性を検討するとともに、学校教育における家庭科という教科の本質的な意義、教科の独自性、育成する資質・能力を追究する。	共同
	教育科学特論（家庭経営学A）		本講義では、小・中・高等学校の家庭科における「持続可能な消費生活・環境」と「家庭経営」について科学的に学修するとともに、生涯発達、生涯設計、ライフサイクル、ライフコースの視点から学修する。	
	教育科学特論（家庭経営学B）		本講義では、小中高等学校の家庭科で扱う「持続可能な消費生活・環境」と「家庭経営」について科学的に把握、考察できることを目標に、家族、家庭経済、家庭経営の視点から理解、説明できるようにする。	
	教育科学特論（家族関係学ⅠA）		本講義では、小・中・高等学校の家庭科における家族関係領域について科学的に学修する。本講義では、日本の家族、夫婦関係を中心とした家族関係について歴史資料と統計資料に基づいて講義する。	
	教育科学特論（家族関係学ⅠB）		本講義では、小・中・高等学校の家庭科における家族関係領域について科学的に学修する。本講義では、親子関係を中心とした家族関係について歴史資料と統計資料に基づいて講義する。	
	教育科学特論（家族関係学ⅡA）		小・中・高等学校の家庭科で扱う家族関係領域について科学的に学修することを目標に、日本の家族、特に、子どもの養育と教育を中心とした親子関係について家族関係について歴史資料と統計資料に基づいて講義する。	
	教育科学特論（家族関係学ⅡB）		本講義では、小・中・高等学校の家庭科で扱う家族関係領域について科学的に学修する。本講義では、成人子と老親を中心とした親子関係について、歴史資料と統計資料に基づいて講義する。	
	教育科学特論（食物科学ⅠA）		小・中・高等学校家庭科食生活領域の教育内容を体系化し、小・中・高等学校家庭科の基盤となる食物科学の体系に基づき解説する。体に必要な栄養素の種類と働きに関する専門知識について、現代食生活の課題をふまえて解説する。	
	教育科学特論（食物科学ⅠB）		小・中・高等学校家庭科食生活領域の教育内容を体系化し、小・中・高等学校家庭科の基盤となる食物科学の体系に基づき解説する。体に必要な栄養素の種類と働きに関する専門知識について、現代食生活の課題をふまえて解説する。また演習により家庭科の食生活教育に必要な専門知識を探究する。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学特論（食物科学Ⅱ A）		小・中・高等学校家庭科食生活領域の教育内容を体系化し、小・中・高等学校家庭科の基盤となる食物科学の体系に基づき解説する。食品の特質と用途に関する専門知識について、現代食生活の課題をふまえて解説する。	
	教育科学特論（食物科学Ⅱ B）		小・中・高等学校家庭科食生活領域の教育内容を体系化し、小・中・高等学校家庭科の基盤となる食物科学の体系に基づき解説する。食品の特質と用途に関する専門知識について、現代食生活の課題をふまえて解説する。また演習により家庭科の食生活教育に必要な専門知識を探究する。	
	教育科学特論（食物科学Ⅲ A）		小・中・高等学校家庭科食生活領域の教育内容を体系化し、その基盤となる食物科学の体系に基づき解説する。食生活と食事計画に関する専門知識について現代食生活の課題をふまえて解説する。	
	教育科学特論（食物科学Ⅲ B）		小・中・高等学校家庭科食生活領域の教育内容を体系化し、その基盤となる食物科学の体系に基づき解説する。食生活と食事計画に関する専門知識について現代食生活の課題をふまえて解説する。また演習により家庭科の食事計画に必要な専門知識を探究する。	
	教育科学特論（被服科学Ⅰ A）		小・中・高等学校家庭科衣生活領域の教育内容を体系化し、その基盤となる被服学の体系に基づき解説する。持続可能な衣生活の構築に向けて被服管理の必要性を現代衣生活の課題をふまえて解説する。Sustainable Fashion について探究する。	
	教育科学特論（被服科学Ⅰ B）		小・中・高等学校家庭科衣生活領域の教育内容を体系化し、その基盤となる被服学の体系に基づき解説する。アクティブ・ラーニングにより持続可能な衣生活の再構築について探究する。Sustainable Fashion について探究する。	
	教育科学特論（被服科学Ⅱ A）		小・中・高等学校家庭科衣生活領域の教育内容を体系化し、その基盤となる被服学の体系に基づき解説する。被服の着装について現代衣生活の課題をふまえて解説する。Sustainable Fashion について探究する。	
	教育科学特論（被服科学Ⅱ B）		小・中・高等学校家庭科衣生活領域の教育内容を体系化し、その基盤となる被服学の体系に基づき解説する。アクティブ・ラーニングにより被服との関わり方の再構築について探究する。Sustainable Fashion について探究する。	
	教育科学特論実験（被服科学A）		小・中・高等学校家庭科衣生活領域の教育内容から実験を抽出・分析し、基盤となる被服科学の体系から解説する。持続可能な衣生活構築のために必要な教育内容にかかわる実験を紹介する。	
	教育科学特論実験（被服科学B）		小・中・高等学校家庭科衣生活領域の教育内容から抽出された実験の基盤となる被服科学実験を行い、小・中・高等学校の実験を改善する。持続可能な衣生活構築のために必要な新たな実験を開発する。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学特論（英語科教育学ⅠA）		英語教育の課題について、第2言語習得や英語の4技能の習得におけるワーキングメモリの役割について、外国の雑誌や文献の論文を読み、指導への示唆について検討する。	
	教育科学特論（英語科教育学ⅠB）		英語教育に関わる課題について、シャドーイングや技能習得理論について、外国の雑誌や文献の論文を読み、指導への示唆について検討する。	
	教育科学特論（英語科教育学ⅡA）		英語教育の課題について、英語のリスニングやリーディングにおける処理過程と指導について、外国の雑誌や文献の論文を読み、指導への示唆について検討する。	
	教育科学特論（英語科教育学ⅡB）		英語教育の課題について、英語のスピーキングにおけるアウトプット仮説やタスクの効果について、外国の雑誌や文献の論文を読み、指導への示唆について検討する。	
	教育科学特論（英語学ⅠA）		電子化された言語データ（コーパス）を用いて、英語の仕組みや用法に対する理解を深める。講義においては、コーパス言語学の手法を用いて明らかにされた研究成果を概観する。実習においては、検索練習を行い、分析結果と考察をまとめる練習を行う。学期末には、各自のテーマにもとづいた研究成果を発表し、受講生がお互いに講評し合う。	
	教育科学特論（英語学ⅠB）		コーパス言語学の手法を用いて、第二言語習得研究において明らかにされている研究成果を概観する。実習においては、より高度な検索練習を行い、分析結果と考察をまとめる練習を行う。学期末には、各自のテーマにもとづいた研究成果を発表し、受講生がお互いに講評し合う。	
	教育科学特論（英語学ⅡA）		学習者コーパスを用いた論文を読むことで、研究手法について学ぶ。また学習者コーパスの検索とデータ処理についても学ぶことで、自ら分析ができるようになる。	
	教育科学特論（英語学ⅡB）		学習者コーパスの中でも縦断的なデータを用いた第二言語習得研究に関する論文を読むことで、その研究手法について学ぶ。より高度なコーパス検索とデータ処理についても学び、自らの課題に関する分析ができるようになる。	
	教育科学特論（英米文学ⅠA）		英語圏の詩を理解することを通じて、英語テキストの深い解釈の力をつけ、創造的に文字のコミュニケーションのあり方を獲得することを目指しながら、クラスを進める。	
	教育科学特論（英米文学ⅠB）		グローバルな視点から、英語圏の詩を理解することを通じて、比較と対比のアプローチを取り上げながら、視点の取り方を探って、英語文学の意義を探り、クラスを進める。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学特論（英米文学Ⅱ A）		英語圏の詩をどのようにして方策的にアプローチできるかを考え、さらに、解釈のあり方を深く認識しながら、文学的としての学術の独自性を保持するアプローチを考えて、クラスを進める。	
	教育科学特論（英米文学Ⅱ B）		英語圏の詩を理解し認識することが、教育的文学の視座でどのような結実を具体的にもたらすのかをさまざまなテキストに触れながら、クラスを進める。	
	P B L 特論Ⅰ		教育科学専攻の教員の研究領域を知り、自身の研究に活用できるよう、教員や受講生とディスカッションする。	共同
	P B L 特論Ⅱ		PBLⅠに準じて、受講生が、研究分野や母国語が異なるメンバーでPBL（Project Based Learning）をつくり、「創造性の追究」と「チーム学習による資質・能力の向上」の2つのアプローチから社会の中の問題から、教育的課題を設定し達成する。	共同
	P B L 特論Ⅲ		PBLⅡに準じ、受講生が、研究分野や母国語が異なるメンバーでPBL（Project Based Learning）をつくり、「創造性の追究」と「チーム学習による資質・能力の向上」の2つのアプローチから社会の中の問題から、教育的課題を設定し達成する。	共同
	P B L 特論Ⅳ		PBLⅢに準じ、受講生が、研究分野や母国語が異なるメンバーでPBL（Project Based Learning）をつくり、「創造性の追究」と「チーム学習による資質・能力の向上」の2つのアプローチから社会の中の問題から、教育的課題を設定し達成する。	共同
	P B L 特論Ⅴ		修士課程2年生を対象に、PBLの活動経験を活かし、教育科学プロジェクト研究概論の授業内アクティビティの支援をする。	共同
	P B L 特論Ⅵ		修士課程2年生を対象に、PBLの活動経験を活かし、PBLⅠの授業内アクティビティの支援をする。	共同
	P B L 特論Ⅶ		修士課程2年生を対象に、PBLの活動経験を活かし、PBLⅡの授業内アクティビティの支援をする。	共同
	P B L 特論Ⅷ		修士課程2年生を対象に、PBLの活動経験を活かし、PBLⅢの授業内アクティビティの支援をする。	共同

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	保育内容特論（造形表現 A）		保育内容「表現」に関わる理論と実践の関係について討論や講義を行い、幼児教育・保育を考える。文献、事例、論文、などの資料の購読、または提示を通して子どもの変化を捉える視点の形成を目指す。	隔年
	保育内容特論（造形表現 B）		保育内容「表現」に関わる理論と実践の関係について討論や講義を行い、幼児教育・保育への考え方を深める。文献、事例、論文、などの資料の購読、または提示を通して子どもの変化を捉える視点の発展的な形成を目指す。	隔年
	保育内容特論演習（造形表現 A）		保育内容「表現」とそれに関連した近接領域の文献、先行研究、などの資料について学生が購読、概説、討論する演習を行う。演習に基づいて事例を検討し、子どもの変化を分析する力量形成を目指す。	隔年
	保育内容特論演習（造形表現 B）		保育内容「表現」とそれに関連した近接領域の文献、先行研究、などの資料について学生が購読、概説、討論し深く理解するための演習を行う。演習に基づいて事例を検討し、子どもの変化を分析する力量の発展的な形成を目指す。	隔年
	保育内容特論（健康A）		保育内容「健康」とその近接領域に関する理論と実践を取り上げ、先行研究を概観したり討論したりしながら、その課題について検討する。	隔年
	保育内容特論（健康B）		保育内容「健康」とその近接領域に関する理論と実践を取り上げ、先行研究を概観したり討論したりしながら、望ましい保育実践の在り方について検討する。	隔年
	保育内容特論演習（健康 A）		保育内容「健康」に関連する具体的な保育実践を取り上げ、文献の講読や実際の保育現場の観察等を通して、その課題について議論する。	隔年
	保育内容特論演習（健康 B）		保育内容「健康」に関連する具体的な保育実践を取り上げ、文献の講読や実際の保育現場の観察等を通して、教育効果の高い保育実践の在り方について検討する。	隔年
	保育内容特論（人間関係 A）		保育内容「人間関係」に関わる理論と実践について講義し、これからの幼児教育・保育について考える。文献講読、討議等を通して考察を深め、必要な力量の獲得を目指す。	隔年
	保育内容特論（人間関係 B）		保育内容「人間関係」に関わる理論と実践について講義し、これからの幼児教育・保育について考える。文献講読、討議等を通して発展的に考察を深め、応用可能な力量の獲得を目指す。	隔年

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	保育内容特論演習（人間関係A）		本授業では主に、保育内容「人間関係」に関わる研究に必要な方法論の獲得を目指す。幼児教育・保育の諸課題に関する論文購読、発表・討議、観察等を通して実際に学ぶ。	隔年
	保育内容特論演習（人間関係B）		本授業では主に、保育内容「人間関係」に関わる研究に必要な方法論の獲得を目指す。幼児教育・保育の諸課題に関する論文購読、発表・討議、観察等を通して、発展的、応用的な学びを深める。	隔年
	幼児教育学特論A		人格完成に至るための基礎を培うという幼児教育の目的に関する教育基本法の規定と5領域にわたる心身の発達を助長するという幼児教育の目的・目標に関する学校教育法の規定について解説した上で、その内容についての理解を深める。	隔年
	幼児教育学特論B		幼稚園令制定以降の代表的なわが国の幼児教育内容・方法論について解説し、その理解を深める。	隔年
	幼児教育学特論演習A		わが国における従来の幼児教育構造論について批判的に分析・検討することをおして、これまでの幼児教育の構造的なとらえ方を習得すると共に、これからの幼児教育のとらえ方についての示唆を得る。	隔年
	幼児教育学特論演習B		主に、わが国における現在の幼児教育構造論について批判的に分析・検討することをおして、現在の幼児教育の構造的なとらえ方を習得すると共に、これからの幼児教育のとらえ方についての示唆を得る。	隔年
	幼児心理学特論A		乳幼児期の心理社会的発達に影響を与える家庭環境の重要性について概説する。受講生各自が関心のある乳幼児期の心理社会的発達に影響を与える家庭的な要因を取り上げ、文献発表及び関連するディスカッションテーマを提示する。文献内容を踏まえた討議を行い、乳幼児期の健やかな心理社会的発達に必要な家庭への子育て支援について理解を深める。	隔年
	幼児心理学特論B		乳幼児期の心理社会的発達に影響を与える集団保育実践における、保育者と子どもの関係性の理論について概説する。受講生各自が関心のある保育実践上の保育者と子どもの関係性に関する課題を取り上げ、文献発表及び関連するディスカッションテーマを提示する。文献内容を踏まえた討議を行い、乳幼児期の健やかな心理社会的発達を促す保育実践について理解を深める。	隔年
	幼児心理学特論演習A		文献購読及び討議を通して、履修生全員での共同による保育実践観察研究のための目的を明確化する。決定した研究目的に沿った予備的な保育実践の観察調査を実施し、幼児期の子ども理解のための実践研究課題の焦点化を行うとともに、取得した観察データに応じた質的研究の分析手法について理解を深める。	隔年
	幼児心理学特論演習B		4回の保育実践観察の調査を行い、履修生各自が観察記録をとる。得られた観察記録をもとに、研究目的に照らしながら共同で質的分析を行い、結果をまとめる。導出した結果について、各自が担当部分の考察を行い、保育実践観察研究の手法を習得する。	隔年

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	養護実践学特論（養護教諭論A）		養護の理念や歴史の変遷、子どもの発育発達とかかわる養護教諭の役割について論じるとともに、子どもの成長発達とそれを守り育てることについて学生のレポート発表とそれに基づく討議を通して、今後の養護教諭の職務の課題について考える。	
	養護実践学特論（養護教諭論B）		子供の健康課題に応じた養護教諭の役割について、その教育的意義に注目しながら論じる。学生のレポート発表とそれに基づく討議を通して、今後の養護教諭の職務の課題について考える。	
	養護実践学特論演習（養護教諭論A）		養護実践や養護教諭の職務関する課題の討議を行い、課題に基づいた文献検索、調査研究、レポート発表を行う。特に、健康観察、健康相談、保健指導等の領域を取り扱う。	
	養護実践学特論演習（養護教諭論B）		養護実践や養護教諭の職務関する課題の討議を行い、課題に基づいた文献検索、調査研究、レポート発表を行う。特に、保健教育、保健組織活動等の領域を取り扱う。	
	養護実践学特論（学校保健学A）		海外の学校保健活動の一例であるHealth Promoting Schoolを取り上げ概説する。保健教育、保健管理、組織活動を土台とする日本の学校保健の推進システムと比較し検討する。	
	養護実践学特論（学校保健学B）		学生による日本の学校保健システムの特徴に関するレポートや発表を基に、今後の日本の学校保健活動の課題や展望について考える。	
	養護実践学特論演習（学校保健学A）		文献の講読と討論によって授業を進める。講読する文献は、児童・生徒の健康問題の変遷、養護実践の歴史的過程、養護教諭の職制の過程を踏まえながら、学校保健活動に視点をあてて精選する。	
	養護実践学特論演習（学校保健学B）		文献の講読と討論によって授業を進める。講読する文献は、海外の学校保健活動（保健教育、保健管理、組織活動）に視点をあてて精選する。	
	学校保健医科学特論（健康科学A）		健康科学に関する理論と実践に関する講義・文献講読を通して現代における子供の健康実態の把握と養護教諭としての対応について概説するとともに、その内容の討議を行う。特に、保健管理の視点から学ぶ。	
	学校保健医科学特論（健康科学B）		健康科学に関する理論と実践に関する講義・文献講読を通して現代における子供の健康実態の把握と養護教諭としての対応について概説するとともに、その内容の討議を行う。特に、保健教育の視点から学ぶ。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	学校保健医科学特論演習 (健康科学A)		学童期から青年期までの発達過程を通して、発育発達と健康の維持・増進を考える上で必要な関連事項を概説するとともに、その内容の討議を行う。特に、整形外科科学的な視点から学ぶ。	
	学校保健医科学特論演習 (健康科学B)		学童期から青年期までの発達過程を通して、発育発達と健康の維持・増進を考える上で必要な関連事項を概説するとともに、その内容の討議を行う。特に、学校保健の視点から学ぶ。	
	学校保健医科学特論（環境 と健康A）		環境と健康に関する基礎的な理論についての講義、測定実習、それらを総合した討議を通して、養護実践や学校保健の推進に必要な環境と健康に関する理論と技術を修得する。特に学校環境衛生の中の生物学的環境を取り上げた実習を実施する。また疫学の考え方の基礎も取り扱う。	
	学校保健医科学特論（環境 と健康B）		環境と健康に関する基礎的な理論についての講義、測定実習、それらを総合した討議を通して、養護実践や学校保健の推進に必要な環境と健康に関する理論と技術を修得する。学校環境衛生の中の物理的環境を取り上げた実習を実施する。また社会環境についても言及する。	
	学校保健医科学特論演習 (環境と健康A)		環境と健康に関する理論の応用についての講義、実習、討議を通して、養護実践や学校保健の推進に必要な環境と健康に関する詳しい理論を修得する。特に学校環境衛生を実地に体験できるように、生物学的環境の良否について実習を行う。また疫学についても演習を行う。	
	学校保健医科学特論演習 (環境と健康B)		環境と健康に関する理論の応用についての講義、実習、討議を通して、養護実践や学校保健の推進に必要な環境と健康に関する詳しい理論を修得する。特に学校安全を実地に体験できるように、学校内外の安全について実習を行う。また疫学についても演習を行う。	
	グローバル・プレゼンテーション1		国外開催の国際学会での学術発表と教員による指導を単位化した教育科学専攻共通のグローバル研究推進科目である。学会発表の時間及び事前準備、事後報告等の時間を含め、45時間の学修をもって1単位とする。 単位認定の対象とする国際学会は、大学院学生を対象とした「岡山大学研究奨励金に関する内規」における「学長が別に定める学会等一覧表」によるものとし、会期の長さ、開催地及び主催者は考慮しない。なお、これ以外に、本研究科において適切と判断した国際学会を対象とする。 修了要件に含む単位としては、グローバル・プレゼンテーション1とグローバル・プレゼンテーション2を合わせて2単位を上限とする。	
	グローバル・プレゼンテーション2		国内開催の国際学会での学術発表と教員による指導を単位化した教育科学専攻共通のグローバル研究推進科目である。学会発表の時間及び事前準備、事後報告等の時間を含め、45時間の学修をもって1単位とする。 単位認定の対象とする国際学会は、大学院学生を対象とした「岡山大学研究奨励金に関する内規」における「学長が別に定める学会等一覧表」によるものとし、会期の長さ、開催地及び主催者は考慮しない。なお、これ以外に、本研究科において適切と判断した国際学会を対象とする。 修了要件に含む単位としては、グローバル・プレゼンテーション1とグローバル・プレゼンテーション2を合わせて2単位を上限とする。	
教育 専門 科目	教育科学の理念と今日的課題B		修士課程に入学したばかりの学生へのガイダンス授業である。教員による修士時代の研究生活の紹介を通じて、研究テーマ、修士論文作成の課題と展望について理解する。併せて専門分野からみた教育の現在に関する講話を通して、教育研究活動に対する意識付けを行う。	共同

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学研究の方法（研究・研修上の倫理、法規、行政）		（オムニバス方式／全15回）学校教育での研究活動においては、未成年である子どもを対象とすることも多く、十分な倫理的配慮のもと実施されなければならない。研究者の責務として、子どもの権利の尊重、自由意思による同意、個人情報の保護、研究の倫理的妥当性および科学的合理性の確保、利益相反の管理等に努めることが求められていることについて理解する。 特に、授業初日に学生それぞれが設定したテーマにより研究をデザインしたうえで、研究・研修上の倫理・法規・行政に関する専門的な事項について理解を深め、最終日に各自の研究デザインの見直しを行う。 [41 高田宏史／担当7回]教育研究の専門性を踏まえ、インフォームドコンセプトやストックホルム宣言などについて学び、研究倫理・生命倫理について研究不正例や倫理的問題がある事例を紹介し、どのような対応をすべきか解決方法を考える。[67 高瀬淳／担当8回]教育研究活動の公共性を踏まえ、より高い倫理観に基づく取り組みが求められる教育関係者として、教育問題をめぐる法規や制度について学び、自らの社会的責任を認識し、保護者・地域住民の信頼に応える社会規範の遵守（コンプライアンス）にかかる理解を深める。	隔年・オムニバス
	教育科学研究の方法（調査法、実験法）		人間の行動データを厳密に収集する方法は、心理学の領域で古くから研究されている。本授業では、その方法を調査法と実験法に分けて概説する他、ICTを活用し教育分野で収集され始めた大量の行動データ（教育ビッグデータ）を用いた研究法を紹介する。どの方法も本格的に利用できるようになるためには、かなりの学習が必要となるが、本授業はその入門的な位置付となる。 （オムニバス方式／全15回）（26 寺澤孝文／7.5回）実験法に関する講義と全体まとめ（33 三宅幹子／7.5回）調査法に関する講義	オムニバス
	教育科学研究の方法（教育科学とICT）		インターネットの普及と情報技術の進化は、教育・学習をより効果的にする様々な可能性を含んでいる。同時に、インターネットや情報技術の活用には危険も多い。児童・生徒や教師自身が安全にこれらの技術を活用するために、情報倫理の基礎知識について理解する。これらの知識を前提に、最新の情報技術について理解するとともに、安全により効果的にICTを活用する方法について、実践的に学ぶ。	
	教育科学研究の方法（教育と地域・起業）		（オムニバス方式／全15回）教育科学の成果を理解したうえで、教育の地域社会に果たすべき役割や、地域社会や地域の企業・団体と学校や大学の連携についての実例を、学校教育を通して学ぶ（21 桑原敏典／7回）。上記について、学童保育を通して学ぶ（78 中山芳一／全6回）。上記について、スポーツ経営学を通して学ぶ（77 高岡敦史／2回）。	オムニバス
	教育実地展開概論（教育と地域創生）		本講義ではまず、「学校教育の構成と地域芸術文化資源」について考えます。実際に岡山に存在する多様な芸術文化資源についての情報を整理し、それらを活用した取り組みについて、実践例の報告を受けたうえで、ディスカッションを通して現状と課題を認識し、地域との連携・協働のあり方について検討し、「コミュニティに向けた地域芸術文化資源活用」について考えます。 受講生が主体的にコミュニティと関わり、地域芸術文化資源を活用した既存の教育プログラムの実践に取り組む企画を考えるため、公益財団が地域の社会活動に対して行う助成申請のフォーマットを利用した企画開発を行います。	共同
	教育実地展開概論（家庭生活と教育の多様性）		本講義では、統計や事例に基づいて日本の家族の現状について確認するとともに、さまざまな環境における子どもに対する教育上の配慮と支援について、家庭、学校、地域社会の連携という視点から考える。	
	教育実地展開概論（ESD）		新学力観への理解を深めるため、および、教育の社会的役割を多面的に理解する視点を養うために、教育の変革を通じて人類共通の課題である持続可能な社会を実現しようとするESDについて、その理念と方法を踏まえたうえで、多様な場で、多様なネットワークを介して多様な学びが実践され、具体的成果をあげていることを学ぶ。その際、当該学習の過程で、社会変化の担い手としての学習者の価値観と行動の変容を企図する。	
	教育実地展開概論（国際教育比較）		グローバルな教育課題を具体的な事例や研究例を元にその課題の解決策を探究する。日本を含め、世界の最新の教育動向と先進国ならびに途上国における教育課題について理解を深め、比較しながらグローバルな教育課題を明らかにする。また直接国際教育支援に関わっている教員から各国の教育課題の現状や資料の提示を行う。	隔年・共同

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育実地展開概論（教育のグローバル化）		（オムニバス方式/全15回）教育科学の成果を理解したうえで、グローバル化の進展にともない学校や地域において生じている様々な問題や、その問題の解決のために行われている政策の実例を、国際バカロレア（IB）を通して学ぶ（79 MAHMOOD SABINA/4回、上記についてグローバル・シティズンシップ教育（GCEd）を通して学ぶ（21 桑原敏典/7回）。上記について、ボランティア学習、多文化教育などを通して学ぶ（62 柴川弘子/4回）。	オムニバス
	教育科学プロジェクト研究概論		教育科学によって、幸福な社会を築くためには、その社会を構成する多様な知見を活用し、課題を設定し、解決に向かうPBL（Project-Based Learning）を基盤とした研究が不可欠である。従って教育科学の研究者としての資質・能力の一端は、地域社会での主体的で実践的な研究基盤から、他者の価値を見出し、共有し、新たな価値づけをするプロセスの中で培うことができるともいえる。本授業では、社会の中の諸問題の中から教育科学として「課題」を見出し、その解決に向けて自己の研究をPBLとして価値づけし、以降の教育科学専攻の研究指針を立てる。	共同
	P B L I		受講生が、研究分野や母国語が異なるメンバーでPBL（Project Based Learning）をつくり、「創造性の追求」と「チーム学習による資質・能力の向上」の2つのアプローチから社会の中の問題から、教育的課題を設定し達成目標を設定する。	共同
	P B L II		受講生が、PBL I で構成したチームがそれぞれに設定した目標達成のため、フィールド調査、データ検証、プロジェクト事業の実施と省察を行い、チームメンバーの研究者としての成長を相互評価する。	共同
	発達支援研究特論Ⅰ（発達基礎科学A）		生涯発達における乳幼児期の心身の発達の特徴を概説すると共に、受講生が子どもの育ちや子育てを取り巻く環境における現代的な課題を見出し、提示、討議等を通して、乳幼児期の健やかな心身の発達に資する支援のあり方について理解を深める。（オムニバス方式/全15回） （17 片山美香/5回）生涯発達における乳幼児期の心理社会的な発達について概説すると共に、受講生が子どもの育ちや子育てを取り巻く環境における現代的な課題を見出し、提示、討議等を通して、乳幼児期の健やかな心身の発達に資する支援のあり方について理解を深める。 （12 大守伊織/10回）脳の発生・発達と構造・機能、脳性麻痺について概説し、インクルーシブ教育や医療的ケアへの理解と支援の在り方について実践的に理解を深める。さらに、発達障害の病理と育てにくさの要因について概説し、乳幼児期からの健やかな心身の発達に資する支援のあり方について理解を深める。	隔年・オムニバス
	発達支援研究特論Ⅰ（発達基礎科学B）		幼児期後期から学齢期の心身の発達の概要、及び健やかな発育・発達に関する基本的理解を深める。 （オムニバス方式/全15回） （17 片山美香/5回）生涯発達における幼児期後期から児童期の心理社会的な発達の特徴を概説すると共に、健やかな育ちに資する支援のあり方について共に考える。 （71 三村由香里/10回）身体的発育発達に関する基本的な知識、及び関連する疾患について取り上げ、必要な生理学・病理学的知識の習得を図る。	隔年・オムニバス
	発達支援研究特論Ⅲ（幼児教育学A）		児童中心主義の幼児教育論及び幼児カリキュラム論の基本的考え方について理解した上で、今日の日本における幼児カリキュラム論を検討する。	
	発達支援研究特論Ⅲ（幼児教育学B）		系統主義の幼児教育論及び幼児カリキュラム論の基本的考え方について理解した上で、今日の日本における幼児カリキュラム論を検討する。	
	発達支援研究特論Ⅲ（養護実践学A）		養護と学校保健の概念や制度、歴史について概説したうえで養護実践のあり方について討議検討を行う。 （オムニバス方式/全8回） （60 山内愛4回）学校保健活動の講義を通して、教育職員としての養護教諭の基本原則と実践活動について概説するとともに、その内容の討議を行う。 （18 上村弘子4回）養護の概念および制度の歴史に基づき、養護実践を検討する。	オムニバス

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	発達支援研究特論Ⅲ（養護実践学B）		子供の課題に応じた養護実践と学校保健活動について概説したうえで養護実践のあり方について討議検討を行う。 （オムニバス方式／全8回） （60 山内愛 4回）養護実践の講義を通して、教育職員としての養護教諭の基本原理と実践活動について概説するとともに、その内容の討議を行う。 （18 上村弘子 4回）子供の課題に応じた養護実践を省察する方法を検討する	オムニバス
	発達支援研究特論Ⅳ（保育内容学A）		本授業では、保育内容に関わる理論と実践、発達支援研究等について、資料等を適宜提示しながら講義し、履修者と共に討論する。 （オムニバス方式／全15回） （30 西山修／5回）主に保育内容「人間関係」に関わる理論と実践 （44 馬場訓子／5回）主に保育内容「健康」に関わる理論と実践 （56 大平修也／5回）主に保育内容「表現」に関わる理論と実践	オムニバス
	発達支援研究特論Ⅳ（保育内容学B）		本授業では、保育内容に関わる理論と実践、発達支援研究等について、資料等を適宜提示しながら講義し、履修者との討議を通じて発展的な展開を図る。 （オムニバス方式／全15回） （30 西山修／5回）主に保育内容「人間関係」に関わる理論と実践、その展開 （44 馬場訓子／5回）主に保育内容「健康」に関わる理論と実践、その展開 （56 大平修也／5回）主に保育内容「表現」に関わる理論と実践、その展開	オムニバス
	発達支援研究特論Ⅳ（学校保健医科学A）		子供の発達過程や健康の成立とその支援法の講義を通して、養護実践や学校保健の推進に必要な医学・看護学の理論について概説するとともに、その内容の討議を行う。特に、小児保健と公衆衛生の視点から学ぶ。 オムニバス方式/全15回）（59 津島愛子/5回）子供の発達過程とその支援法（8 伊藤武彦/5回）環境と子供の健康（70 松枝睦美/5回）学校救急処置	オムニバス
	発達支援研究特論Ⅳ（学校保健医科学B）		子供の発達過程や健康の成立とその支援法の講義を通して、養護実践や学校保健の推進に必要な医学・看護学の理論について概説するとともに、その内容の討議を行う。特に、学校看護と公衆衛生の視点から学ぶ。 （オムニバス方式/全15回）（59 津島愛子/5回）学校救急処置（8 伊藤武彦/5回）感染症と集団的予防（70 松枝睦美/5回）医療的ケア	オムニバス
	発達支援研究特論Ⅴ（幼児教育実践研究A）		岡山大学教育学部幼児教育講座の教員が、実践研究における観察記録とカンファレンスの重要性について論じた後、保育内容と指導に関する実践研究、設定保育における指導に関する実践研究、幼児理解と個別対応に関する実践研究のポイントについて解説する。その上で、附属幼稚園と連携・協力しながら、実践観察と記録を通して、実践研究のための専門的知識・技能を学習すると共に、幼児理解を深め、講義内容に基づく保育技術を習得することをめざす。 （オムニバス方式／全15回） （主担当教員〔輪番〕／2回）実践研究における観察記録とカンファレンスの重要性 （30 西山修・44 馬場訓子・56 大平修也／6回）（共同）保育内容と指導に関する実践研究、 （55 横松友義／5回）設定保育における指導に関する実践研究、 （17 片山美香／2回）幼児理解と個別対応に関する実践研究	オムニバス・共同
	発達支援研究特論Ⅴ（幼児教育実践研究B）		発達支援研究特論Ⅴ（幼児教育実践研究A）で学習した、実践研究における観察記録とカンファレンスの重要性、保育実践研究のポイントを踏まえて、附属幼稚園において実践観察と記録を行う。その上で、岡山大学教育学部幼児教育講座と附属幼稚園が連携・協力しながら実施する、実践記録に関するカンファレンスを通して、実践研究のための専門的知識・技能を学習すると共に、幼児理解を深め、講義内容に基づく保育技術を習得することをめざす。 （オムニバス方式／全15回） （30 西山修・44 馬場訓子・56 大平修也／2回）（共同）保育内容と指導に関する実践研究とカンファレンス （30 西山修・44 馬場訓子・56 大平修也・55 横松友義・17 片山美香／4回）（共同）保育内容と指導に関する実践研究とカンファレンス （55 横松友義／3回）設定保育における指導に関する実践研究とカンファレンス （17 片山美香／6回）幼児理解と個別対応に関する実践研究とカンファレンス	オムニバス・共同

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		発達支援研究特論Ⅴ（養護教育実践研究A）		附属学校園での養護実践を通してフィールドノーツを作成し、実際の事例をもとに、省察・研究レポートの作成を行う。（オムニバス方式／全8回） （60 山内 愛／4回）保健室登校，健康相談の事例省察 （18 上村 弘子／4回）健康診断，保健室経営の事例省察	オムニバス
		発達支援研究特論Ⅴ（養護教育実践研究B）		附属学校園での養護実践を通して省察した事例をもとに、養護実践を研究的視点からとらえ、成果と課題を明らかにする。（オムニバス方式／全8回） （60 山内 愛／4回）保健室登校，健康相談の事例まとめ （18 上村 弘子／4回）健康診断，保健室経営の事例まとめ	オムニバス
		教育哲学特論ⅠA		現代は、教育の進むべき方向性が見えない時代だと言われている。取り組むべき課題は山積し、実践現場には疲労の色すら見えるのではないだろうか。本講義では、そのような時代状況に鑑み、近代教育学の歩みを思想的に俯瞰する。その作業を通じて、受講者に、これからの教育を展望してもらいたい。具体的には、古代哲学と教育、キリスト教と教育の関連性、そしてルネサンスとヒューマンイズム、さらにはコメニウス、ロック、ルソーの教育思想を扱う。	隔年
		教育哲学特論ⅠB		現代は、教育の進むべき方向性が見えない時代だと言われている。取り組むべき課題は山積し、実践現場には疲労の色すら見えるのではないだろうか。本講義では、そのような時代状況に鑑み、近代教育学の歩みを思想的に俯瞰する。その作業を通じて、受講者に、これからの教育を展望してもらいたい。具体的には、古典的な人間形成論、ペスタロッチとフレーベル、ヘルバルト、新教育運動を扱い、その後、近世日本の教育思想を取り上げ、最後に、デュルケームと教育学、デューイと新教育、近代教育批判を扱う。	隔年
		教育哲学特論ⅡA		教育哲学とは、教育目的・現象・理論などを歴史的・論理的・批判的に検討する知的営みを指す。本講義は、その教育哲学の体得を目指すものである。毎週、受講生は新しい課題論文を与えられ、それを熟読のうえ、講義に臨む。割り当てられた発表順番にしたがって受講生がその論文内容を発表する。そして、その発表に基づいて、受講生同士のディスカッションによる課題論文の検討を行う。その過程を通じて、受講生自身が自明としてきた教育観を吟味し、教育目的・現象・理論に対する新しい視点の獲得を目指す。具体的には、まず特別支援領域における被教育権をめぐる論考や、日本の学校・教室の特殊性にかかる論考から議論を開始する。	隔年
		教育哲学特論ⅡB		教育哲学とは、教育目的・現象・理論などを歴史的・論理的・批判的に検討する知的営みを指す。本講義は、その教育哲学の体得を目指すものである。毎週、受講生は新しい課題論文を与えられ、それを熟読のうえ、講義に臨む。割り当てられた発表順番にしたがって受講生がその論文内容を発表する。そして、その発表に基づいて、受講生同士のディスカッションによる課題論文の検討を行う。その過程を通じて、受講生自身が自明としてきた教育観を吟味し、教育目的・現象・理論に対する新しい視点の獲得を目指す。具体的には、教育現場における「不登校」言説を批判的に検討し、教育が根本的に有するその暴力性、それが寄ってたつ人権思想を議論の俎上にのせる。	隔年
		教育哲学特論演習A		Robin Barrow & Ronald Woods eds. An Introduction to Philosophy of Education, Routledge, 2006. の輪読を行い、近代教育の枠組みへの理解を深める。	
		教育哲学特論演習B		近代教育を批判的に問うている初論考を輪読する作業を通じて、その意義と課題を展開する。	
		日本教育史特論ⅠA		地域（岡山県を中心に）に伝存する教育文化史資料（文書、遺跡、建築など）に触れる（訪問、見学）。その訪問や見学などの経験をふまえ、教育文化の伝統・継承・革新などのあり方について、自身の視点を持ち、考察を展開する。そして、考察内容を発表し、受講者間で成果を共有し、評価を形成する。	隔年

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		日本教育史特論ⅠB		教育の現在は、その過去との接続と断絶の両側面の蓄積をもって形成される。時代と社会の変化のなか、教育に付される意味や役割は変わる。あるいは、変わらない。この授業では、地域に伝存する教育史事象に目を向け、その考察と調査をふまえ、過去が現在に伝える内容の意味を捉え直してみたい。過去から現在への過程、過去と現在の比較などの検討を通じ、教育に関する歴史的・長期的な知見を得ようとするものである。また、授業では、受講者による課題発表の機会を適宜設ける。	隔年
		日本教育史特論ⅡA		歴史的長期的視点から教育の状況や変化について考察する。考察の際、資料は文献だけでなく、地域に伝存する教育遺産を活用する。旧学校・幼稚園舎や資料館を訪問し、体験的実践的な学習機会を活かす。このことを通じ、教育の歴史に対する理解を深めるとともに、教育遺産の今日的活用や伝承に関する意義や課題について検討し、発表する。	隔年
		日本教育史特論ⅡB		歴史の語られ方について考察する。歴史認識は、歴史事実の把握とともに、歴史がどのような媒体で、どのように叙述されるかにより、形成される。学校における教科書や資料集、社会における博物館や資料館、商業メディアにおける映画や漫画などにおける歴史の叙述を検討・報告する。そして、歴史認識に果たす教育作用の特色と課題について理解と視点を得る。	隔年
		日本教育史特論演習A		教育史に関する論考の検討と評価および発表を中心に行う。主として、受講者は1. 研究論文を読み、その批判的検討を通じ、研究の到達と課題を明確化する視点を得る。2. 論文を構成するテーマ性、論理性、実証性、叙述性の要素の考察を通じ、歴史研究にもとづく教育（学）の理解を得る。	
		日本教育史特論演習B		教育史に関する論考の検討と発表、および資料（史料）の調査と発表を中心に行う。主として、1. 研究論文を読み、その批判的検討を通じ、研究の到達と課題を明確化する視点を得る。2. 史料の分析を通じ、歴史研究にもとづく教育（学）の理解を得る。	
		西洋教育史特論ⅠA		近代日本が学校教育（制度）のモデルとしてきた西洋近代の学校教育制度について、その成立過程と発展を中心に、概説的な文献と資料をもとに授業を展開する。とくにイギリス、フランス、ドイツならびにアメリカ合衆国における義務教育制度を中心に取り上げる。授業は受講生による発表と討議、ならびに教員による解説と補足説明を中心とする。	隔年
		西洋教育史特論ⅠB		西洋近代における教育思想の展開について、概説的な文献と資料をもとに授業を展開する。具体的には、コメニウス、ルソー、ペスタロッチ、ヘルバルト、そしてデューイなどについて、それぞれの教育思想の基本的な特質、相互の影響関係・継続性、さらに日本への影響などの事項を取り上げる。授業は受講生による発表と討議、ならびに教員による解説と補足説明を中心とする。	隔年
		西洋教育史特論ⅡA		西洋近代における公教育の思想と制度の展開について、ここではとくに絶対王政期と市民革命期（イギリス、フランス、ドイツならびにアメリカ合衆国）の公教育の思想と制度の展開、とくに国民教育制度の成立過程について、専門的な文献と資料をもとに授業を展開する。授業は受講生による発表と討議、ならびに教員による解説と補足説明を中心とする。	隔年
		西洋教育史特論ⅡB		西洋近代における公教育の思想と展開について、ここではとくに産業革命期（イギリス・フランス・ドイツならびにアメリカ合衆国）の公教育の思想と制度の展開について取り上げる。具体的には、各国の初等教育（義務教育）制度の展開とそれに密接に関連する初等教員養成制度の展開を取り扱った専門的な文献と資料をもとに授業を展開する。授業は受講生による発表と討議、ならびに教員による解説と補足説明を中心とする。	隔年
		西洋教育史特論演習A		西洋教育史に関する近年の日本における研究文献、ここではとくに西洋（イギリス・フランス・ドイツ）における近代的な初等教育制度、初等教員養成制度に関する専門図書ならびに専門雑誌掲載論文を取り上げ、受講生で分担して講読・発表し、それにもとづく質疑応答と討議を行ない、かつ教員による補足的な説明と解説を行なう。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	西洋教育史特論演習B		西洋教育史に関する近年の日本における研究文献、ここではとくに個別の教育思想家（コメニウス、ルソー、ペスタロッチ、ヘルバルト、デュルケム、デューイなど）の教育思想を対象とした専門図書ならびに専門雑誌掲載論文を取り上げ、受講生で分担して講読・発表し、それにもとづく質疑応答と討議を行ない、かつ教員による補足的な説明と解説を行なう。	
	学習心理学特論A		学習及び教授には人間の認識や知識の理解が必須である。例えば、知識とは何か、理解とは何か、話し合いの機能、創造的な思考とはどのようなメカニズムであるのかなど、多くの概念が実体を踏まえ説明されていない現状がある。本授業では、それらの概念やメカニズムを最新の認識の理論を基に説明し、それをベースに学習法や教育支援の在り方を論じる。具体的には、知識や言語の基盤である潜在記憶の特徴と記憶の永続性、記憶や知覚がエピソード的にまとまった膨大な感覚情報から生成される生成理論の考え方などを実験デモやシミュレーションも交えて説明する。また、主体的な学びを引き出す、動機づけの原理とそれを向上させる方法についても解説する。	隔年
	学習心理学特論B		学習心理学特論Aで紹介する人間の認知特性を考慮し、学習者の知識習得レベルを正確に測定していくための新たなテスト原理と、ICTを活用しそれを実装し質の高い大量の学習・意識・行動データ（高精度教育ビッグデータと呼ぶ）を収集・解析していくための方法論の概要を紹介する。その方法により、学習内容（英単語など）の一つひとつについて実力の成績が個人ごとに時系列データとして集約され、その変動パターンから完全習得された学習内容を特定し学習から排除していく、【形成的評価の自動化】が実現された事実を紹介する。さらに、そのビッグデータを学校外の専門家等が利用することで、新たな教育支援が実現されることを紹介する。具体的には、意欲を失っている子どもの意欲を確実に向上させる方法、危機的状況にある子どもを科学的に検知する方法、経済格差と教育格差の負の連鎖を断つ方法等々、解決が難しかった諸問題を実質的に解決できる将来像を共有する。学習心理学特論Aを履修済みであることを受講要件とする。	隔年
	教育評価法特論A		教育評価と教育測定に関する基礎的事項と一般的事項を取り上げる。具体的には、母集団と標本、統計的検定及び統計的推定の考え方、2群の平均値に関する分析、多群の平均値に関する分析、について講義・演習を行う。授業を通して、教育評価・測定領域で研究を行うため、あるいは、人間の行動データをを用い科学的判断を行うために必要となる、基礎的な統計的方法、統計的仮説検定に関わる知識とスキルを身につける。特に、人間の行動データの特徴、テスト問題の違いによりテストデータ（受検者の解答）が変化する事実等を踏まえ、学習者の能力を適切に測定することの重要性を論じる。	隔年
	教育評価法特論B		教育評価と教育測定に関する基礎的事項と一般的事項を取り上げる。人間の意識や行動を測定するために必要な知識と方法の理解を促す。具体的には、アンケート（心理尺度、質問紙）やテストの設計、作成、実施、分析、結果の解釈を行うことができるようになることを目指す。また、項目分析や探索的因子分析・確認的因子分析、妥当性・信頼性の検討の仕方等、調査データを分析する際に必要となる基本的事項に関して講義・演習を行う。	隔年
	発達心理学特論ⅠA		発達心理学の歴史、研究方法、および、認知・思考、自己意識、社会性等の主要領域における子どもの発達について生涯発達の視点を含めて学ぶとともに、この領域に関連したテーマやトピックについての文献講読（文献のレビュー、プレゼンテーション、ディスカッション）を通して、子どもの心身の発達とそれに伴う諸問題について発達心理学的観点からの理解を深める。学齢期を中心とした発達のプロセスやそれに関わる諸問題について、広い視野で理解し科学的根拠に基づいてアプローチするための基礎力を養う。	隔年
	発達心理学特論ⅠB		発達心理学の歴史、研究方法、および、主要領域における発達のプロセスについて生涯発達の視点を含めて学ぶとともに、この領域に関連したテーマやトピックについての文献講読（文献のレビュー、プレゼンテーション、ディスカッション）を通して、心身の発達とそれに伴う諸問題について発達心理学的観点からの理解を深める。学齢期を中心とした発達のプロセスやそれに関わる諸問題について、広い視野で理解し科学的根拠に基づいてアプローチするための基礎力を養う。	隔年
	発達心理学特論ⅡA		発達心理学の歴史、代表的な研究方法、および、主要な領域における発達のプロセスについて学ぶとともに、学齢期の発達心理学に関連するテーマやトピックについての文献講読（文献のレビュー、プレゼンテーション、ディスカッション）を通して、学齢期の子どもの心身の発達とそれに伴う学校教育の諸問題について発達心理学的観点からの理解を深める。子どもの心身の発達の課題に関連した学校教育における諸問題について、より広い視野で捉え科学的根拠に基づいたアプローチを行うための力量を養う。	隔年

科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		発達心理学特論Ⅱ B		発達心理学の歴史や主要な領域における発達のプロセスと発達支援について学ぶとともに、学齢期の発達心理学に関連するテーマやトピックについての文献講読（文献のレビュー、プレゼンテーション、ディスカッション）を通して、学齢期の子どもの心身の発達とそれに伴う学校教育の諸問題について発達心理学的観点からの理解を深める。子どもの心身の発達の課題に関連した学校教育における諸問題について、より広い視野で捉え科学的根拠に基づいたアプローチを行うための力量を養う。	隔年
		集団心理学特論 A		人間が集団を形成した際に発現する心理特性や行動機序を理解するための基礎理論を学ぶ。集団の発達過程や集団内の対人関係の構築等の観点から、人間の集団が活動する際の特性とダイナミクスについての理解を深める。効果的な集団づくりや集団運営に関する文献講読と発表・ディスカッションを行い、集団の問題に着目して研究課題を設定する視点と考え方を身に付ける。	隔年
		集団心理学特論 B		集団が効果的に機能するための条件や、円滑な協働を実現するための集団づくりの実践方策に関する科学的な研究知見を学ぶ。講義に加えて、現代社会や学校教育にみられる集団の活性化や病理などの問題について、受講者は各自が関心を持つテーマを設定し、発表・ディスカッションを通じて、科学的根拠に基づいた集団現象の把握と問題解決アプローチに関する理解を深める。	隔年
		教育制度特論 A		教育制度に関する具体的な課題を取り上げ、その背景・現状・改善策について検討する。特に、日本における教育に関する法規・法制を中心に「教育を受ける権利」の保証に向けた立法・行政・司法の動きを総合的に考察する。その際、国際人権規約などを手がかりとしながら、国際的なスタンダードを踏まえた「基本的人権としての教育」の理念的・実践的な捉え方について理解を深める。	
		教育制度特論 B		教育制度に関する具体的な課題を取り上げ、その背景・現状・改善策について検討する。特に、教育制度を生活者の視点から捉え直し、国家や社会を形成する人々が個人として本来的にもっている力を育成するうえでのサポート機能の充実・強化に向けた取組について考察する。その際、コミュニティをそれぞれの価値や利害関係によって結びついた小グループから構成されるものとし、個人や組織、地域の力を引き出すコミュニティ・エンバウメントに基づいた教育制度の在り方を探求する。	隔年
		社会教育学特論 A		前半は、社会教育や生涯学習についての概論を講義形式の授業によって論じていく。後半は、子どもと社会教育・生涯学習や学校・家庭・地域の連携等テーマに関する論文を演習形式で検討することにより、生涯学習社会における教育や学習のあり方について考えを深めていく。	
		社会教育学特論 B		前半は、社会教育や生涯学習についての概論を講義形式の授業によって論じていく。後半は、成人学習に関する論文を演習形式で検討することにより、生涯学習社会における教育や学習のあり方について考えを深めていく。	隔年
		教育社会学特論Ⅰ A		教育社会学の基礎的な学説を概観し、学校制度・学級経営などを横断する教育現象を社会的に把握するための考察力を養う。	隔年
		教育社会学特論Ⅰ B		教育社会学の理論と方法に関する理解を深める。教育の状況や課題について、教育と社会の関係、社会のなかの教育、社会としての教育（学校）などの視点から考察する。たとえば、教育社会学は、教育に配分や選抜の機能、ジェンダーやカーストの性質、属性主義や業績主義の傾向を析出する。文献や資料の検討を通じ、教育社会学の見方を理解する。	隔年
		教育社会学特論Ⅱ A		教育社会学の主要な学説・理論に対する理解を深めるとともに、その研究方法の特質を知る。	隔年

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育社会学特論ⅡB		教育社会学に関する文献や資料の検討を通じ、子ども、学校、社会、文化などの関係について考察する。日本や世界（主に欧米）、小・中学校や大学、学問や芸術などに視野を広げながら考察を行い、教育社会学の理論と方法に関する視点と理解を形成する。	隔年
	教育社会学特論演習A		教育社会学特論での講義内容を踏まえて、オリジナル文献、周辺文献を講読し、文化研究、教育組織研究を中心とする学説への理解を深める。	
	教育社会学特論演習B		教育社会学の学説に関する理解を深める。子ども、学校、社会、文化などの関係について、社会学の分類や統計、文化学の解釈や記号、教育学の規範や行為などの考え方を視野に入れながら考察する。文献や資料の検討を通じ、教育社会学の研究的な視点と理解を得る。	
	教育方法学特論ⅠA		教育方法学研究の発展をさえた授業研究の特質について解説する。とりわけ、民間教育運動における成果を中心に解説することで、教育方法学の研究方法論と成果に重点を置く。	隔年
	教育方法学特論ⅠB		教育方法学研究の発展に影響を与える教育のグローバル。スタンダードについて解説する。とりわけ、OECDのPISAとその背景を中心に解説することで、教育方法学の研究方法論と課題に重点を置く。	隔年
	教育方法学特論ⅡA		戦後わが国における授業研究の歴史的成果と現代的課題について講義する。とりわけ、陶冶と訓育の統一という視点から「学級で教える」ことの今日的意義を検討する。	隔年
	教育方法学特論ⅡB		戦後わが国における授業研究の歴史的成果と現代的課題について講義する。とりわけ、「Lesson Study」として海外から注目された授業改善のメカニズムについて講義する。	隔年
	教育方法学特論演習A		受講者が興味・関心を持つ、学習指導および生活指導に関する教育問題に関する文献を選定し、輪読と討議を行う	
	教育方法学特論演習B		授業づくりにかかわる、いくつかの授業実践記録を検討することを通して、授業の過程的・歴史的 성격について理解を深めながら、実際に授業を構成する教育方法技術の基礎について学ぶ。	
	教育組織特論		学校運営の活性化を促進する教育組織のあり方について考察する。学校の理念や歴史、教員と事務職員の専門性、教員と事務職員の協働関係などの検討を通じ、教育組織の本質と課題を考究する。 オムニバス方式（全15回）目的・方法（13 尾上雅信・48 平田仁胤・15 梶井一暁/2回）西洋の学校の成り立ちとその意義（13 尾上雅信/2回）日本の学校の成立とその意義（15 梶井一暁/2回）学校の教育目標をふまえた事務職員と教員の協働（48 平田仁胤/4回）学校の教育目標の実現を図る事務職員の専門性（67 高瀬淳・75 金川舞貴子/2回）教材研究（48 平田仁胤/2回）まとめ（15 梶井一暁/1回）	オムニバス

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育組織特論演習		教育組織の改善のため、教員と事務職員に向けた研修講座を企画・実施し、その省察・改善を行う。研修講座の運営を通じ、教員と事務職員が協働する教育組織に関する課題と展望を考察する。 オムニバス方式（全15回）目的・方法（13 尾上雅信・48 平田仁胤・15 梶井一暁/2回）学校と社会に関する歴史的展開（13 尾上雅信/2回）学校と社会に関する今日の課題（81 宮本勇一/2回）学校の教育目標を実現する事務職員と地域学校協働（66 熊谷慎之輔/4回）学校の教育目標の実現を図る事務職員の専門性（67 高瀬淳・75 金川舞貴子/2回）教材研究（48 平田仁胤/2回）まとめ（15 梶井一暁/1回）	オムニバス
	学校社会学特論ⅠA		「授業の社会学」に関する主な学説や理論に関する理解を深め、その研究方法の特質を探究。講義と演習（論文講読）とを組み合わせ実施する。ⅠAでは「自主学习」「自発協同学習」「バズ学習」のトピックを中心に扱う。	隔年
	学校社会学特論ⅠB		「授業の社会学」に関する主な学説や理論に関する理解を深め、その研究方法の特質を探究。講義と演習（論文講読）とを組み合わせ実施する。ⅠBでは「学習集団の構造」「小集団学習の理論と実践」「個を生かす集団づくり」のトピックを中心に扱う。	隔年
	学校社会学特論ⅡA		学校社会学に関する様々な研究論文の講読を通して、その研究方法の特質を知る。単なる購読で終わるのではなく、3～4回ごとに設定しているテーマごとの課題レポートを作成・整理し。ポートフォリオを作成する。ⅡAでは「学校社会学の研究方法」「学校の組織と文化」「学力調査研究と「効果のある学校」のトピックを中心に扱う。	隔年
	学校社会学特論ⅡB		学校社会学に関する様々な研究論文の講読を通して、その研究方法の特質を知る。なお、単なる購読で終わるのではなく、3～4回ごとに設定しているテーマごとの課題レポートを作成・整理し。ポートフォリオを作成する。ⅡBでは「学校臨床社会学の方法」「現代的教育課題の諸相」「格差社会と学校」のトピックを中心に扱う。	隔年
	教育科学特論（国語科教育学ⅠA）		近年の国語教育研究の動向を『国語教育学の成果と展望』で参照されている論文を講読することによって、考察する。主に取り扱う領域は、話すこと・聞くこと、読むこと領域である。	隔年
	教育科学特論（国語科教育学ⅠB）		近年の国語教育研究の動向を『国語教育学の成果と展望』で参照されている論文を講読することによって、考察する。主に取り扱う領域は書くこと領域である。言語活動の充実に関係する研究動向に関しても参照する。	隔年
	教育科学特論（国語科教育学ⅡA）		近年の国語教育研究の動向を『国語教育学の成果と展望』で参照されている論文を講読することによって、考察する。日本語基礎事項の学習指導に関する研究、メディア・リテラシー、マルチモーダル・リテラシー、デジタル・リテラシーの学習指導に関する研究を取り扱う。	隔年
	教育科学特論（国語科教育学ⅡB）		近年の国語教育研究の動向を『国語教育学の成果と展望』で参照されている論文を講読することによって、考察する。国語教育学基礎論、国語教育学研究に関する基礎論に関して、取り扱う。	隔年
	教育科学特論（国語学ⅠA）		授業の概要は以下のとおりである。国語科の学習内容の、特に「国語の特質」の理解を深めるために必要な概念や理論について、演習をととして整理したり考えたりする。具体的には、音声を取り扱い、「言語の多様な働きについての理解」を深める。さらに、「国語の特質」を授業で扱う場合の指導の観点や授業展開などについて演習をととして具体的に考える。	隔年

科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		教育科学特論（国語学Ⅰ B）		授業の概要は以下のとおりである。国語科の学習内容の、特に「国語の特質」の理解を深めるために必要な概念や理論について、演習をととして整理したり考えたりする。具体的には、表記を取り扱い、「言語の多様な働きについての理解」を深める。さらに、「国語の特質」を授業で扱う場合の指導の観点や授業展開などについて演習をととして具体的に考える。	隔年
		教育科学特論（国語学Ⅱ A）		授業の概要は以下のとおりである。国語科の学習内容の、特に「国語の特質」の理解を深めるために必要な概念や理論について、演習をととして整理したり考えたりする。具体的には、語彙を取り扱い、「言語の多様な働きについての理解」を深める。さらに、「国語の特質」を授業で扱う場合の指導の観点や授業展開などについて演習をととして具体的に考える。	隔年
		教育科学特論（国語学Ⅱ B）		授業の概要は以下のとおりである。国語科の学習内容の、特に「国語の特質」の理解を深めるために必要な概念や理論について、演習をととして整理したり考えたりする。具体的には、文法を取り扱い、「言語の多様な働きについての理解」を深める。さらに、「国語の特質」を授業で扱う場合の指導の観点や授業展開などについて演習をととして具体的に考える。	隔年
		教育科学特論（近代文学Ⅰ A）		主として教科書に採録されている文学作品、特に近代小説を対象に、その表現技法や作品世界の構造・思想・特質について分析し、教科指導上の要点を理解するとともに、演習・レポートを通じて言語文化（文学）への関心・理解を深める。	隔年
		教育科学特論（近代文学Ⅰ B）		主として教科書に採録されている文学作品、特に現代小説を対象に、その表現技法や作品世界の構造・思想・特質について分析し、教科指導上の要点を理解するとともに、演習・レポートを通じて言語文化（文学）への関心・理解を深める。	隔年
		教育科学特論（近代文学Ⅱ A）		主として教科書に採録されている近代詩・現代詩を対象に、その表現技法や作品世界の構造・思想・特質について分析し、教科指導上の要点を理解するとともに、演習・レポートを通じて言語文化（文学）への関心・理解を深める。	隔年
		教育科学特論（近代文学Ⅱ B）		主として教科書に採録されている短歌・俳句を対象に、その表現技法や作品世界の構造・思想・特質について分析し、教科指導上の要点を理解するとともに、演習・レポートを通じて言語文化（文学）への関心・理解を深める。	隔年
		教育科学特論（漢文学Ⅰ A）		小中高等学校の国語で取り扱う漢文学の諸作品を中心として、これを科学的に読解するために必要な学問的手続きを講義する。漢字の特質に対する十分な理解は、現代の言葉とのつながりを理解する上でも、小中高等学校国語の教員として一貫して必要である。そこで小中学校の漢字学習を視野に入れつつ、漢詩・韻文の講義や演習を通じて、昔の人のものの見方や感じ方を実際に読み解く。その際には、中国から招来された資料だけでなく、日本に伝存する旧鈔本や和刻本資料をも参照することによって、我が国の歴史の中で創造され、継承されてきた漢文学の伝統を学ぶ。	隔年
		教育科学特論（漢文学Ⅰ B）		小中高等学校の国語で取り扱う漢文学の諸作品を中心として、これを科学的に読解するために必要な学問的手続きを講義する。漢字の特質に対する十分な理解は、現代の言葉とのつながりを理解する上でも、小中高等学校国語の教員として一貫して必要である。そこで小中学校の漢字学習を視野に入れつつ、思想的文章の講義や演習を通じて、昔の人のものの見方や感じ方を実際に読み解く。その際には、中国から招来された資料だけでなく、日本に伝存する旧鈔本や和刻本資料をも参照することによって、我が国の歴史の中で創造され、継承されてきた漢文学の伝統を学ぶ。	隔年
		教育科学特論（漢文学Ⅱ A）		小中高等学校の国語で取り扱う漢文学の諸作品を中心として、これを科学的に読解するために必要な学問的手続きを講義する。漢字の特質に対する十分な理解は、現代の言葉とのつながりを理解する上でも、小中高等学校国語の教員として一貫して必要である。そこで小中学校の漢字学習を視野に入れつつ、抒情的散文の講義や演習を通じて、昔の人のものの見方や感じ方を実際に読み解く。その際には、中国から招来された資料だけでなく、日本に伝存する旧鈔本や和刻本資料をも参照することによって、我が国の歴史の中で創造され、継承されてきた漢文学の伝統を学ぶ。	隔年

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学特論（漢文学Ⅱ B）		小中高等学校の国語で取り扱う漢文学の諸作品を中心として、これを科学的に読解するために必要な学問的手続きを講義する。漢字の特質に対する充分な理解は、現代の言葉とのつながりを理解する上でも、小中高等学校国語の教員として一貫して必要である。そこで小中学校の漢字学習を視野に入れつつ、史伝的文章の講義や演習を通じて、昔の人のものの見方や感じ方を実際に読み解く。その際には、中国から招来された資料だけでなく、日本に伝存する旧鈔本や和刻本資料をも参照することによって、我が国の歴史の中で創造され、継承されてきた漢文学の伝統を学ぶ。	隔年
	教育科学特論（社会科教育学ⅠA）		歴史教育学・地理教育学研究の基礎的な理論について著書・論文の講読を通して考察する。	
	教育科学特論（社会科教育学ⅠB）		歴史教育学・地理教育学研究の方法論についての著書・論文の講読を通して考察する。	
	教育科学特論演習（社会科教育学ⅠA）		歴史教育学・地理教育学の調査の方法について基礎的な知識とスキルを身に付けたうえで、研究計画を立案する。	
	教育科学特論演習（社会科教育学ⅠB）		歴史教育学・地理教育学の調査研究に関する論文の講読し、分析して報告する。	
	教育科学特論（社会科教育学ⅡA）		研究の方法論に関する基礎的な文献を講読したうえで、社会科教育学に関する論文についての受講生の報告に基づいて議論する。	
	教育科学特論（社会科教育学ⅡB）		授業の指導案や授業記録を手がかりにして、子どもの認識・思考、学力、技術や技能等の実態を視野に入れた中等社会科・公民科の基礎的な授業設計の方法や、中等社会科・公民科の特性に応じたICT機器、教材の効果的な活用方法を理解した上で、学習指導案作成や模擬授業の実施にそれらを活かし、授業設計力の向上に取り組んでいく。	
	教育科学特論演習（社会科教育学ⅡA）		国内外の優れた社会科教育の教材や実践及びそれに関する研究成果を分析し、社会科の目標原理やカリキュラムについて論じる。	
	教育科学特論演習（社会科教育学ⅡB）		社会科教育学の基本的文献を講読し、履修生の報告に基づいて議論する。	
	教育科学特論（日本史ⅠA）		小中高等学校の社会科でとりあげられる日本史上の主な事象や、先人の業績についての重要な研究を輪読し、その内容を検討する。選定したテーマについての特に重要な先行研究を取り上げる。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学特論（日本史ⅠB）		小中高等学校の社会科でとりあげられる日本史上の主な事象や、先人の業績についての重要な研究を輪読し、その内容を検討する。選定したテーマに関連して幅広い先行研究を取り上げる。	
	教育科学特論演習（日本史ⅠA）		中世の地域権力が出した法令を集めた『中世法制史料集 第四巻 武家家法II』（岩波書店、1998年）収載の史料を読む。おもに永正から大永年間の部分を輪読する。法令から武士による政治、守護と戦国大名、地域社会のあり方、かつての人々の観念などについて学ぶ。基礎的な読解方法の習得に重点を置く。	
	教育科学特論演習（日本史ⅠB）		中世の地域権力が出した法令を集めた『中世法制史料集 第四巻 武家家法II』（岩波書店、1998年）収載の史料を読む。おもに大永から天文年間前半の部分を輪読する。法令から武士による政治、守護と戦国大名、地域社会のあり方、かつての人々の観念などについて学ぶ。応用的な読解方法の習得に重点を置く。	
	教育科学特論（日本史ⅡA）		小中高等学校の社会科でとりあげられる日本史上の主な事象や、先人の業績についての重要な研究を輪読し、その内容を検討する。先行研究の整理から選定したテーマについての課題発見に重点を置く。	
	教育科学特論（日本史ⅡB）		小中高等学校の社会科でとりあげられる日本史上の主な事象や、先人の業績についての重要な研究を輪読し、その内容を検討する。先行研究の整理から研究実践に結びつけて研究発表をおこなう。	
	教育科学特論演習（日本史ⅡA）		中世の地域権力が出した法令を集めた『中世法制史料集 第五巻 武家家法III』（岩波書店、2001年）収載の史料を読む。おもに永禄年間前半の部分を輪読する。法令から武士による政治、戦国大名、織田権力、地域社会のあり方、かつての人々の観念などについて学ぶ。基礎的な読解方法の習得に重点を置く。	
	教育科学特論演習（日本史ⅡB）		中世の地域権力が出した法令を集めた『中世法制史料集 第五巻 武家家法III』（岩波書店、2001年）収載の史料を読む。おもに永禄年間中期の部分を輪読する。法令から武士による政治、戦国大名、織田権力、地域社会のあり方、かつての人々の観念などについて学ぶ。応用的な読解方法の習得に重点を置く。	
	教育科学特論（世界史ⅠA）		ロシア帝国の政治外交史に関連する書籍を輪読し、ロシア史に関する知識を身に着ける。担当者は、読んできた内容を報告し、それから討論を行う。	
	教育科学特論（世界史ⅠB）		ソ連の政治外交史に関連する書籍を輪読し、ソ連史に関する知識を身に着ける。担当者は、読んできた内容を報告し、それから討論を行う。	
	教育科学特論演習（世界史ⅠA）		講師が隔週でヨーロッパ政治外交史に関する講義を行いつつ、受講者も自分の研究テーマに沿った先行研究・論文を隔週で報告する。報告後にはそれぞれで研究に関する議論を行う。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学特論演習（世界史 I B）		講師が隔週でロシア・ソ連政治外交史に関する講義を行いつつ、受講者も自分の研究テーマに沿った論文・先行研究を隔週で報告する。報告後にはそれぞれで研究に関する議論を行う。	
	教育科学特論（世界史Ⅱ A）		西洋史に関する史料（外交文書や当時にパンフレットなど）を原語で輪読することで、歴史学論文における史料の扱い方や史料批判の方法について学ぶ。	
	教育科学特論（世界史Ⅱ B）		ロシア史に関する史料（外交文書や当時にパンフレットなど）を原語で輪読することで、歴史学論文における史料の扱い方や史料批判の方法について学ぶ。	
	教育科学特論演習（世界史 Ⅱ A）		講師が隔週でヨーロッパ政治外交史(ロシアを含む)に関する講義を行いつつ、受講者も自分の研究テーマに沿った先行研究について報告する。また修士論文指導についても並行して行う。	
	教育科学特論演習（世界史 Ⅱ B）		講師が隔週でヨーロッパ政治外交史(ロシアを含む)に関する講義を行いつつ、受講者は修士論文の執筆状況について随時報告する。	
	教育科学特論（自然地理学 I A）		自然地理学を理解するうえでの、必要な基礎的な概念を学ぶ。とくに自然地理学のうち、環境と人類の関わりについて論じる。	
	教育科学特論（自然地理学 I B）		自然地理学を理解するうえでの、必要な概念の応用例を学ぶ。とくに自然地理学のうち、環境と人類の関わりについて論じる。	
	教育科学特論演習（自然地理学 I A）		地域学習を行うために必要な自然環境をとらえる基礎的な概念を学ぶ。	
	教育科学特論演習（自然地理学 I B）		地域学習を行うために必要な自然環境をとらえる概念の応用例を学ぶ。	
	教育科学特論（自然地理学 Ⅱ A）		自然地理学の諸問題を解明するための視点・方法および問題点についての基礎を学び、地図を判読し、具体的な資料や調査報告に基づき討論する。必要に応じて野外実習も行う。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学特論（自然地理学ⅡB）		自然地理学の諸問題を解明するための視点・方法および問題点についての応用例を学び、地図を判読し、具体的な資料や調査報告に基づき討論する。必要に応じて野外実習も行う。	
	教育科学特論演習（自然地理学ⅡA）		自然地理学を理解するうえでの、必要な基礎的な概念を学ぶ。とくに自然地理学のうち、外的営力の地形と関わりのある諸問題について論じる。	
	教育科学特論演習（自然地理学ⅡB）		自然地理学を理解するうえでの、必要な概念の応用例を学ぶ。とくに自然地理学のうち、外的営力の地形と関わりのある諸問題について論じる。	
	教育科学特論（政治学ⅠA）		本授業は、小中高等学校の社会科ならびに公民科で扱われる政治学分野に関して、その基礎理論の習得を目指すものである。本授業では、現代政治理論の諸理論家あるいは諸テーマについて、関連する重要論文・書籍を講読し、発表・討論することを通じて、小中高等学校の授業実践において必要な知識を獲得するだけでなく、そこで扱われている諸制度や諸概念の背景を分析・考察する。本年度はロールズ『政治的リベラリズム』とその関連論文を輪読する。	
	教育科学特論（政治学ⅠB）		本授業は、小中高等学校の社会科ならびに公民科で扱われる政治学分野に関して、その基礎理論の習得を目指すものである。本授業では、現代政治理論の諸理論家あるいは諸テーマについて、関連する重要論文・書籍を講読し、発表・討論することを通じて、小中高等学校の授業実践において必要な知識を獲得するだけでなく、そこで扱われている諸制度や諸概念の背景を分析・考察する。本年度はロールズ『政治的リベラリズム』と関連論文を輪読し、それを教育科学の課題と結びつけつつ考察する。	
	教育科学特論演習（政治学ⅠA）		本演習は、小中高等学校の社会科ならびに公民科で扱われる政治学分野に関して、その基礎理論の習得を目指すものである。本演習では、日本政治思想史の諸理論家あるいは諸テーマについて、関連する重要論文・書籍を講読し、発表・討論することを通じて、小中高等学校の授業実践において必要な知識を獲得するだけでなく、そこで扱われている諸制度や諸概念の背景を分析・考察する。	
	教育科学特論演習（政治学ⅠB）		本演習は、小中高等学校の社会科ならびに公民科で扱われる政治学分野に関して、その基礎理論の習得を目指すものである。本演習では、日本政治思想史の諸理論家あるいは諸テーマについて、関連する重要論文・書籍を講読し、発表・討論することを通じて、小中高等学校の授業実践において必要な知識を獲得するだけでなく、専門知識を教育科学の諸課題と結びつけつつ考察・分析する。	
	教育科学特論（政治学ⅡA）		本授業は、小中高等学校の社会科ならびに公民科で扱われる政治学分野に関して、その基礎理論の習得を目指すものである。本授業では、現代政治理論の諸理論家あるいは諸テーマについて、関連する重要論文・書籍を講読し、発表・討論することを通じて、小中高等学校の授業実践において必要な知識を獲得するだけでなく、そこで扱われている諸制度や諸概念の背景を分析・考察する。本年度は、ラトウール『社会的なものを組み直す』を取り上げ、それを教育科学の諸課題と結びつけつつ考察する。	
	教育科学特論（政治学ⅡB）		本授業は、小中高等学校の社会科ならびに公民科で扱われる政治学分野に関して、その基礎理論の習得を目指すものである。本授業では、現代政治理論の諸理論家あるいは諸テーマについて、関連する重要論文・書籍を講読し、発表・討論することを通じて、小中高等学校の授業実践において必要な知識を獲得するだけでなく、そこで扱われている諸制度や諸概念の背景を分析・考察する。本年度は、ラトウール『虚構の「近代」』を取り上げ、それを教育科学の諸課題と結びつけつつ考察する。	
	教育科学特論演習（政治学ⅡA）		本演習は、小中高等学校の社会科ならびに公民科で扱われる政治学分野に関して、その基礎理論の習得を目指すものである。本演習では、日本政治思想史の諸理論家あるいは諸テーマについて、関連する重要論文・書籍を講読し、発表・討論することを通じて、小中高等学校の授業実践において必要な知識を獲得するだけでなく、そこで扱われている諸制度や諸概念の背景を分析・考察する。本年度は、丸山眞男『中世と反逆』を取り上げ、それを教育科学の諸課題と結びつけつつ考察する。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学特論演習（政治学ⅡB）		本演習は、小中高等学校の社会科ならびに公民科で扱われる政治学分野に関して、その基礎理論の習得を目指すものである。本演習では、日本政治思想史の諸理論家あるいは諸テーマについて、関連する重要論文・書籍を講読し、発表・討論することを通じて、小中高等学校の授業実践において必要な知識を獲得するだけでなく、そこで扱われている諸制度や諸概念の背景を分析・考察する。本年度は、丸山眞男『日本の思想』を取り上げ、それを教育科学の諸課題と結びつけつつ考察する。	
	教育科学特論（経済学ⅠA）		教育をはじめとするさまざまな社会事象を科学的に解明するためには、そのための方法論的基礎の修得とともに、現代社会の制度的前提である市場機構の機能と限界についての十分な理解が必要不可欠である。そこで、この授業科目では経済学の原理と方法を理論・実証の両面から学ぶことで、経済学の方法を用いた教育科学研究を行うための知識・技能の修得を図る。標準的な経済学の一般的包括的内容が取り扱われるが、この授業科目では特に経済学の理論的側面に重点が置かれる。	
	教育科学特論（経済学ⅠB）		教育をはじめとするさまざまな社会事象を科学的に解明するためには、そのための方法論的基礎の修得とともに、現代社会の制度的前提である市場機構の機能と限界についての十分な理解が必要不可欠である。そこで、この授業科目では経済学の原理と方法を理論・実証の両面から学ぶことで、経済学の方法を用いた教育科学研究を行うための知識・技能の修得を図る。標準的な経済学の一般的包括的内容が取り扱われるが、この授業科目では特に経済学の実証的側面に重点が置かれる。	
	教育科学特論演習（経済学ⅠA）		教育をはじめとするさまざまな社会事象を科学的に解明するためには、そのための方法論的基礎の修得とともに、現代社会の制度的前提である市場機構の機能と限界についての十分な理解が必要不可欠である。そこで、この授業科目では経済学の原理と方法を理論・実証の両面から演習形式で学ぶことで、経済学の方法を用いた教育科学研究を行うための知識・技能の定着を図る。標準的な経済学の一般的包括的内容が取り扱われるが、この授業科目では特に経済学の理論的側面に重点が置かれる。	
	教育科学特論演習（経済学ⅠB）		教育をはじめとするさまざまな社会事象を科学的に解明するためには、そのための方法論的基礎の修得とともに、現代社会の制度的前提である市場機構の機能と限界についての十分な理解が必要不可欠である。そこで、この授業科目では経済学の原理と方法を理論・実証の両面から演習形式で学ぶことで、経済学の方法を用いた教育科学研究を行うための知識・技能の定着を図る。標準的な経済学の一般的包括的内容が取り扱われるが、この授業科目では特に経済学の実証的側面に重点が置かれる。	
	教育科学特論（経済学ⅡA）		教育をはじめとするさまざまな社会事象を科学的に解明するためには、そのための方法論的基礎の修得とともに、現代社会の制度的前提である市場機構の機能と限界についての十分な理解が必要不可欠である。そこで、この授業科目では経済学の応用と実際を理論・実証の両面から学ぶことで、経済学の方法を用いた教育科学研究を行うための知識・技能を活用する力の向上を図る。標準的な経済学の一般的包括的内容が取り扱われるが、この授業科目では特に経済学の理論的側面に重点が置かれる。	
	教育科学特論（経済学ⅡB）		教育をはじめとするさまざまな社会事象を科学的に解明するためには、そのための方法論的基礎の修得とともに、現代社会の制度的前提である市場機構の機能と限界についての十分な理解が必要不可欠である。そこで、この授業科目では経済学の応用と実際を理論・実証の両面から学ぶことで、経済学の方法を用いた教育科学研究を行うための知識・技能を活用する力の向上を図る。標準的な経済学の一般的包括的内容が取り扱われるが、この授業科目では特に経済学の実証的側面に重点が置かれる。	
	教育科学特論演習（経済学ⅡA）		教育をはじめとするさまざまな社会事象を科学的に解明するためには、そのための方法論的基礎の修得とともに、現代社会の制度的前提である市場機構の機能と限界についての十分な理解が必要不可欠である。そこで、この授業科目では経済学の応用と実際を理論・実証の両面から演習形式で学ぶことで、経済学の方法を用いた教育科学研究を行うための知識・技能を活用する力の定着を図る。標準的な経済学の一般的包括的内容が取り扱われるが、この授業科目では特に経済学の理論的側面に重点が置かれる。	
	教育科学特論演習（経済学ⅡB）		教育をはじめとするさまざまな社会事象を科学的に解明するためには、そのための方法論的基礎の修得とともに、現代社会の制度的前提である市場機構の機能と限界についての十分な理解が必要不可欠である。そこで、この授業科目では経済学の応用と実際を理論・実証の両面から演習形式で学ぶことで、経済学の方法を用いた教育科学研究を行うための知識・技能を活用する力の定着を図る。標準的な経済学の一般的包括的内容が取り扱われるが、この授業科目では特に経済学の実証的側面に重点が置かれる。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学特論（倫理学Ⅰ A）		小中社会および高等学校公民の学習目標に大きくかかわる「人間の尊重」、「個人の尊厳」などの主題と関連づけて、特に、ソクラテス、プラトン、アリストテレスなどの西洋古代の代表的な倫理思想に焦点を当てながら、倫理学の基本的な考え方や倫理的視点について理解します。そして、こうした学習を通じて、倫理的視点からの「論理」に基づいて思考していく力の育成をめざすとともに、小中社会および高等学校公民の指導において必要な思考力の涵養をめざします。	
	教育科学特論（倫理学Ⅰ B）		小中社会および高等学校公民の学習目標に大きくかかわる「人間の尊重」、「個人の尊厳」などの主題と関連づけて、特に、デカルトやカントやヘーゲルなどの西洋近代の代表的な倫理思想に焦点を当てながら、倫理学の基本的な考え方や倫理的視点について理解します。そして、こうした学習を通じて、倫理的視点からの「論理」に基づいて思考していく力の育成をめざすとともに、小中社会および高等学校公民の指導において必要な思考力の涵養をめざします。	
	教育科学特論（倫理学Ⅱ A）		小中社会および高等学校公民の学習目標に大きくかかわる「人間の尊重」、「個人の尊厳」などの主題と関連づけて、特に、現代思想の主要な潮流をなしているプラグマティズムの立場からの倫理思想を考察します。具体的には、デューイらの古典的プラグマティズムやローティらの現代版プラグマティズムの倫理思想を検討します。こうした学習を通じて、倫理学的観点からの「論理」に基づいて思考していく力の向上をめざすとともに、小中社会および高等学校公民の指導において必要な思考力の涵養をめざします。	
	教育科学特論（倫理学Ⅱ B）		小中社会および高等学校公民の学習目標に大きくかかわる「人間の尊重」、「個人の尊厳」などの主題と関連づけて、社会的弱者に焦点を当てている倫理的な著作について考察します。具体的には、ケアリング倫理思想、ヌスバウムらの徳を重んじる倫理思想、キースやジョリアンらの当事者による倫理思想を検討します。こうした学習を通じて、倫理学的観点からの「論理」に基づいて思考していく力の向上をめざすとともに、小中社会および高等学校公民の指導において必要な思考力の涵養をめざします。	
	教育科学特論（代数学Ⅰ A）		漸化式および微分方程式について理論を学習し、数学教員としての素養を高める。	
	教育科学特論（代数学Ⅰ B）		漸化式および微分方程式についての理論を深く理解し、学校現場で利用できるようにする。	
	教育科学特論（代数学Ⅱ A）		漸化式および微分方程式について理論を学習し、数学教員としての素養を高める。	
	教育科学特論（代数学Ⅱ B）		単因子論について理論を学習し、数学教員としての素養を高める。	
	教育科学特論（代数学Ⅲ A）		小中高等学校数学でも扱う整数の性質を代数的に理解するのに必要な、初等整数論の基本事項について講義をする。「整数、少数及び分数の計算の意味について理解し、それらの計算の仕方を考え、計算に習熟し活用することができる」能力を養うために必要な事柄を、代数的なものの見方から講義する。	
	教育科学特論（代数学Ⅲ B）		小中高等学校数学で扱う整数の除法の余りの性質について、代数的な観点から講義を行う。	

科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		教育科学特論（代数学Ⅳ A）		代数学に関連した教材の数学的背景について説明し、代数学を用いた数学の教材作りを行う。	
		教育科学特論（代数学Ⅳ B）		代数学の立場から算数・数学の教科書を見直し、数学の教員としての資質を高める。	
		教育科学特論（幾何学Ⅰ A）		この講義では、図形の対称性を記述する数学的な道具である「群論」を利用して、正多角形や正多面体、平面幾何文様などの図形を数学的に解明する。具体的には、「群」の概念・公理の復習から始めて、平面上の正多角形の対称性を記述する「二面体群」、空間内の正多面体の対称性を記述する「正多面体群」を取り上げた後、図形の対称性を記述するために必要な数学的道具(ユークリッド空間、数ベクトル空間、一般線形群、直交群、線形変換、直交変換など)について学習する。	
		教育科学特論（幾何学Ⅰ B）		この講義は「幾何学ⅠA」の続編であり、図形の対称性を記述する数学的な道具である「群論」を利用して、正多角形や正多面体、平面幾何文様などの図形を数学的に解明する。具体的には、群論の基本事項(準同型写像、準同型定理、群の直積・半直積)を復習した後、ユークリッド空間上の合同変換および、その全体からなる合同変換群を導入し、群論の知識を用いて、平面上の合同変換群の群構造を完全に決定する。さらに、応用として、平面上の繰返し文様と文様群について学習する。	
		教育科学特論（幾何学Ⅱ A）		「トポロジー(位相幾何学)」は「柔らかい幾何学」とも呼ばれ、連続的に変形しても変わらない、図形の性質を調べる分野である。この講義では、「トポロジー(位相幾何学)」について、基本的な考え方や手法を学習する。具体的には、トポロジーの先駆けとも言えるオイラー(Euler)の「ケーニヒスベルク(Konigsberg)の橋渡りの問題」や「多面体定理」、平面グラフの切断数やベッチ(Betti)数を取り上げ、トポロジーの基本的な考え方を理解することを目指す。	
		教育科学特論（幾何学Ⅱ B）		この講義は「幾何学ⅠA」の続編であり、引き続き「トポロジー(位相幾何学)」について、基本的な考え方や手法を学習する。具体的には、幾何学ⅠAで学習したトポロジーの基本的な考え方をを用いて、写像の回転数を定義し、その応用としてブラウワー(Brouwer)の不動点定理やボルスク・ウラム(Borsuk-Ulam)の定理を学習する。さらには、曲面上のベクトル場の概念を導入し、ベクトル場の零点と曲面のオイラー標数との関係を記述するオイラー・ポアンカレ(Poincare)の定理を取り上げ、その応用として、ハミルトン(Hamilton)の「四元数」を含む「数の体系」について学習する。	
		教育科学特論（解析学Ⅲ A）		小学校算数、中学校および高等学校数学で扱う教科内容について、その原理や構造を数理科学的に理解するために必要な概念を学ぶ。応用数理科学的探求に必要な数学として、関数解析の基礎を学ぶ。実数列の極限やベクトル空間の定義を確認する地点からスタートとし、関数解析の前提となる考え方（距離空間等）と関数解析の基本的な舞台の一つであるノルム空間で展開される基本的な理論について学び、学校数学で扱う教科内容との関連等についても考察する。	
		教育科学特論（解析学Ⅲ B）		小学校算数、中学校および高等学校数学で扱う教科内容について、その原理や構造を数理科学的に理解するために必要な概念を学ぶ。応用数理科学的探求に必要な数学として、関数解析の基礎を学ぶ。ここでは関数解析の基本的な舞台（ノルム空間、内積空間、バナッハ空間、ヒルベルト空間、共役空間）で展開される基本的な理論を学ぶ中で、特にバナッハ空間上の線型作用素についての基礎概念として、連続性、有界性、作用素の双対と各種の収束等に着目する。ヒルベルト空間上の作用素については作用素の共役の概念を導入しその基本性質を確認しながら、学校数学での教科内容との関連等についても考察する。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学特論（解析学Ⅳ A）		小学校算数、中学校および高等学校数学で扱う教科内容について、その原理や構造を数理科学的に理解するために必要な概念を学ぶ。応用数理科学の探求に必要な数学として、作用素論の基礎を学ぶ。ヒルベルト空間の上での有界作用素についての理論について学ぶ。ここでは、一つの見方として関数解析を線形代数の拡張としてとらえ、基本的概念であるベクトル空間、内積空間の基本性質を確認した上で、シュワルツの不等式から始めて、正規直交系、次元、直交分解、リースの表現定理等を学び、学校数学の教科内容との関連等について考察する。	
	教育科学特論（解析学Ⅳ B）		小学校算数、中学校および高等学校数学で扱う教科内容について、その原理や構造を数理科学的に理解するために必要な概念を学ぶ。応用数理科学の探求に必要な数学として、作用素論の基礎を学ぶ。ヒルベルト空間の上での有界作用素の理論について学ぶ。ヒルベルト空間上の作用素について、作用素の共役の概念に着目して作用素を分類し、自己共役または対称、正規、ユニタリー等の概念を導入する。特に、自己共役作用素には大小の概念が導入され、実数の世界での性質が再現されることから、学校数学の教科内容との関連等についても考察する。さらに、作用素のスペクトルの基本性質とスペクトルの分類についても学ぶ。	
	教育科学特論演習（数学Ⅰ A）		漸化式および微分方程式についての演習を通して数学教員としての素養を高める。	
	教育科学特論演習（数学Ⅰ B）		小中高における算数・数学の整数分野に関連する数の体系(実数、複素数、四元数)について概説する。	
	教育科学特論演習（数学Ⅰ C）		「ユークリッド幾何学」における「第五公準(平行線の公理)」を証明しようとする試みの中から、「非ユークリッド幾何学」という新しい幾何学が誕生した。この演習では、文献の講読および受講生による発表を通して、「ユークリッド幾何学」から「非ユークリッド幾何学」を含む新しい幾何学が誕生した経緯について学習する。具体的には、ユークリッドの「原論」第1巻の48個の命題の吟味から始めて、「第五公準(平行線の公理)」の役割、意味するところを理解することを目標とする。	
	教育科学特論演習（数学Ⅰ E）		小学校算数、中学校および高等学校数学で扱う教科内容について、その原理や構造を数理科学的に理解するために必要な概念を学ぶ。応用数理科学の探求に必要な数学として基本的な不等式を取り上げ、その証明や関連する事項について学ぶ。適宜、演習を行う。ここでは、相加平均（算術平均）は相乗平均（幾何平均）より大であるという有名な定理の複数の証明をを学び、そこで現れる証明の手法について考察する。さらに、凸関数の一般的性質と凸関数に関係する不等式、累乗関数に関する調和的で美しい関係、コーシーの不等式とその拡張等についても考察する。	
	教育科学特論演習（数学Ⅱ A）		単因子論についての演習を通して数学教員としての素養を高める。	
	教育科学特論演習（数学Ⅱ B）		小中高における算数・数学の整数分野に関連する初等整数論(平方剰余の相互法則)について概説する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		教育科学特論演習（数学Ⅱ C）		「ユークリッド幾何学」における「第五公準(平行線の公理)」を証明しようとする試みの中から、「非ユークリッド幾何学」という新しい幾何学が誕生した。この演習は、演習ⅡCの続きとして文献の講読および受講生による発表を通して、「ユークリッド幾何学」から「非ユークリッド幾何学」を含む新しい幾何学が誕生した経緯について学習する。具体的には、「第五公準(平行線の公理)」を証明しようとした様々な試み(サッケーリ(Saccheri), ランベルト(Lambert), ルジャンドル(Legendre))について学習し、そこからボヤイ(Bolyai)とロバチェフスキー(Lobachevsky)による「双曲幾何学」の発見の経緯を概観し、最後に双曲幾何学のモデルの一つである「ポアンカレのモデル」を紹介する。	
		教育科学特論演習（数学Ⅱ E）		小学校算数、中学校および高等学校数学で扱う教科内容について、その原理や構造を数理科学的に理解するために必要な概念を学ぶ。応用数理科学の探求に必要な数学として基本標準的な不等式を取り上げ、その証明や関連する事項について学ぶ。適宜、演習を行う。有名な不等式の多くは純粋数学および応用数学の双方において良い結果をもたらしている。ここでは、ベルヌイの不等式、ヤングの不等式、平均に関する不等式、ヘルダーの不等式、チェビシェフの不等式、ミンコフスキーの不等式、イェンゼンの不等式等を取り上げ、相互関係や性質、それらの拡張等について考察する。	
		教育科学特論（理科教育学Ⅰ A）		我が国の現在の理科教育を理解したり、これからの理科教育を創造したりするために、本講義では理科教育（学）を歴史的な視点から追究する。その中で、歴史的に一貫して重視されている理科教育の目的・目標、内容、方法について見いだしたり、社会的な影響等により変化、発展している点を見いだしたりする。そして、これらの学修を通して、現在の理科教育を史的な連続性から捉えることができるような見方や考え方を養う。	隔年
		教育科学特論（理科教育学Ⅰ B）		理科教育学的見地から、近年の理科教育に関する動向について講義を行う。なお、本講義では理科教育学の中でも、とりわけアーギュメント、モデリングなどの学習指導に関する領域を扱う。そして、理科教育学のこれらの知見から、理科教育全体や個別の理科授業に対する見方・考え方を養うとともに、理科教育を科学として捉える能力を身に付ける。	隔年
		教育科学特論（理科教育学Ⅱ A）		我が国の現在の理科教育を理解したり、これからの理科教育を創造したりするために、本講義では理科教育（学）を海外との比較を通して追究する。その中で、国際的に共通して重視されている理科教育の目的・目標、内容、方法について見いだしたり、その国の歴史や文化、社会情勢等により日本と異なっている点や日本が他の国と異なっている点を見いだしたりする。そして、これらの学修を通して、日本の理科教育を文化的、社会的な視点から捉えることができるような見方や考え方を養う。	隔年
		教育科学特論（理科教育学Ⅱ B）		教科教育学的見地から、近年の理科教育に関する動向について講義を行う。なお、本講義では教科教育学の中でも、とりわけ教科の本質論、構成原理に関する領域を扱う。そして、教科教育学のこれらの知見から、理科教育全体や個別の理科授業に対する見方・考え方を養うとともに、理科教育を科学として捉える能力を身に付ける。	隔年
		教育科学特論演習（理科教育学 A）		これからの理科教育を創造するために、本講義ではESDについて扱う。具体的には、気候変動問題を中心としながら、理科教育の視点から取り組めること、理科教育の枠組みを超えて取り組まなければならないこと等を見だし、その具体的な方策について検討する。そして、このような学修を通して、新たな理科教育、理科授業を創造することのできる見方や考え方を養う。	隔年
		教育科学特論演習（理科教育学 B）		学習科学的見地から、近年の理科教育に関する動向について講義を行う。なお、本講義では学習科学の中でも、とりわけ社会構成主義、状況論の観点から学習者と環境の相互作用に関する領域を扱う。そして、学習科学のこれらの知見から、理科教育全体や個別の理科授業に対する見方・考え方を養うとともに、理科教育を科学として捉える能力を身に付ける。	隔年
		教育科学特論（物理学Ⅰ A）		小中高等学校理科で扱う物質の物性を科学的に理解するために必要な概念を講義する。理科で扱う物性（電気伝導、熱伝導、磁性、状態の変化他）の理解に欠かすことのできない事項を学修する。特にⅠAでは磁性と状態変化の原理について学修する。「理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行う」ために必要不可欠な自然を見る目を養うために必要な量子力学的見方を中心に、物性物理の基礎を学ぶ。	隔年

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学特論（物理学Ⅰ B）		小中高等学校理科で扱う物質の物性を科学的に理解するために必要な概念を講義する。理科で扱う物性（電気伝導、熱伝導、磁性、状態の変化他）の理解に欠かすことのできない事項を学修する。特にIBでは電気伝導と熱伝導の原理について学修する。「理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行う」ために必要不可欠な自然を見る目を養うために必要な量子力学的見方を中心に、物性物理の基礎を学ぶ。	隔年
	教育科学特論（物理学Ⅱ A）		教育科学を学修するために必要な専門科目としてこの授業を設ける。小中高等学校の理科実験の意味を理解して授業を構成する能力を養うために、物理で使用される磁性や相転移に関する実験手法の原理を科学的に学ぶ。各種測定技術を知ることによって様々な工夫を認識し、小中高等学校の理科で扱う実験に工夫を加える能力を養う。	隔年
	教育科学特論（物理学Ⅱ B）		教育科学を学修するために必要な専門科目としてこの授業を設ける。小中高等学校の理科実験の意味を理解して授業を構成する能力を養うために、物理で使用される電気伝導や光・音に関する実験手法の原理を科学的に学ぶ。各種測定技術を知ることによって様々な工夫を認識し、小中高等学校の理科で扱う実験に工夫を加える能力を養う。	隔年
	教育科学特論演習（物理学Ⅱ A）		教育科学を学修するために必要な専門科目としてこの授業を設ける。自然科学的事象を通して教育科学に関わるときに必要な知見を学修する。合わせて、小中高等学校の理科実験の意味を理解して授業を構成する能力を養うために、物理で使用する磁性や相転移に関する実験を体験することでその原理を理解する。各種測定技術を知ることによって様々な工夫を認識し、小中高等学校の理科で扱う実験に工夫を加える能力を養う。	隔年
	教育科学特論演習（物理学Ⅱ B）		教育科学を学修するために必要な専門科目としてこの授業を設ける。自然科学的事象を通して教育科学に関わるときに必要な知見を学修する。合わせて、小中高等学校の理科実験の意味を理解して授業を構成する能力を養うために、物理で使用する電気伝導や光・音に関する実験を体験することでその原理を理解する。各種測定技術を知ることによって様々な工夫を認識し、小中高等学校の理科で扱う実験に工夫を加える能力を養う。	隔年
	教育科学特論（物理学Ⅲ A）		小学校、中学校、高等学校の理科の物理分野で扱われる光の性質に関連したテーマを設定し、物質科学の先端的研究例に基づいて、物理法則、概念、科学的背景を学ぶ。受講生自ら課題を設定し、プレゼンテーションおよび討論形式を取り入れることで、小学校、中学校、高等学校の理科教員として必要とされる探求能力や説明能力および教育科学を学理探求するための資質能力の育成を図る。	隔年
	教育科学特論（物理学Ⅲ B）		小学校、中学校、高等学校の理科の物理分野で扱われる電磁気現象に関連したテーマを設定し、物質科学の先端的研究例に基づいて、物理法則、概念、科学的背景をミクロな観点から学ぶ。受講生自ら課題を設定し、プレゼンテーションおよび討論形式を取り入れることで、小学校、中学校、高等学校の理科教員として必要とされる探求能力や説明能力および教育科学を学理探求するための資質能力の育成を図る。	隔年
	教育科学特論（物理学Ⅳ A）		小学校、中学校、高等学校の理科の物理分野の内容と機能性材料科学に関連したテーマを設定し、物理法則、概念、科学的背景をミクロな観点から学ぶ。	隔年
	教育科学特論（物理学Ⅳ B）		小学校、中学校、高等学校の理科の物理分野の内容とエネルギー材料に関連したテーマを設定し、物理法則、概念、科学的背景をミクロな観点から学ぶ。	隔年
	教育科学特論演習（物理学Ⅲ A）		小学校、中学校、高等学校の理科の物理分野で扱われる内容に関連したテーマを設定し、物質の性質に関する先端的研究例に基づいて、物理法則、概念および科学的背景を演習形式で学ぶ。	隔年

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学特論演習（物理学Ⅲ B）		小学校、中学校、高等学校の理科の物理分野で扱われる内容に関連したテーマを設定し、物質の構造に関する先端的研究例に基づいて、物理法則、概念および科学的背景を演習形式で学ぶ。	隔年
	教育科学特論（有機化学Ⅰ A）		有機化学の学問体系、様々な化学反応のメカニズム、基本的な合成反応について概説する。有用な化学物質の合成法や性質等、石油化学の内容についても述べることで、有機化学系の研究に携わるための基本的な知識を養う。高校化学で扱う有機化学の内容に関し、それらを学ぶ意義について、また生活における有機化合物との関わりなど、理科教員として必要な基礎知識についても論じる。随時、有機合成実験の授業も行い、化合物や器具類の取り扱いや安全管理についての知識を習得する。	隔年
	教育科学特論（有機化学Ⅰ B）		有機化学分野において、特に高分子化学の内容について詳説する。様々な重合反応のメカニズムや基本的な合成反応について概説する。有用な繊維、プラスチックの合成法や性質等についても述べることで、有機化学系の研究に携わるための基本的な知識を養う。理科教育全般、あるいは高校化学で扱う高分子化学関連の内容に関し、それらを学ぶ意義について、また生活における高分子化合物との関わりなど、理科教員として必要な基礎知識についても論じる。随時、高分子合成に関する実験授業も行い、化合物や器具類の取り扱いや安全管理についての知識を習得する。	隔年
	教育科学特論（有機化学Ⅱ A）		有機化学分野において、主に生体関連物質の性質に関連する内容について広く概説する。生活に関する有機化合物（各種食品添加物など）、有用な天然化合物、生理活性物質、あるいは天然の毒生物質の性質等についても述べることで、有機化学系の研究に携わるための基本的な知識を養う。高校化学で扱う生物物質の内容に関し、それらを学ぶ意義について、また生活における生体関連化合物との関わりなど、理科教員として必要な基礎知識についても論じる。	隔年
	教育科学特論（有機化学Ⅱ B）		有機化学分野において、本講義では主に医薬品化学や医薬品製造方法に関する内容について概説する。生活で汎用されているような医薬品類の合成反応を取り上げ論説する。物質生産としての医薬品製造と石油化学の関連についても述べることで、有機化学系の研究に携わるための基本的な知識を養う。高校化学で扱う医薬品関連の内容に関し、それらを学ぶ意義について、また生活における医薬品との関わりなど、理科教員として必要な基礎知識についても論じる。	隔年
	教育科学特論（生物化学Ⅰ A）		生物化学分野において、本講義では主に遺伝子関連物質、タンパク質の内容について詳説する。代表的な生体物質であるアミノ酸やタンパク質の構造、遺伝子に含まれる拡散塩基、DNA、RNAの構造と生物機能について論じる。遺伝子情報の転写、翻訳、タンパク質合成について解説することで生物化学で重要となるタンパク質高次構造等への理解を深める。代表的な機能性タンパク質（インスリン、各種酵素類など）の構造と生体内における機能、加えて細胞のシグナル伝達系についても概説する。	隔年
	教育科学特論（生物化学Ⅰ B）		生物化学分野において、本講義では主に栄養素の代謝（分解、生合成）、ホルモン等の重要生体物質の構造、機能、生合成などについて詳説する。3大栄養素とされる炭水化物、脂質、タンパク質の構造や、その代謝経路について概説し、ATP生産に関連する生体エネルギー論についても論説する。また中等理科教育でも扱うような消化酵素の構造や機能についても解説し、随時、生体反応（酵素反応等）を用いた実験授業も行い、生体内化学反応についての理解を深める。	隔年
	教育科学特論（生物化学Ⅱ A）		生物化学分野において、本講義では主に医薬品の構造と機能について論じ、特に抗菌薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬、加えて各種ワクチンの作用等について詳説する。様々な感染症治療薬の歴史、化学構造と作用機序について、また人類の健康を支えてきたそれら治療薬の現状、将来における薬剤耐性菌の問題等についても解説する。現代社会において、様々な感染症へのワクチン開発が進められているが、その方法、効果や問題点について議論し、科学リテラシーと生物化学、また理科教育との関連性についても理解を深める。	隔年
	教育科学特論（生物化学Ⅱ B）		生物化学分野において、本講義では主に医薬品の構造と機能、及び農薬の作用機序等について論じる。特に抗炎症薬、降圧剤などの汎用医薬品の構造と作用機序、抗癌剤や糖尿病治療薬、また農薬として重要な殺虫剤や除草剤の構造と機能などについて詳説する。加えて、本講義を農業の進歩と人口増加における化学肥料や農薬の普及の関係、その問題点などについて議論する機会とし、生物化学と科学リテラシー、また理科教育との関連性についても理解を深める。	隔年

科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		教育科学特論演習（分析化学A）		分析化学全般において、様々な分析方法とその原理について概説する。また本講義では主に滴定実験における基本的な操作方法や原理、様々な呈色反応について述べることで、化学系の教育研究に携わるための基本的な知識を養う。理科教育全般、および高校化学で扱う上記分析化学の内容に関し、それらを学ぶ意義について、また理科教員として必要な基礎知識についても論じる。随時実験観察の授業も行い、化合物や器具類の取り扱い、安全管理についての知識や技術を習得する。	隔年
		教育科学特論演習（分析化学B）		分析化学分野において、特に機器分析の手法とその原理について概説する。本講義では主に各種スペクトル測定における基本的な操作方法や原理、化合物の構造決定法について述べることで、化学系の研究に携わるための基本的な知識を養う。高校化学で扱う機器分析の内容に関し、それらを学ぶ意義について、また科学技術の進歩と機器分析技術との関わりなど、理科教員として必要な基礎知識についても論じる。随時機器分析装置を利用した授業も行い、機器や器具類の取り扱いについての知識や技術を習得する。	隔年
		教育科学特論（無機化学A）		無機化学分野全般における、様々な化合物の構造や性質について論説する。また本講義では錯体化学の内容について概説し、遷移元素錯体の構造や性質、その分析方法の原理等についても述べることで、化学系の研究や教育に携わるための基本的な知識を養う。高校化学で扱う無機化学の内容に関し、それらを学ぶ意義について、また無機化学と分析化学との関わり、無機材料と科学技術の進歩との関係など、理科教員として必要な基礎知識についても論じる。	隔年
		教育科学特論（無機化学B）		無機化学の内容において、本講義では様々な機能性無機化合物の構造や性質について論説する。特に生体関連無機化合物や、環境保全に関する無機材料について詳説し、水質浄化への利用方法やその原理等についても述べることで、化学系の研究や教育に携わるための基本的な知識を養う。理科教育全般、あるいは高校化学で扱う無機材料に関する内容に関し、それらを学ぶ意義について、また無機化学と環境化学との関わりなど、理科教員として必要な基礎知識についても論じる。	隔年
		教育科学特論演習（無機化学A）		無機化学の内容において、本講義では様々な金属資源の確保や利用方法について概説する。鉄や銅など、生活に密着する金属材料の製錬方法等について詳説することが講義例であり、その他化学系の研究や教育に携わるための基本的な知識を養う。理科教育全般、あるいは高校化学で扱う金属材料に関する内容に関して理解し、理科教員として必要な基礎知識について学ぶ。随時、重金属イオンの性質を見る実験観察授業も行い、化学物質や実験器具類の取り扱いについての知識や技術を習得する。	隔年
		教育科学特論演習（無機化学B）		無機化学の内容において、本講義では主に金属資源と環境問題の関係について概説する。過去の金属資源確保に必要であった鉱山開発と公害問題等について詳説することが講義例であり、その他無機化学が関連する問題への理解を深め、化学系の教育に携わるための基本的な知識を養う。理科教育全般で扱う環境問題、特に重金属汚染の内容に関しても理解する機会とし、理科教員として必要な基礎知識について学ぶ。随時、有害無機物質分析等の実験観察授業も行い、またESDとの関連について演習形式で論じる。	隔年
		教育科学特論（物理化学A）		物理化学分野全般における、様々な化学現象について概説する。本講義では熱力学、化学反応における反応速度論、化学平衡等の基本的な内容について論じ、化学系の研究や教育に携わるための基本的な知識を養う。溶解、物質の3態など理科教育の粒子領域で扱う内容との関連、また高校化学で扱う上記物理化学分野の内容を取り上げ、それらを学ぶ意義について、また物理化学と他の化学分野との関わりなど、理科教員として必要な基礎知識についても論じる。	隔年
		教育科学特論（物理化学B）		物理化学分野全般における、様々な化学現象について概説する。本講義では電気化学、界面化学、分光法等の基本的な内容について論じ、化学系の研究や教育に携わるための基本的な知識を養う。界面化学においては物質の吸着現象の原理、また分光法の解説においては、赤外・可視・紫外吸収の原理や、それらの機器分析化学への応用について論じることが講義例となる。高校化学で扱う上記物理化学の内容に関し、それらを学ぶ意義について、理科教員として必要な基礎知識についても論じる。	隔年
		教育科学特論演習（物理化学A）		物理化学分野の内容において、本講義では界面化学、気相、液相における吸着現象等について、実験観察授業を中心とした演習形式の授業を行う。その実験活動を通し、上記化学現象への理解を深め、また化学物質や器具類の取り扱いについての知識や実験技術を習得する。具体的には、様々な吸着物質材料（イオン交換機能材料、活性炭、ゼオライトなど）を用いた、液相における有機化合物、色素、陽イオン、陰イオンの吸着実験とその反応速度解析等が講義例となる。	隔年

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学特論演習（物理化学B）		物理化学分野の内容において、本講義では電気化学、また界面化学に関する物質の染色等について、実験観察授業を中心とした演習形式の授業を行う。その実験活動を通し、上記化学現象への理解を深め、また化学物質や器具類の取り扱いについての知識や実験技術を習得する。具体的には、様々な電極材料（各種金属や炭素電極）を利用した簡易電池の作成、色素による繊維類の染色実験等が例となる。またそれらの現象を利用した理科実験教材の開発を指導する。	隔年
	教育科学特論（動物学ⅠA）		授業の概要 恒常性（ホメオスターシス）という動物学でもっとも重要な概念のひとつを「ものの動き」の制御という視点でとらえ、基本的な生体制御機構について解説する。	隔年
	教育科学特論（動物学ⅠB）		授業の概要 恒常性（ホメオスターシス）という動物学でもっとも重要な概念のひとつを「ものの動き」の制御という視点でとらえ、各器官ごとの生体制御機構について解説する。	隔年
	教育科学特論（動物学ⅡA）		近年の生命科学の著しい発展によって、我々は様々な恩恵を被ると同時にいくつかの困難に直面することにもなった。神の領域にまで踏み込もうとしている現代生命科学に対して、教員としてその効用と問題点について正しく説明できることが求められる。本講義では、日々更新される生命科学研究について生理学的側面から解説する。	隔年
	教育科学特論（動物学ⅡB）		近年の生命科学の著しい発展によって、我々は様々な恩恵を被ると同時にいくつかの困難に直面することにもなった。神の領域にまで踏み込もうとしている現代生命科学に対して、教員としてその効用と問題点について正しく説明できることが求められる。本講義では、日々更新される生命科学研究について細胞生物学的側面から解説する。	隔年
	教育科学特論演習（動物学A）		生命科学領域における生体制御機構に関する研究成果やその問題点について実例を挙げて解説する。また、受講生自身が関連領域の論文を講読し、その内容についての発表を行う。	
	教育科学特論演習（動物学B）		生命科学領域における細胞制御機構に関する研究成果やその問題点について実例を挙げて解説する。また、受講生自身が関連領域の論文を講読し、その内容についての発表を行う。	
	教育科学特論（植物学ⅠA）		植物の生理・生態の科学的理解に必要な概念について、分子、細胞、個体、集団からなる生命の階層構造に基づいて説明する。	隔年
	教育科学特論（植物学ⅠB）		植物に関する基礎的知見がいかんして科学技術や産業へ応用されているかについて、科学的な研究成果に基づいて説明する。	隔年
	教育科学特論演習（植物学A）		本講義では、植物の栽培および成長解析の原理を科学的に理解するために必要な概念の講義および演習を行う。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学特論演習（植物学B）		本講義では、植物の生化学実験および遺伝学・分子生物学実験の原理を科学的に理解するために必要な概念の講義および演習を行う。	
	教育科学特論（植物学ⅡA）		植物の成長と発生の科学的理解に必要な概念について、変異体を用いたタンパク質機能の解明を主とした分子生物学的研究成果に基づいて説明する。	隔年
	教育科学特論（植物学ⅡB）		植物の環境応答の科学的理解に必要な概念について、変異体を用いたタンパク質機能の解明を主とした分子生物学的研究成果に基づいて説明する。	隔年
	教育科学特論（固体地球科学A）		地球科学の諸分野のうち、地球史における固体地球と運動する地球表層システム（火山、プレートテクトニクス、気候など）について解説するとともに、小中高での地学分野における学習内容に関連づけて地球科学的視点から講義する。	
	教育科学特論（固体地球科学B）		地球科学の諸分野のうち、地球史における固体地球と運動する地球表層システム（火山、プレートテクトニクス、気候など）について解説するとともに、現代の環境問題、SDGsに関連づけて地球科学的視点から講義する。	
	教育科学特論演習（固体地球科学A）		完新世における地形や地質について、最新の研究成果等を踏まえて解説するとともに、フィールドにて地質の観察を行い、地球環境を理解するための基礎的知識の習得を行う。	
	教育科学特論演習（固体地球科学B）		完新世における地形や地質について、最新の研究成果等を踏まえて解説するとともに、フィールドにて堆積物の観察を行い、地球環境を理解するための基礎的知識の習得を行う。	
	教育科学特論（流体地球科学A）		小中高でも扱う日本付近の気象・気候系やその理解のための基礎過程との関連も意識して、気象の理論やマルチスケール気候・水循環系と変動（例えば温帯低気圧、台風、モンスーン、梅雨、豪雨と豪雪、海洋循環、大気海洋相互作用等）、地球規模の環境変動に対する地域規模現象の応答過程など、最先端の研究の知見も踏まえて考察・体系化する。なお、この授業は、教育科学特論（流体地球科学B）とセットとして行う。	
	教育科学特論（流体地球科学B）		小中高でも扱う日本付近の気象・気候系やその理解のための基礎過程との関連も意識して、気象・気候環境システムにおける諸々の重要な基礎過程、マルチスケール気候・水循環系の実態・仕組みとその変動等について、専門基礎的な教科書や研究論文の講読や、種々のデータ取得とその融合解析の手法に関する計算機も活用した実習を行う。なお、この授業は、教育科学特論演習（流体地球科学B）とセットとして行う。	
	教育科学特論演習（流体地球科学A）		小中高でも扱う日本付近の気象・気候系やその理解のための基礎過程との関連も意識して、気象・気候環境システムにおける諸々の重要な基礎過程、マルチスケール気候・水循環系の実態・仕組みとその変動等について、専門基礎的な教科書や研究論文の講読や、種々のデータ取得とその融合解析の手法に関する計算機も活用した実習を行う。なお、この授業は、教育科学特論演習（流体地球科学B）とセットとして行う。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学特論演習（流体地球科学B）		小中高でも扱う日本付近の気象・気候系やその理解のための基礎過程との関連も意識して、気象・気候環境システムにおける諸々の重要な基礎過程、マルチスケール気候・水循環系の実態・仕組みとその変動、人間活動との関わり等について、専門基礎的な教科書や研究論文の講読や、種々のデータ取得とその融合解析の手法に関する計算機も活用した実習等を行ない、教育科学特論演習（流体地球科学A）の内容を踏み台に、更に論考・技能を深める。	
	教育科学特論（音楽科教育学ⅠA）		音楽教育学研究の方法論に関する基礎的文献を講読した上で、音楽教育学に関する論文についての受講生の報告に基づいて、議論を行う。	隔年
	教育科学特論（音楽科教育学ⅠB）		ⅠAの講義内容を踏まえ、音楽教育学研究に関連する周辺諸科学の基礎的文献や論文について、議論を行う。	隔年
	教育科学特論（音楽科教育学ⅡA）		受講者の課題意識に沿って、様々な音楽教育の問題、および音楽教育学研究の諸課題を取り上げ考察していく。	隔年
	教育科学特論（音楽科教育学ⅡB）		ⅡAの講義内容を踏まえ、周辺諸科学の知見を含む音楽教育学研究の課題を取り上げ考察していく。	隔年
	教育科学特論（声楽ⅠA）		声楽発声に関する様々な問題を検討する。特に、発声時の呼吸法に着目し、歌唱する場合に起こる発声の問題点を生理学的側面から取り上げる。	隔年
	教育科学特論（声楽ⅠB）		声楽発声に関する様々な問題を検討する。特に、呼吸法と発声の関係を歌唱実践で体得する中で、歌唱する場合に起こる発声の問題点を生理学的側面から取り上げる。	隔年
	教育科学特論（声楽ⅡA）		小中学校における歌唱指導の問題点等を議論する。第1次の学習指導要領、音楽指導書から現在の学習指導要領、音楽指導書の内容について議論し、教育現場での歌唱指導・合唱指導の改善点等を検討する。	隔年
	教育科学特論（声楽ⅡB）		小中学校における歌唱指導の問題点等を議論する。受講者一人一人の歌唱能力の向上をはかるとともに、諸外国の歌唱・合唱の実践例、岡山市内の小学校または中学校の授業見学等を通して、教育現場での歌唱・合唱活動の改善点等を検討する。	隔年
	教育科学特論（器楽ⅠA）		中世からバロック期に至る鍵盤音楽の諸作品を取り上げ、その時代の思想を踏まえながら作品を分析、構造を明らかにできるよう講義し、楽器を用いて演習する。	隔年

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学特論（器楽ⅠＢ）		器楽ⅠＡを踏まえ、中世からバロック期に至る鍵盤音楽の諸作品を取り上げ、解釈と奏法について追及する。	隔年
	教育科学特論（器楽ⅡＡ）		古典派から近現代に至る鍵盤音楽の諸作品を取り上げ、その時代の思想を踏まえながら作品を分析、構造を明らかにできるよう講義し、楽器を用いて演習する。	隔年
	教育科学特論（器楽ⅡＢ）		器楽ⅡＡを踏まえ、古典派から近現代に至る鍵盤音楽の諸作品から任意の作品を取り上げ、解釈と奏法について追及する。	隔年
	教育科学特論（器楽ⅢＡ）		独奏及び少人数の器楽アンサンブルにおいて音楽の構築作業を追及し、その中の方法論と問題点を検討する。演奏を行なう上で、楽曲分析とその指導方法の内容を具体的に考え、また演奏を充実・向上させることができるように探っていく。楽曲の背景については作曲家の生きた時代背景を主に研究し、演奏への反映の手段とする。	隔年
	教育科学特論（器楽ⅢＢ）		大編成オーケストラ及び吹奏楽などの器楽アンサンブルにおいて音楽の構築作業を追及し、その中の方法論と問題点を検討する。演奏を行なう上で、楽曲分析とその指導方法の内容を具体的に考え、また演奏を充実・向上させることができるように探っていく。楽曲の背景については作曲家の国や地域の特性を主に研究し、演奏への反映の手段とする。	隔年
	教育科学特論（器楽ⅣＡ）		教会音楽及び宗教的音楽から派生した器楽アンサンブルにおいて音楽の構築作業を追及し、その中の方法論と問題点を検討する。演奏を行なう上で、楽曲分析とその指導方法の内容を具体的に考え、また演奏を充実・向上させることができるように探っていく。楽曲の背景については作曲家の宗教上（宗派など）の特性を主に研究し、演奏への反映の手段とする。	隔年
	教育科学特論（器楽ⅣＢ）		20世紀以降の近現代音楽の器楽アンサンブルにおいて音楽の構築作業を追及し、その中の方法論と問題点を検討する。演奏を行なう上で、楽曲分析とその指導方法の内容を具体的に考え、また演奏を充実・向上させることができるように探っていく。楽曲の背景については時代により新しく考案された特殊奏法の特性を主に研究し、演奏への反映の手段とする。	隔年
	教育科学特論（美術科教育学ⅠＡ）		美術科教育学を基礎づける学術的背景や、学習者理解に基づいた美術教育の空間的な環境構造の基礎についての理解を深め、児童期、青年期における美術科教育の課題解決に向けての研究基盤習得を目標とする。	隔年・共同
	教育科学特論（美術科教育学ⅠＢ）		美術科教育学を基礎づける学術的背景や、学習者理解に基づいた美術教育のカリキュラム構造の基礎についての理解を深め、児童期、青年期における美術科教育の課題解決に向けての研究基盤習得を目標とする。	隔年・共同
	教育科学特論（美術科教育学ⅡＡ）		美術科教育実践をめぐるユニバーサルデザイン化について学修するとともに、課題に即した学術的背景を基に教育現場実践を観察し、環境構造の効果や課題を纏めることを通して理解を深める。授業は、講義と授業観察、Team Based Learning（チーム学習）を組み合わせ、協働で学修に取り組む。	隔年

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学特論（美術科教育学ⅡB）		発達の道筋に沿った、美術科教育での目標と、その達成のための長期的な学習計画の効果や課題について、学術的背景を基に教育現場実践を観察し、考察を通して理解を深める。授業は、講義と授業観察、Team Based Learning（チーム学習）を組み合わせ、協働で学修に取り組む。	隔年
	教育科学特論（美術科教育学ⅢA）		学校教育における美術教育（幼児教育造形表現、小学校図画工作、中学校美術、高等学校芸術科美術・工芸）を通貫するカリキュラム構造について、以下の視点から検討する。 ・学習者の発達段階や成長過程とカリキュラムとの関係 ・育成すべき資質・能力と美術のカリキュラムとの関係 ・具体的な実践を通して抽出される課題	隔年
	教育科学特論（美術科教育学ⅢB）		美術科教育（図画工作科・美術科・芸術科）の実践的課題を各自が設定し、それぞれの課題に視点を置いた授業実践観察を行うとともに、Team Based Learning（チーム学習）を通してそれぞれの課題を共有しながら明確にさせる。	隔年
	教育科学特論（美術科教育学ⅣA）		学校教育における美術教育（幼児教育造形表現、小学校図画工作、中学校美術、高等学校芸術科美術・工芸）を通貫するカリキュラム構造について、以下の視点から検討する。 ・学習者の発達段階や成長過程とカリキュラムとの関係 ・育成すべき資質・能力と美術のカリキュラムとの関係 ・具体的な実践を通して抽出される課題	隔年
	教育科学特論（美術科教育学ⅣB）		美術科教育（図画工作科・美術科・芸術科）の実践的課題を各自が設定し、それぞれの課題に視点を置いた授業実践観察を行うとともに、Team Based Learning（チーム学習）を通してそれぞれの課題を共有しながら明確にさせる。	隔年
	教育科学特論（美術科教育学ⅤA）		創造性教育と造形表現カリキュラム	
	教育科学特論（美術科教育学ⅤB）		諸感覚相互作用と美術教育	
	教育科学特論（美術科教育学ⅥA）		本授業では、まずは履修者が創造的な実践を通して、人が創造的であるということの意味について考え、学習者の創造性を開発するために必要な要件について検討する。さらに、不断の授業改善を積み重ねてより良い教育実践を目指す美術教育の指導者に求められる創造的実践者としての資質・能力について考え、創造的教育者(Creative Educator)に求められる要件を導き出す。学修は、講義、演習、Team Based Learning(TBL)を組み合わせで行う。	
	教育科学特論（美術科教育学ⅥB）		本授業では、創造的実践者を育成する美術教育の視点から美術鑑賞の可能性について検討する。従来の美術鑑賞とは異なる、創造的思考を中心とした鑑賞学習により培われる資質・能力について、具体的な実践を通して検討していく。美術教育を通して創造的教育者(Creative Educator)を育成する具体的な手立てを明らかにしていく事をめざす。学修は、講義、演習、Team Based Learning(TBL)を組み合わせで行う。	
	教育科学特論（美術科教育学ⅦA）		美術科教育すなわち現在の小学校図画工作科、中学校・高等学校美術科の成立過程について、明治初期から昭和戦前・戦中期までを対象に解説する。まず、明治期における「美術」概念の受容と普及の過程を確認し、学校教育制度がどのような役割を果たしてきたと考えられるか、具体的な史料、特に明治前期の鉛筆画教科書と明治中期の毛筆画教科書を通覧することによって検討する。さらに、明治後期から昭和戦前・戦中期の国定図画教科書および手工教科書についても検討し、その性格が大きく変化した背景には何があったのかを明らかにする。授業の後半では、大正期の自由画教育運動と学校における美術科教育のあり方について、史料の読解を踏まえた受講生によるディスカッションを通して考察を深める。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学特論（美術科教育学ⅦB）		美術科教育すなわち現在の小学校図画工作科、中学校・高等学校美術科の成立過程について、昭和戦後期から高度経済成長期、昭和後期から現在に至るまでを対象に解説する。まず、戦前・戦中期と戦後期の断絶と連続に関して、具体的な史料、特に図画工作科教科書が登場する以前の参考書や戦前・戦後を通じて活況を呈していた美術教育ジャーナリズムの言説に基づいて検討する。さらに、昭和20年代から30年代にかけての民間美術教育団体の動向や教員養成系大学・学部において開始された美術科教育研究の方向性を確認する。授業の後半では、図画工作科・美術科の学習指導要領の変遷の背景に何があったのかについて、史料の読解を踏まえた受講生によるディスカッションを通して考察を深める。	
	教育科学特論（平面造形ⅠA）		TBL（Team Based Learning）と課題研究を進めることにより、平面造形の多様な造形様式に関する学術的背景を掘り下げ、発想・構想を導く基礎的な造形能力の教育的課題を探究する。	隔年
	教育科学特論（平面造形ⅠB）		TBL（Team Based Learning）と課題研究を進めることにより、平面造形の多様な表現内容に関する学術的背景を掘り下げ、発想・構想を導く基礎的な表現能力の教育的課題を探究する。	隔年
	教育科学特論（平面造形ⅡA）		個々の研究テーマに沿って、TBL（Team Based Learning）と課題研究を進めることにより、平面造形に必要なコンテンツの学術的背景を掘り下げ、発想・構想を導く基礎的な編集能力の教育的課題を探究する。	隔年
	教育科学特論（平面造形ⅡB）		個々の研究テーマに沿って進められた、TBL（Team Based Learning）と課題研究の成果をコンテンツとし、平面造形に必要なデザイン概念の学術的背景を掘り下げ、発想・構想を導く基礎的なデザイン能力の教育的課題を探究する。	隔年
	教育科学特論（立体造形ⅠA）		基本的には個々の研究テーマに沿って立体造形との関連事項を検討。関連図書の講読と探究を通して立体造形の学術的背景を掘り下げる。	隔年
	教育科学特論（立体造形ⅠB）		（基本的には個々の研究テーマに沿って立体造形との関連事項を検討。） ⅠAで研究した内容について、立体造形の実作を通して実践し、基礎的な造形能力の教育的課題を探究する。	隔年
	教育科学特論（立体造形ⅡA）		TBLと制作を通して立体造形の学術的背景を掘り下げ、発想・構想を導く基礎的な能力の教育的課題を探究する。 参考書籍をベースに講読と、理解を元にした立体造形の試作と討議、展開を模索する。	隔年
	教育科学特論（立体造形ⅡB）		TBLと制作演習を通して立体造形の学術的背景を掘り下げ、工芸・デザインの本質的な課題を問いながら、モノを「つくり」「つかう」ことの教育的課題を探究する。	隔年
	教育科学特論（立体造形ⅢA）		TBLと制作演習を通して立体造形の学術的背景を掘り下げ、発想・構想を導く基礎的な能力の教育的課題を探究する。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学特論（立体造形Ⅲ B）		造形論に関する書籍を選択し、各単元のテーマをTBLと調査で研究。 教材資料の収集と共に、読解による作品制作を通して教育的課題を探究する。	
	教育科学特論（美術理論・ 美術史A）		授業前半は講義形式で、美学、芸術学や美術史研究の発生と展開について概説する。この段階での目的は、受講生が近代日本における美学・芸術学・美術史学の受容過程や学問分野としての発展過程を理解することである。授業中盤は演習形式で進め、受講生が自身の専門分野や関心の範囲に基づいて、日本の近代までの範囲内で研究対象を定め、具体的な作品や作家に関して研究を深める探究活動を支援する。この段階では、先行研究のレビュー、問題意識の明確化、具体的な史料へのアクセス、分析方法の確立等に、受講生が主体的に取り組むことを目的とする。最終的に受講生は、自分で設定したテーマについて小論文を作成し、最終回の授業でプレゼンテーションを行い、ディスカッションを通して考察を深める。	隔年
	教育科学特論（美術理論・ 美術史B）		授業前半は講義形式で、現在の美学、芸術学や美術史研究の動向について概説する。この段階での目的は、受講生が、美学・芸術学・美術史学において現時点で何が課題あるいは争点となっているかを理解することである。授業中盤は演習形式で進め、受講生が自身の専門分野や関心の範囲に基づいて研究対象を定め、具体的な作品を実見することを重視し、作品成立を支える諸要因について研究を深める探究活動を支援する。作品とその展示空間との関係、鑑賞者の作品への反応といった課題に、受講生が主体的に取り組むことを目的とする。最終的に受講生は、自分で設定したテーマについて小論文を作成し、最終回の授業でプレゼンテーションを行い、ディスカッションを通して考察を深める。	隔年・共同
	教育科学特論（美術理論・ 鑑賞A）		授業前半は講義形式で、美術科教育において表現領域と同様に重視されるべき鑑賞領域についての基本的な理論を概説する。まず、鑑賞とはどのような行為なのかを多角的に論じる。続いて、幼児・児童の描画発達段階や鑑賞能力の発達段階に関する最新の研究動向を整理して提示する。さらに美術鑑賞教育のタイポロジーについて解説し、表現と鑑賞を一体化した図画工作科・美術科の単元構成について論じる。授業後半では、特に小学校高学年以上を対象とする授業実践において、他者に「見せる」ことを意識した展覧会の企画・展示活動（キュレーション）を導入する事例を取り上げ、具体的に検証する。授業終盤では、受講生によるディスカッションを通して、学校教育および社会教育における鑑賞学習支援の意義について理解を深める。	
	教育科学特論（美術理論・ 鑑賞B）		授業前半は講義形式で、現代の美術教育において様々なかたちで導入が試みられている「対話型鑑賞」について解説する。まず、教育の場で対話が重視される理由について時代を遡って考察したうえで、対話を取り入れた美術鑑賞授業の試みがどのように始まったのかを検証する。中盤からは演習形式で、1990年代半ばに日本の美術館教育に導入されたVTS（Visual Thinking Strategies）と呼ばれる対話型鑑賞の理論的背景、日本への受容過程や学校教育への広がり等のトピックについて、基本的な文献や先行研究のレビューを行いながら検証する。授業終盤では、受講生自身によるファシリテーション実践と振り返りの活動を通して、対話型鑑賞の意義について理解を深める。	
	教育科学特論（保健体育科 教育学ⅠA）		体育授業をどのようにデザインしていくのかについて、学問的な知見をもとに考える。その際に、これまで議論されてきた学習論やプレイ論を深く理解し、授業として児童生徒にどのような学びを準備すれば良いのかについてディスカッションを通して考えを深める。また、関連学会の議論を紹介し新たな情報を獲得しながら理解していく。	
	教育科学特論（保健体育科 教育学ⅠB）		体育授業を実際に観に行き、児童生徒の実態とそこでの学びを理解すると同時に現場の教員とのディスカッションを通して自らの考えを深める。また、ビデオ等で体育授業を分析し、客観的に授業を捉えることができるような活動を実施する。その活動と、関連学会の議論を比較検討しながら理解していく。	
	教育科学特論（保健体育科 教育学ⅡA）		プレイ論から体育授業を理論的に検討し、人間とスポーツの関係を問い直す。様々なデータや知見から、豊かなスポーツライフを構築するために必要な考え方を獲得し、ディスカッションを通して考えを深める。また、関連学会の議論を紹介し新たな情報を獲得しながら理解していく。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学特論（保健体育科 教育学ⅡB）		スポーツをゲーム論という視点から考えることによって、体育授業の中で児童生徒が何を考えながらプレイしているのかについて行為論のレベルから捉え直す。また、ゲーム論から捉えた際に、実際の授業がどのように変わるのかについて現場との対話を通して学びを深める。	
	教育科学特論（体育学A）		体育学の全体像の解説を行った上で、特に人文科学領域の研究を進める上での基礎となる研究方法、研究対象、研究動向についてテキストに基づき解説を行う。体育学（人文科学領域）について詳説し、関連学会で議論の対象とされている課題について論文に基づき解説する。	
	教育科学特論（体育学B）		体育学の人文科学領域の中でも、特に体育哲学領域に焦点を当て、研究を進める上での基礎となる研究方法、研究対象、研究動向についてテキストに基づき解説を行う。体育学（人文科学領域）の中の体育哲学領域について詳説し、関連学会で議論の対象とされている課題について論文に基づき解説する。	
	教育科学特論演習（体育学 A）		体育学の人文科学領域の書籍をテキストとして取り上げ、受講生同士で輪読することで、体育学の人文科学領域で議論の対象とされている課題を明確にして、その課題について批判的に思考する。レジュメや発表スライドの作成を通して、研究成果発表の方法、人文科学領域の研究資料の作成方法等についても解説する。	
	教育科学特論演習（体育学 B）		体育学の人文科学領域の中でも、特に体育哲学領域から公表された論文をテキストとして取り上げ、受講生同士で輪読することで、体育哲学領域で議論の対象とされている課題を明確にして、その課題について批判的に思考する。レジュメや発表スライドの作成を通して、研究成果発表の方法、人文科学領域の研究資料の作成方法等についても解説する。	
	教育科学特論（運動学Ⅰ A）		身体運動のメカニズムを分析・考察するために不可欠な運動学に関する知識の確認と、運動指導につながる運動分析や実験（計画）法についてテキスト、関連学会論文を詳説することで体育及び保健体育科にある課題を明確にしてその解決策を探る。	
	教育科学特論（運動学Ⅰ B）		身体運動のメカニズムを分析・考察するために不可欠な運動学に関する知識の確認と、運動指導につながる運動分析や実験（計画）法についてテキスト、関連学会論文を詳説することで体育及び保健体育科にある課題を明確にしてその解決策を探る。	
	教育科学特論演習（運動学 ⅠA）		運動学（身体表現領域）に関連する研究の中から、受講生が興味を持つテーマについて文献を選び、受講生とともに批判的検討を行う。	
	教育科学特論演習（運動学 ⅠB）		運動学（身体表現領域）に関連する研究の中から、受講生が興味を持つテーマについて文献を選び、受講生とともに批判的検討を行う。	
	教育科学特論（学校保健学 A）		学校保健、中でも子どもの体力向上に関係する内容について概説すると共に、受講生がこの分野で興味ある文献を抄読し、その内容についてディスカッションしていく、	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学特論（学校保健学 B）		学校保健，中でも子どもの健康増進に関係する内容について概説すると共に，受講生がこの分野で興味ある興味ある文献を抄読し，その内容についてディスカッションしていく。	
	教育科学特論（技術科教育学 I A）		中学校に技術科が新設された理由，その歴史および現状と課題について文献等から理解を深める。その上で，技術科の授業に必要な安全確保や自然環境保全等について考究する。	
	教育科学特論（技術科教育学 I B）		技術科のよい授業に貢献する教材・題材，指導方法について，文献参照や実験などを行って，考究を行う。	
	教育科学特論（技術科教育学 II A）		技術科のよい授業を実現するために，授業研究，授業評価および授業分析について主として文献を参照して考究する。	
	教育科学特論（技術科教育学 II B）		技術科のよい授業を実現に寄与するために，授業分析の手順を検討した後に，現場に向いて授業を参観・録画し，その授業の分析を行う。分析結果から有用な授業の法則性を見出す。	
	教育科学特論（機械 I A）		設計，加工，材料，機構などの生産・機械に関する専門的知識を深め，科学的な考え方および実務的な技能（3DCADと3Dプリンター）を身につける。	
	教育科学特論（機械 I B）		設計，加工，材料，機構などの生産・機械に関する専門的知識を深め，科学的な考え方および実務的な技能（レーザーカッターとプログラミング）を身につける。	
	教育科学特論（機械 II A）		機械分野・教育分野で利用できる確率統計に関する専門的知識を深め，実務的な技能（データの読み方，使用例の調査）を身につける。	
	教育科学特論（機械 II B）		機械分野・教育分野で利用できる確率統計に関する専門的知識を深め，実務的な技能（検定と解析方法）を身につける。	
	教育科学特論（電気 I A）		電気計測の手法を体系的に説明するとともに，具体的な計測法について取り上げる。また，測定誤差の問題と測定データの取り扱いの重要性について講義する。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学特論（電気ⅠＢ）		教育科学特論（電気ⅠＡ）で取り上げた測定データの取り扱い方法を基礎としながら、実際に電気計測を行い、取得された抵抗値データを分析する手法について学習する。	
	教育科学特論（電気ⅡＡ）		デジタル回路の基礎について取り上げる。主に、アナログ信号とデジタル信号の変換、論理演算を学習することで現代の情報化社会の基盤技術について理解を深める。	
	教育科学特論（電気ⅡＢ）		教育科学特論（電気ⅡＡ）で取り上げたデジタル回路を基礎としながら、加算器とフリップフロップを学習することで電気・電子技術とコンピュータの関係について理解を深める。	
	教育科学特論（情報ⅠＡ）		情報数学、認知科学、知識工学などの情報系学問の基礎的な内容について輪講形式で学習する。この講義では、情報数学の1つである離散数学の基礎的な内容として、集合、写像、命題と述語について学習する。	
	教育科学特論（情報ⅠＢ）		情報数学、認知科学、知識工学などの情報系学問の基礎的な内容について輪講形式で学習する。この講義では、情報数学の1つである離散数学の基礎的な内容として、関係、グラフについて学習する。	
	教育科学特論（情報ⅡＡ）		情報数学、認知科学、知識工学などの情報系学問の基礎的な内容について輪講形式で学習する。この講義では、知識工学の基礎的な内容として、問題表現、探索法について学習する。	
	教育科学特論（情報ⅡＢ）		情報数学、認知科学、知識工学などの情報系学問の基礎的な内容について輪講形式で学習する。この講義では、知識工学の基礎的な内容として、記号論理、導出原理について学習する。	
	教育科学特論（家庭科教育学ⅠＡ）		小・中・高等学校における家庭科の授業実践の検討を通して、家庭科における教育論・授業構成論の基礎を学修する。	共同
	教育科学特論（家庭科教育学ⅠＢ）		家庭科と他教科との関連性を検討するとともに、学校教育における家庭科という教科の本質的な意義、教科の独自性、育成する資質・能力を追究する。	共同
	教育科学特論（家庭経営学ⅠＡ）		本講義では、小・中・高等学校の家庭科における「持続可能な消費生活・環境」と「家庭経営」について科学的に学修するとともに、生涯発達、生涯設計、ライフサイクル、ライフコースの視点から学修する。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学特論（家庭経営学 B）		本講義では、小中高等学校の家庭科で扱う「持続可能な消費生活・環境」と「家庭経営」について科学的に把握、考察できることを目標に、家族、家庭経済、家庭経営の視点から理解、説明できるようにする。	
	教育科学特論（家族関係学 I A）		本講義では、小・中・高等学校の家庭科における家族関係領域について科学的に学修する。本講義では、日本の家族、夫婦関係を中心とした家族関係について歴史資料と統計資料に基づいて講義する。	
	教育科学特論（家族関係学 I B）		本講義では、小・中・高等学校の家庭科における家族関係領域について科学的に学修する。本講義では、親子関係を中心とした家族関係について歴史資料と統計資料に基づいて講義する。	
	教育科学特論（家族関係学 II A）		小・中・高等学校の家庭科で扱う家族関係領域について科学的に学修することを目標に、日本の家族、特に、子どもの養育と教育を中心とした親子関係について家族関係について歴史資料と統計資料に基づいて講義する。	
	教育科学特論（家族関係学 II B）		本講義では、小・中・高等学校の家庭科で扱う家族関係領域について科学的に学修する。本講義では、成人子と老親を中心とした親子関係について、歴史資料と統計資料に基づいて講義する。	
	教育科学特論（食物科学 I A）		小・中・高等学校家庭科食生活領域の教育内容を体系化し、小・中・高等学校家庭科の基盤となる食物科学の体系に基づき解説する。体に必要な栄養素の種類と働きに関する専門知識について、現代食生活の課題をふまえて解説する。	
	教育科学特論（食物科学 I B）		小・中・高等学校家庭科食生活領域の教育内容を体系化し、小・中・高等学校家庭科の基盤となる食物科学の体系に基づき解説する。体に必要な栄養素の種類と働きに関する専門知識について、現代食生活の課題をふまえて解説する。また演習により家庭科の食生活教育に必要な専門知識を探究する。	
	教育科学特論（食物科学 II A）		小・中・高等学校家庭科食生活領域の教育内容を体系化し、小・中・高等学校家庭科の基盤となる食物科学の体系に基づき解説する。食品の特質と用途に関する専門知識について、現代食生活の課題をふまえて解説する。	
	教育科学特論（食物科学 II B）		小・中・高等学校家庭科食生活領域の教育内容を体系化し、小・中・高等学校家庭科の基盤となる食物科学の体系に基づき解説する。食品の特質と用途に関する専門知識について、現代食生活の課題をふまえて解説する。また演習により家庭科の食生活教育に必要な専門知識を探究する。	
	教育科学特論（食物科学 III A）		小・中・高等学校家庭科食生活領域の教育内容を体系化し、その基盤となる食物科学の体系に基づき解説する。食生活と食事計画に関する専門知識について現代食生活の課題をふまえて解説する。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学特論（食物科学Ⅲ B）		小・中・高等学校家庭科食生活領域の教育内容を体系化し、その基盤となる食物科学の体系に基づき解説する。食生活と食事計画に関する専門知識について現代食生活の課題をふまえて解説する。また演習により家庭科の食事計画に必要な専門知識を探究する。	
	教育科学特論（被服科学Ⅰ A）		小・中・高等学校家庭科衣生活領域の教育内容を体系化し、その基盤となる被服学の体系に基づき解説する。持続可能な衣生活の構築に向けて被服管理の必要性を現代衣生活の課題をふまえて解説する。Sustainable Fashion について探究する。	
	教育科学特論（被服科学Ⅰ B）		小・中・高等学校家庭科衣生活領域の教育内容を体系化し、その基盤となる被服学の体系に基づき解説する。アクティブ・ラーニングにより持続可能な衣生活の再構築について探究する。Sustainable Fashion について探究する。	
	教育科学特論（被服科学Ⅱ A）		小・中・高等学校家庭科衣生活領域の教育内容を体系化し、その基盤となる被服学の体系に基づき解説する。被服の着装について現代衣生活の課題をふまえて解説する。Sustainable Fashion について探究する。	
	教育科学特論（被服科学Ⅱ B）		小・中・高等学校家庭科衣生活領域の教育内容を体系化し、その基盤となる被服学の体系に基づき解説する。アクティブ・ラーニングにより被服との関わり方の再構築について探究する。Sustainable Fashion について探究する。	
	教育科学特論実験（被服科学A）		小・中・高等学校家庭科衣生活領域の教育内容から実験を抽出・分析し、基盤となる被服科学の体系から解説する。持続可能な衣生活構築のために必要な教育内容にかかわる実験を紹介する。	
	教育科学特論実験（被服科学B）		小・中・高等学校家庭科衣生活領域の教育内容から抽出された実験の基盤となる被服科学実験を行い、小・中・高等学校の実験を改善する。持続可能な衣生活構築のために必要な新たな実験を開発する。	
	教育科学特論（英語科教育学ⅠA）		英語教育の課題について、第2言語習得や英語の4技能の習得におけるワーキングメモリの役割について、外国の雑誌や文献の論文を読み、指導への示唆について検討する。	
	教育科学特論（英語科教育学ⅠB）		英語教育に関わる課題について、シャドーイングや技能習得理論について、外国の雑誌や文献の論文を読み、指導への示唆について検討する。	
	教育科学特論（英語科教育学ⅡA）		英語教育の課題について、英語のリスニングやリーディングにおける処理過程と指導について、外国の雑誌や文献の論文を読み、指導への示唆について検討する。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教育科学特論（英語科教育学ⅡB）		英語教育の課題について、英語のスピーキングにおけるアウトプット仮説やタスクの効果について、外国の雑誌や文献の論文を読み、指導への示唆について検討する。	
	教育科学特論（英語学ⅠA）		電子化された言語データ（コーパス）を用いて、英語の仕組みや用法に対する理解を深める。講義においては、コーパス言語学の手法を用いて明らかにされた研究成果を概観する。実習においては、検索練習を行い、分析結果と考察をまとめる練習を行う。学期末には、各自のテーマにもとづいた研究成果を発表し、受講生が互いに講評し合う。	
	教育科学特論（英語学ⅠB）		コーパス言語学の手法を用いて、第二言語習得研究において明らかにされている研究成果を概観する。実習においては、より高度な検索練習を行い、分析結果と考察をまとめる練習を行う。学期末には、各自のテーマにもとづいた研究成果を発表し、受講生が互いに講評し合う。	
	教育科学特論（英語学ⅡA）		学習者コーパスを用いた論文を読むことで、研究手法について学ぶ。また学習者コーパスの検索とデータ処理についても学ぶことで、自ら分析ができるようになる。	
	教育科学特論（英語学ⅡB）		学習者コーパスの中でも縦断的なデータを用いた第二言語習得研究に関する論文を読むことで、その研究手法について学ぶ。より高度なコーパス検索とデータ処理についても学び、自らの課題に関する分析ができるようになる。	
	教育科学特論（英米文学ⅠA）		英語圏の詩を理解することを通じて、英語テキストを取り巻く文化的な意義の認識と、創造的に文字のコミュニケーションのあり方を獲得することを目指しながら、クラスを進める。	
	教育科学特論（英米文学ⅠB）		英語圏の詩にさまざまな側面からアプローチして、テキストの深い理解をすることで、創造的な側面での、文字のコミュニケーションのあり方を獲得することを目指しながら、クラスを進める。	
	教育科学特論（英米文学ⅡA）		英語圏の詩を理解し、さらに、日本語の詩の形式と比較することで、英語詩に独自に含まれている意義を鑑賞し、応用的に、創作に生かす方法を考えて、クラスを進める。	
	教育科学特論（英米文学ⅡB）		英語圏での詩の形式の理解が、英語テキストの深い解釈と、創造的に文字のコミュニケーションのあり方を能動的に理解する機会を体験することで、深い英語力の獲得することを目指しながら、クラスを進める。	
	PBL特論Ⅰ		教育科学専攻の教員の研究領域を知り、自身の研究に活用できるよう、教員や受講生とディスカッションする。	共同

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	P B L 特論Ⅱ		PBLⅠに準じて、受講生が、研究分野や母国語が異なるメンバーでPBL (Project Based Learning) をつくり、「創造性の追究」と「チーム学習による資質・能力の向上」の2つのアプローチから社会の中の問題から、教育的課題を設定し達成する。	共同
	P B L 特論Ⅲ		PBLⅡに準じ、受講生が、研究分野や母国語が異なるメンバーでPBL (Project Based Learning) をつくり、「創造性の追究」と「チーム学習による資質・能力の向上」の2つのアプローチから社会の中の問題から、教育的課題を設定し達成する。	共同
	P B L 特論Ⅳ		PBLⅢに準じ、受講生が、研究分野や母国語が異なるメンバーでPBL (Project Based Learning) をつくり、「創造性の追究」と「チーム学習による資質・能力の向上」の2つのアプローチから社会の中の問題から、教育的課題を設定し達成する。	共同
	P B L 特論Ⅴ		修士課程2年生を対象に、PBLの活動経験を活かし、教育科学プロジェクト研究概論の授業内アクティビティの支援をする。	共同
	P B L 特論Ⅵ		修士課程2年生を対象に、PBLの活動経験を活かし、PBLⅠの授業内アクティビティの支援をする。	共同
	P B L 特論Ⅶ		修士課程2年生を対象に、PBLの活動経験を活かし、PBLⅡの授業内アクティビティの支援をする。	共同
	P B L 特論Ⅷ		修士課程2年生を対象に、PBLの活動経験を活かし、PBLⅢの授業内アクティビティの支援をする。	共同
	保育内容特論（造形表現A）		保育内容「表現」に関わる理論と実践の関係について討論と講義を行い、幼児教育・保育を考える。文献、事例、論文、などの資料の提示、購読を通して表現行為を捉える見方や考え方の形成を目指す。	隔年
	保育内容特論（造形表現B）		保育内容「表現」に関わる理論と実践の関係について討論と講義を行い、幼児教育・保育への考えを深める。文献、事例、論文、などの資料の提示、購読を通して表現行為を捉える見方や考え方の発展的な形成を目指す。	隔年
	保育内容特論演習（造形表現A）		保育内容「表現」とそれに関連した近接領域の文献、先行研究、などの資料について学生が購読、概説、討論する演習を行う。演習に基づいて事例を検討し、子どもの変化を分析する力量形成を目指す。	隔年

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	保育内容特論演習（造形表現B）		保育内容「表現」とそれに関連した近接領域の文献、先行研究、などの資料について学生が購読、概説、討論し深く理解するための演習を行う。演習に基づいて事例を検討し、子どもの変化を分析する力量の発展的な形成を目指す。	隔年
	保育内容特論（健康A）		保育内容「健康」とその近接領域に関する理論と実践を取り上げ、先行研究を概観したり討論したりしながら、その課題について検討する。	隔年
	保育内容特論（健康B）		保育内容「健康」とその近接領域に関する理論と実践を取り上げ、先行研究を概観したり討論したりしながら、望ましい保育実践の在り方について検討する。	隔年
	保育内容特論演習（健康A）		保育内容「健康」に関連する具体的な保育実践を取り上げ、文献の講読や実際の保育現場の観察等を通して、その課題について議論する。	隔年
	保育内容特論演習（健康B）		保育内容「健康」に関連する具体的な保育実践を取り上げ、文献の講読や実際の保育現場の観察等を通して、教育効果の高い保育実践の在り方について検討する。	隔年
	保育内容特論（人間関係A）		保育内容「人間関係」に関わる理論と実践について講義し、これからの幼児教育・保育について考える。文献講読、討議等を通して考察を深め、必要な力量の獲得を目指す。	隔年
	保育内容特論（人間関係B）		保育内容「人間関係」に関わる理論と実践について講義し、これからの幼児教育・保育について考える。文献講読、討議等を通して発展的に考察を深め、応用可能な力量の獲得を目指す。	隔年
	保育内容特論演習（人間関係A）		本授業では主に、保育内容「人間関係」に関わる研究に必要な方法論の獲得を目指す。幼児教育・保育の諸課題に関する論文購読、発表・討議、観察等を通して実際に学ぶ。	隔年
	保育内容特論演習（人間関係B）		本授業では主に、保育内容「人間関係」に関わる研究に必要な方法論の獲得を目指す。幼児教育・保育の諸課題に関する論文購読、発表・討議、観察等を通して、発展的、応用的な学びを深める。	隔年
	幼児教育学特論A		わが国における従来の幼児教育構造論について批判的に分析・検討することをおして、これまでの幼児教育の構造的なとらえ方を習得すると共に、これからの幼児教育のとらえ方についての示唆を得る。	隔年

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	幼児教育学特論 B		主に、わが国における現在の幼児教育構造論について批判的に分析・検討することとをとおして、現在の幼児教育の構造的なとらえ方を習得すると共に、これからの幼児教育のとらえ方についての示唆を得る。	隔年
	幼児教育学特論演習 A		わが国における幼児教育構造論について批判的に分析・検討することとをとおして、これまでの幼児教育の構造的なとらえ方を習得すると共に、これからの幼児教育のとらえ方についての示唆を得る。	隔年
	幼児教育学特論演習 B		わが国における幼児教育構造論について批判的に分析・検討することとをとおして、これまでの幼児教育の構造的なとらえ方を習得すると共に、これからの幼児教育のとらえ方についての示唆を得る。	隔年
	幼児心理学特論 A		乳幼児期の心理社会的発達に影響を与える家庭環境の重要性について概説する。受講生各自が関心のある乳幼児期の心理社会的発達に影響を与える家庭的な要因を取り上げ、文献発表及び関連するディスカッションテーマを提示する。文献内容を踏まえた討議を行い、乳幼児期の健やかな心理社会的発達に必要な家庭への子育て支援について理解を深める。	隔年
	幼児心理学特論 B		乳幼児期の心理社会的発達に影響を与える集団保育実践における、保育者と子どもの関係性の理論について概説する。受講生各自が関心のある保育実践上の保育者と子どもの関係性に関する課題を取り上げ、文献発表及び関連するディスカッションテーマを提示する。文献内容を踏まえた討議を行い、乳幼児期の健やかな心理社会的発達を促す保育実践について理解を深める。	隔年
	幼児心理学特論演習 A		文献購読及び討議を通して、履修生全員での共同による保育実践観察研究のための目的を明確化する。決定した研究目的に沿った予備的な保育実践の観察調査を実施し、幼児期の子ども理解のための実践研究課題の焦点化を行うとともに、取得した観察データに応じた質的研究の分析手法について理解を深める。	隔年
	幼児心理学特論演習 B		4回の保育実践観察の調査を行い、履修生各自が観察記録をとる。得られた観察記録をもとに、研究目的に照らしながら共同で質的分析を行い、結果をまとめる。導出した結果について、各自が担当部分の考察を行い、保育実践観察研究の手法を習得する。	隔年
	養護実践学特論（養護教諭論 A）		養護の理念や歴史的変遷、子どもの発達発達とかかわる養護教諭の役割について論じるとともに、子どもの成長発達とそれを守り育てることについて学生のレポート発表とそれに基づく討議を通して、今後の養護教諭の職務の課題について考える。	
	養護実践学特論（養護教諭論 B）		子供の健康課題に応じた養護教諭の役割について、その教育的意義に注目しながら論じる。学生のレポート発表とそれに基づく討議を通して、今後の養護教諭の職務の課題について考える。	
	養護実践学特論演習（養護教諭論 A）		養護実践や養護教諭の職務に関する課題の討議を行い、課題に基づいた文献検索、調査研究、レポート発表を行う。特に、健康観察、健康相談、保健指導等の領域を取り扱う。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	養護実践学特論演習（養護教諭論B）		養護実践や養護教諭の職務に関する課題の討議を行い、課題に基づいた文献検索、調査研究、レポート発表を行う。特に、保健教育、保健組織活動等の領域を取り扱う。	
	養護実践学特論（学校保健学A）		海外の学校保健活動の一例であるHealth Promoting Schoolを取り上げ概説する。保健教育、保健管理、組織活動を土台とする日本の学校保健の推進システムと比較し検討する。	
	養護実践学特論（学校保健学B）		学生による日本の学校保健システムの特徴に関するレポートや発表を基に、今後の日本の学校保健活動の課題や展望について考える。	
	養護実践学特論演習（学校保健学A）		文献の講読と討論によって授業を進める。講読する文献は、児童・生徒の健康問題の変遷、養護実践の歴史的過程、養護教諭の職制の過程を踏まえながら、学校保健活動に視点をあてて精選する。	
	養護実践学特論演習（学校保健学B）		文献の講読と討論によって授業を進める。講読する文献は、海外の学校保健活動（保健教育、保健管理、組織活動）に視点をあてて精選する。	
	学校保健医科学特論（健康科学A）		健康科学に関する理論と実践に関する講義・文献講読を通して現代における子供の健康実態の把握と養護教諭としての対応について概説するとともに、その内容の討議を行う。特に、保健管理の視点から学ぶ。	
	学校保健医科学特論（健康科学B）		健康科学に関する理論と実践に関する講義・文献講読を通して現代における子供の健康実態の把握と養護教諭としての対応について概説するとともに、その内容の討議を行う。特に、保健教育の視点から学ぶ。	
	学校保健医科学特論演習（健康科学A）		学童期から青年期までの発達過程を通して、発育発達と健康の維持・増進を考える上で必要な関連事項を概説するとともに、その内容の討議を行う。特に、整形外科的視点から学ぶ。	
	学校保健医科学特論演習（健康科学B）		学童期から青年期までの発達過程を通して、発育発達と健康の維持・増進を考える上で必要な関連事項を概説するとともに、その内容の討議を行う。特に、学校保健の視点から学ぶ。	
	学校保健医科学特論（環境と健康A）		環境と健康に関する基礎的な理論についての講義、測定実習、それらを総合した討議を通して、養護実践や学校保健の推進に必要な環境と健康に関する理論と技術を修得する。特に学校環境衛生の中の生物学的環境を取り上げた実習を実施する。また疫学の考え方の基礎も取り扱う。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		学校保健医科学特論（環境と健康B）		環境と健康に関する基礎的な理論についての講義、測定実習、それらを総合した討議を通して、養護実践や学校保健の推進に必要な環境と健康に関する理論と技術を修得する。学校環境衛生の中の物理的環境を取り上げた実習を実施する。また社会環境についても言及する。	
		学校保健医科学特論演習（環境と健康A）		環境と健康に関する理論の応用についての講義、実習、討議を通して、養護実践や学校保健の推進に必要な環境と健康に関する詳しい理論を修得する。特に学校環境衛生を実地に体験できるように、生物学的環境の良否について実習を行う。また疫学についても演習を行う。	
		学校保健医科学特論演習（環境と健康B）		環境と健康に関する理論の応用についての講義、実習、討議を通して、養護実践や学校保健の推進に必要な環境と健康に関する詳しい理論を修得する。特に学校安全を実地に体験できるように、学校内外の安全について実習を行う。また疫学についても演習を行う。	
		グローバル・プレゼンテーション1		国外開催の国際学会での学術発表と教員による指導を単位化した教育科学専攻共通のグローバル研究推進科目である。学会発表の時間及び事前準備、事後報告等の時間を含め、45時間の学修をもって1単位とする。 単位認定の対象とする国際学会は、大学院学生を対象とした「岡山大学研究奨励金に関する内規」における「学長が別に定める学会等一覧表」によるものとし、会期の長さ、開催地及び主催者は考慮しない。なお、これ以外に、本研究科において適切と判断した国際学会を対象とする。 修了要件に含む単位としては、グローバル・プレゼンテーション1とグローバル・プレゼンテーション2を合わせて2単位を上限とする。	
		グローバル・プレゼンテーション2		国内開催の国際学会での学術発表と教員による指導を単位化した教育科学専攻共通のグローバル研究推進科目である。学会発表の時間及び事前準備、事後報告等の時間を含め、45時間の学修をもって1単位とする。 単位認定の対象とする国際学会は、大学院学生を対象とした「岡山大学研究奨励金に関する内規」における「学長が別に定める学会等一覧表」によるものとし、会期の長さ、開催地及び主催者は考慮しない。なお、これ以外に、本研究科において適切と判断した国際学会を対象とする。 修了要件に含む単位としては、グローバル・プレゼンテーション1とグローバル・プレゼンテーション2を合わせて2単位を上限とする。	
教育データサイエンス科目		教育データサイエンス実践インターンシップII		教育関連企業や自治体等の協力組織において、教育DXに関連する実務の理解を深めるとともに、教育データの解析を実践する就労体験を行う。協力組織と連携して、実務的課題の設定から成果発表まで一貫した課題解決の場を設け、本学位プログラムの学修内容を実践知とし、実務で役立つ実践的スキルの向上を図る。	共同
		心理データアセスメント特論		教育に関わる学習者や指導者、集団の実態をデータに基づいて客観的に把握し、教育支援、学習方法等の効果を科学的に評価し、それを教育システムや実践の改善に用いる教育評価・測定について学ぶ。具体的には、統計的仮説検定の必要性、心理尺度の作成法から、教育評価・教育測定領域、あるいは教育心理学の研究を行うための基礎となる統計的方法と統計ソフトについて学ぶ。統計ソフトに関しては、JASP、R等を活用して、小中高等学校における教育評価に関わる種々のデータを適切に分析し、解釈するトレーニングを行う。	
		スケジュール科学特論演習		学習心理学特論Bで紹介した高精度教育ビッグデータの収集と解析、フィードバックに必要なスケジューリングの原理と技術基盤（寺澤）、および集約されるデータの構造、解析の方法（新任助教）を詳述する。マイクロステップ・スタディのようなスケジューリングとテスト原理を活用するサービスを提供するためには必須の授業となる。スケジューリングの原理は、人間の経験を詳細に表現する一つの方法と、個々の経験の影響を縦断的に、詳細にまた正確に測定し、評価するために必要な原理を含んでいる。それゆえ、教育に限らず、広告効果等の様々な縦断的行動データを測定し、その効果を科学的に評価していくサービス等の開発にもつながる。授業では、スケジューリングに関する知識やスキルの習得を促すと同時に、実践の中でその知識やスキルを活用しレポートとしてまとめることを求める。学習心理学特論Bと★ExcelとRを用いたデータ解析を履修済みであることを受講要件とする。	共同

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	行動科学評価法特論演習		教育評価と教育測定に関する基礎的事項と一般的事項を取り上げる。人間の意識や行動を測定するために必要な知識と方法の理解を促す。具体的には、アンケート（心理尺度、質問紙）やテストの設計、作成、実施、分析、結果の解釈を行うことができるようになることを目指す。また、項目分析や探索的因子分析・確認的因子分析、妥当性・信頼性の検討の仕方等、調査データを分析する際に必要となる基本的事項に関して講義・演習を行う。	
	認知学習行動科学特論演習		学習心理学特論Bで紹介した、高精度教育ビッグデータを活用した新たな教育支援等から一つの支援を選び、実際の支援者や協力者とともに各フィールドで支援の実際を学ぶとともに、その成果をレポートとしてまとめる。行動データに基づいた支援を発展させるための知識とスキルの習得を目指すとともに、実践の成果を論文等としてまとめていくためのトレーニングを行う。さらに、取り組んだ実践の課題と改善方法を検討し、異分野の専門人材と接点を持てる場（クロスラボ）でその改善を実現するための文理融合のプロジェクトを組織（もしくは参加）し、新たな教育支援法の開発と実践を試行し、その取り組みを客観データに基づき評価しまとめる。クロスラボでは、新たな教育法の開発に必要な企業や専門家等と受講生の人的ネットワークの拡大も支援する。学習心理学特論Bを履修済み、もしくは教育イノベーション演習を受講していることを受講要件とする。	共同
	発達行動科学特論演習		発達を理解するための諸理論や代表的なアセスメント方法、および社会性や対人関係の発達の様相、適応状態を分析する手法について学ぶ。また、子どもの心身の発達とそれに伴う諸問題に関する発達心理学的文献や予防的・開発的介入に関する文献を講読し、プレゼンテーション、ディスカッションを行うことを通じて、この領域の先行研究の理解やデータの分析に必要な学術的知識・スキルを習得する。子どもの心身の発達とそれに伴う諸問題へのアプローチについて理解を深めることにより、発達をみる視点を磨き、学校教育における諸問題に対して発達心理学的視点から分析し、予防的・開発的視点からアプローチするための力量を高める。	
	集団行動科学特論演習		集団の特性や集団内の対人関係に基づく構造について、心理学的な測定・分析を行うための実践的方法を修得する。集団に関する心理学研究で用いられる主要な技法について、文献購読と発表・ディスカッションを通じて理論的基礎を学び、集団への適応や集団づくりに関連するデータ解析の演習に取り組み、教育の諸課題を集団レベルの現象として吟味・解釈するための実践的な思考力とスキルを身に付ける。	
	教育科学のための計量分析 I		教育データサイエンスを社会のために活用できるようになるためには、教育領域のドメイン知識とともに、その方法論的基礎である計量社会科学についての十分な理解が必要不可欠である。そこで、この授業科目では計量社会科学の理論と方法を学ぶことで、定量的な教育科学研究とその社会実装のために必要となる基礎的な知識・技能の修得を図る。計量社会科学の一般的包括的内容が取り扱われるが、なかでも現代のあらゆる科学研究や意思決定の基盤となる統計的因果推論の基礎に重点が置かれる。	
	教育科学のための計量分析 II		教育データサイエンスを社会のために活用できるようになるためには、教育領域のドメイン知識とともに、その方法論的基礎である計量社会科学についての十分な理解が必要不可欠である。そこで、この授業科目では計量社会科学の応用と実際を学ぶことで、定量的な教育科学研究とその社会実装のために必要となる発展的な知識・技能の修得を図る。計量社会科学の一般的包括的内容が取り扱われるが、なかでも現代のあらゆる科学研究や意思決定の基盤となる統計的因果推論の応用に重点が置かれる。	
	教育科学のための計量分析 演習 I		教育データサイエンスを社会のために活用できるようになるためには、教育領域のドメイン知識とともに、その方法論的基礎である計量社会科学についての十分な理解が必要不可欠である。そこで、この授業科目では履修者が実際にデータ分析を行うことを通じて、定量的な教育科学研究とその社会実装のために必要となる基礎的な知識・技能の定着を図る。計量社会科学の一般的包括的内容が取り扱われるが、なかでも現代のあらゆる科学研究や意思決定の基盤となる統計的因果推論の基礎的な実装に重点が置かれる。	共同
	教育科学のための計量分析 演習 II		教育データサイエンスを社会のために活用できるようになるためには、教育領域のドメイン知識とともに、その方法論的基礎である計量社会科学についての十分な理解が必要不可欠である。そこで、この授業科目では履修者が実際にデータ分析を行うことを通じて、定量的な教育科学研究とその社会実装のために必要となる発展的な知識・技能の定着を図る。計量社会科学の一般的包括的内容が取り扱われるが、なかでも現代のあらゆる科学研究や意思決定の基盤となる統計的因果推論の応用的な実装に重点が置かれる。	共同

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	計量文献学特論演習		演習形式で行い、テキストをデジタル化する手法と、デジタル化されたテキストを分析する手法の習得を目標とする。文化保存の一形式であるテキストをデジタル化することで、一生を費やしてもひとりの人間が読み終えられない量のビッグデータとしてテキストを扱うことができる。一文ずつ丁寧にテキストを読解していく従来の手法に、計量的にテキストを分析する手法を加えることで、テキストを通じて人間や社会に対する理解の深化と新しい解釈や発見を期する。先行研究からテキストを計量することによって何を明らかにできるのかを学び、様々な分析方法について実践を通じて理解を深めていく。具体的には、OCR（光学文字認識）の操作、XML ファイルによる機械可読形式のデータ構築方法、テキストマイニングの分析などを習得し、テキスト資源をデジタル化し保存・活用していくための基礎を培う。	
	時空間情報処理演習		人間の移動や出身地、遺跡や建物などの分布を地図上に可視化し、その時系列的な変遷を分析することにより、人間や社会、文化についての理解を深めることを目標とする。地理情報システム（GIS）の各種ソフトウェアを利用することにより、時空間データを可視化し、分析する能力を身につける。具体的には、GIS の概念、研究対象の分析に必要な時空間データの入手方法、GIS ソフトを活用した地図作成方法について、実践的な演習を通じて習得する。さらに、習得した技術を活用し、分析結果をまとめて発表する。以上により、時空間情報処理に必要な基礎的な考え方や手法を身につける。（オムニバス方式／全15回） （72 石田友梨・88 森 泰三／1 回）（共同）本プログラムの趣旨と関連づけた本演習の目的説明 （88 森 泰三／1 4 回）各種ソフトウェアを利用した具体的な分析手法	オムニバス
	デジタル資料活用演習		演習形式で行い、新しいデジタル資料の活用方法について検討し、試行することを目指す。令和4年に博物館法が一部改正され、博物館資料のデジタル・アーカイブ化が博物館業務として追加された。デジタル・アーカイブは、博物館という建物内に限定された資料としてではなく、文化観光や街づくり、社会的・地理的課題を向き合う場を提供するものとなることが期待されている。このような新しい時代の要請に応えるデジタル資料の活用方法の在り方について、探索的に試行錯誤を行いながら追究していく。従来は文化財や芸術文化などがデジタル資料の対象であったが、人間の生活や社会活動をより豊かにするデジタル資料とは何かについても議論する。具体的には、画像相互利用のための国際的枠組みである International Image Interoperability Framework（IIIF）を利用したキュレーション、MetashapeやBlenderなどを利用した3Dモデル構築方法、自ら作成したデジタル資料を世界へ発信する方法などを身につける。	
	テキスト処理演習		プログラミング言語を利用し、機械可読形式でデジタル化されたテキストを分析する方法と、テキストデータに基づくアプリ制作を行う方法を身につけることを目標とする。（オムニバス方式／全15回） プログラミングの基礎（72 石田友梨／1～7 回）と、アプリ制作（87 呂建輝／8～15 回）を取り上げる。具体的には、テキスト処理に必要なOCR（光学文字認識）、形態素分析、テキストマイニング、スクレイピングなどをプログラミング言語 PythonやRで実行する方法を習得する。次に、翻訳アプリ、文書作成アプリ、外国語学習アプリ等を実際に作成することで、人間や文化に対する理解の深化や、社会的課題解決のためにテキストデータを活用する技能を養う。	オムニバス
	データ連携活用演習		テキストデータ、時空間データ、画像データなどの異なるデータを連携させながら活用する方法を演習形式で習得することを目的とする。複数の読みの解釈が可能なテキストや、複数の写本が存在するテキストをデジタル化するには、「デジタル源氏物語」（ https://genji.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/ ）のように、デジタル化されたテキストとテキストの画像を比較して検証する形で公開することが望ましい。また、遺跡の場所や人や書簡の経路を分析する際には、地図と関連資料の画像などを組み合わせ可視化する方法が有効である。本演習では、各種データを収集し、整理する方法を復習しつつ、目的に応じてPalladioやGephiなどの可視化ツール利用しながら分析する実践力を養う。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	メタバース空間構築演習		デジタル空間でのモデル構築方法について、演習形式で習得することを目的とする。VR（仮想現実）、AR（拡張現実）、メタバース（インターネット上の仮想空間）などの技術は、教育や文化財の保存・公開などに活用されている。たとえば遺跡の再現をする場合には、これまで物理的な場所や建築のための莫大な予算を確保する必要があったが、デジタル空間に再現する場合にはコストを大幅に削減することができるようになった。予算や技術の制限なく、研究対象の3D モデルを構築して分析することで、理解の深めることや新しい発見をすることが期待されている。初回で本プログラムの趣旨と関連つけた本演習の目的を石田が説明した後、UnityやSTYLYの具体的な操作方法について非常勤講師が指導する。	
	データサイエンス概論		講義形式でデータサイエンスの意義や活用事例を確認しつつ、実際の分析に必要な数学や統計についての基礎知識を習得することを目的とする。平均、分散、相関、回帰直線といった基本から、データ駆動型社会やSociety 5.0の在り方まで、幅広くデータサイエンスの技能と理論を取り上げる。情報セキュリティについては野上、ELSIや個人情報保護などデータサイエンスと社会との結びつきやテキスト解析については呂、時系列データや画像解析については石原、その他については新規採用予定の教員が担当する。	共同
	ExcelとRを用いたデータ処理		数値データの操作や可視化が比較的容易なExcelのデータ解析方法について演習形式で習得し、より高度なデータ解析方法を習得するための基礎概念を身につけることを目的とする。初回で本プログラムの趣旨と関連つけた本演習の目的を石田が説明した後、新規雇用予定の助教が、教育や広告に関係する学習・意識データをサンプルとして用い、Excelのピボットテーブルやマクロ等の機能、Rを用いたデータの集約法や解析法を習得させる他、実際の大規模縦断データをRにより集約し、マルチレベル分析等により様々な教育支援の効果を評価する方法の理解を促す。	
	Pythonを用いたビッグデータ解析		プログラミング言語Pythonは、近年AI（人工知能）の最先端の開発においても使われている。Pythonを用いたビッグデータ解析の手法について、演習形式で習得することを目的とする。具体的には、データの前処理のためのpandas、手書き数字セットMNIST、機械学習のためのscikit-learn、グラフ描画のためのmatplotlibなどを取り上げる。また、データやデータベースへの理解と目的の設定、機械学習を用いたモデル構築というデータ解析の流れについても身につけられるよう配慮する。各教員が机間巡視を行うことにより、確実に技能を習得することを目指す。	共同
	No Code を用いたデザイン		実社会でのデータ分析経験豊富な外部講師を招聘し、実践的なクラウド利用とアプリデザインについて演習形式で学ぶ。ウェブサイトやアプリのサービス開発においては、NoCodeで素早く開発することの利点は大きい。さらに教育の場においては、直感的操作が可能なNoCodeツールは、より高度なプログラミング言語を習得するための導入としても適している。ワークショップ形式の公開講座とすることで、学生と社会人との交流による新たな価値の創造を目指す。各教員は各班のファシリテーター役を担当する。	共同
	教育イノベーション演習		イノベーションのためには、様々なフィールドで生活する人々の欲求を、共感的に理解する能力が必要である。さらに、その欲求を満たすために必要となる新たな技術や概念についての知識、もしくはそれらの知識とスキルを持つ専門家との人的ネットワークが必要となる。この演習では、多様な個人や企業、団体等が抱えている課題や、困りごとを共感的に理解し、それを解決するしくみ（システム）を考案し、そのシステムに必要な要素となる専門家や企業等を見だし、協力関係を構築し、実際にシステムを稼働させる一連の取り組みを試行する。そのために、多様な課題を共有し、多様な専門家が共同できる場（クロスラボ）を設け、【文理／産官学】融合のクロスプロジェクトを構成し、その中で新たな教育支援法等の開発と実践を試行する。最後にそのシステムの概要と有効性の評価をまとめ発表することを求める。	共同
	教育 DX ハッカソン		教育におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）を実現するための技能を習得することを目標とし、短期集中開発作業（ハッカソン）を行う。インプットトーク、アイデアソン、ハンズオン、ハッカソン、ビジネスデザイン、発表会から構成された演習形式で実践力を養う。各教員が各班のファシリテーター役となることで、きめ細かな指導を可能とする。さらに、現場を知る社会人や他学部の学生も参加可能な授業とすることで、共創の場となるよう工夫する。	共同

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
大学院共通科目（課題研究）	教育科学課題研究		本科目では、主指導教員1名に加え副指導教員を配し、学生のニーズにきめ細やかに応えられる指導体制を整え、各学生が関心を向けている研究課題を選定、研究計画の作成、研究活動実施、論文にまとめるという全プロセスについて、必要な指導を個人別に行う。これらを通して、実践力、専門力、コミュニケーション力に加えて、自律的に探究を推進する力を醸成し、最後に学位論文の審査及び最終試験を行うことで、達成度を測る。 (1 赤木 里香子)美術教育学、美術史・美術理論の分野にかかわる諸問題の中から、受講生と相談のうえ、具体的な研究課題を設定し、関連文献の購読と分析、研究を進めるうえでの方法等に美術教育学、美術史・美術理論の分野に関する指導を行う。美術科教育に関する研究指導を行う。 (2 足立 稔)子どもの健康増進科学について実践的に研究していく基礎的能力を獲得するよう保健体育科教育に関する研究指導を行う。 (3 阿部 真理子)コーパスを用いた第二言語習得研究を行うための手法を習得できるよう研究指導を行う。 (4 安藤 元紀)生物学（動物学分野）に関わる研究課題の中から、受講者と相談の上、具体的なテーマを設定し、それを踏まえて関連文献の購読と討議、研究実施の方法論等に関する指導を行う。 (5 李 璟媛)先行研究の分析に基づいて新たな課題を見出す力を身に付けるよう家族関係学・家庭経営学に関する研究指導を行う。 (6 石川 彰彦)有機化学・環境科学に関わる研究課題の中から設定したテーマを踏まえて関連文献の購読と討議、研究実施の方法論等に関する指導を行う。 (7 伊藤 恵司)物理現象を固体物理学の知識の習得に加え、理科教員として必要とされる資質能力を育成するため教育科学と物性物理学に関する研究指導を行う。 (8 伊藤 武彦)学校保健医科学の分野で独力で研究を進めて行くのに必要な基盤的能力を身に付けることができるよう研究指導を行う。 (9 稲田 佳彦)研究の参考になる事項を学び、活用できるよう物理学・科学教育に関する研究指導を行う。 (10 入江 隆)自らが考え、新たな方法を模索し、問題を解決していく能力を習得するよう電気・技術教育に関する研究指導を行う。 (11 浮田 真弓)研究課題の設定から研究方法の選択や論文執筆に至るまで、国語科教育の研究を推進するための知識や技能を習得できるよう研究指導を行う。 (14 笠井 俊信)教育情報工学に関わる問題の中から、受講者と相談の上具体的なテーマを設定し、それに踏まえ、関連文献の購読と討議、研究実施のための方法論等に関する指導を行う。 (15 梶井 一暁)教育や人間形成の歴史にかかわる諸問題に関する文献の講読と討議、研究実施のための方法論など教育学（教育史）に関する研究指導を行う。 (17 片山 美香)研究課題の設定から論文完成に至る、乳幼児の心理社会的発達を支援する研究推進に必要な知識・技能を中心に、子ども、保育者、養育者等を対象とした幼児心理学に関する研究指導を行う。 (18 上村 弘子)養護実践学にかかわる課題の中から研究課題を設定し、研究方法、データ収集方法などについて討議し、研究指導を行う。 (19 木村 功)文献読解、文献調査、論文作成などの研究能力を、演習を通じて総合的に国語学に関する研究指導を行う。 (20 清田 哲男)学術論文講読、書籍輪読や、調査方法等で研究の深化させ、美術科教育・デザイン教育に関する研究指導を行う。 (21 桑原 敏典)社会科教育学研究の論文を書くための基礎的な知識と技能を習得できるよう研究指導を行う。学校と社会・市民性教育に関する研究指導を行う。 (22 酒向 治子)関連文献の講読と討議により、研究実施のための研究計画の明確化と方法論の習得を目指して舞踊芸術学・身体教育学に関する研究指導を行う。 (23 篠原 陽子)データ分析、評価できる力量の形成を目指して被服学に関する研究指導を行う。 (25 土屋 聡)研究の過程で自身の研究テーマに関する知識や研究手法について知ることができるよう漢文学に関する研究指導を行う。 (26 寺澤 孝文)ICTを活用し教育分野で収集され始めた大量の行動データ（教育ビッグデータ）を用いた認知心理・ビッグデータに関する研究指導を行う。 (27 長岡 功)研究テーマにそって関係文献をあたったり、演奏を加える場合には、レッスンを通じて演奏力を高めていくよう器楽(ピアノ)に関する研究指導を行う。 (28 中川 征樹)幾何学を学ぶことを通して、物事や現象の仕組み・原理・構造を論理的・数理科学的に考察し、理解し、説明できるよう研究指導を行う。 (29 中村 登)解析学を学ぶことを通して、小学校算数、中学校および高等学校数学で扱う教科内容について、その原理や構造を数理科学的に理解し説明できるよう研究指導を行う。 (30 西山 修)研究課題の設定から論文完成に至る、保育内容の研究を推進するための技能を中心に、保育内容の研究に関する研究指導を行う。 (31 早川 倫子)修得した知識・技術を応用し、調査・実験・研究および開発を具体的に推進できるよう音楽教育学に関する研究指導を行う。 (32 松多 信尚)研究論文を読みこなし、研究の立案、調査データの収集・解析などの方法、その取りまとめが行えるよう自然地理学に関する研究指導を行う。 (33 三宅 幹子)発達心理学領域のテーマについて、発達心理学的な理論と実証的研究方法に基づいた研究指導を行う。 (34 村井 良介)複数の史料や地図など多様な情報源を用いて史料が読解できるよう日本史に関する研究指導を行う。 (35 山本 和史)先行研究の調査と共に基礎データの集積に主眼を置き、独自性のある視点で研究の重心を見出せるよう工芸に関する研究指導を行う。 (37 大熊 正哲)自らの研究テーマの下で自律的に研究を遂行できるようになるために必要な知識・技能の教授など経済学に関する研究指導を行う。 (38 岡田 和也)密接な読解で、英語圏の詩の作品を研究していくことに取り組むよう英米文学に関する研究指導を行う。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			(39 尾崎 卓)教育方法学研究を行う際の先行研究の評価方法、課題立案能力、資料収集方法及び論文作成などの能力を習得するよう研究指導を行う。 (40 小山 尚史)研究方法、データ収集や分析方法などについて実際に役立つ知識と技能を獲得し、よりよい研究ができるよう英語科教育に関する研究指導を行う。 (41 高田 宏史)論文の書き方や資料収集、分析の方法論等を学ぶことを通じて、修士論文の完成を目指して政治学（政治哲学）に関する研究指導を行う。 (42 仲田 研登)代数学に関する研究を通じて勉強することの意味を理解できるように研究指導を行う。 (43 野毛 宏文)機械・技術教育における諸問題の中から、受講者と相談の上で具体的なテーマを設定し、関連文献の講読と討議、研究実施のための方法論に関する指導を行う。機械・技術教育に関する研究指導を行う。 (44 馬場 訓子)研究課題の設定から研究方法の選択や論文執筆に至るまで、保育内容の研究を推進するための知識や技能を習得できるよう研究指導を行う。 (45 原 祐一)関連文献の講読と討議により、研究実施のための研究計画の明確化と方法論の習得をめざし、スポーツ社会学・体育科教育に関する研究指導を行う。 (46 原田 太郎)課題研究について受講者自らが考え、新たな方法を模索し、問題を解決していく能力を養うよう生物学（植物学分野）・園芸学に関する研究指導を行う。 (47 久成 三有紀)データ分析、評価できる力量の形成を目指して食物学に関する研究指導を行う。 (48 平田 仁胤)教育哲学に関わる研究課題の中から設定したテーマを踏まえて関連文献の購読と討議を行い、基礎的な研究スキルを高めるよう指導を行う。 (49 又吉 里美)日本語学の知識を深め、日本語研究における分析方法や研究手続きなどについてより深く習得し、自分の研究を積極的に展開することができるよう国語学に関する研究指導を行う。 (50 三沢 良)教育現場等での対人関係や集団・組織の問題について、社会心理学の理論と実証的な手法に基づく研究指導を行う。 (51 宮内 通孝)代数学を学ぶことを通じて、小学校算数、中学校および高等学校数学で扱う教科内容について、その原理や構造を数理科学的に理解し説明できるよう研究指導を行う。 (52 宮崎 宏志)倫理学にかかわる問題の中から、具体的なテーマを設定し、それを踏まえ、関連文献の購読と討議、研究実施のための方法論等に関する研究指導を行う。倫理学に関する研究指導を行う。 (53 諸田 大輔)器楽独奏とアンサンブル能力の向上を目指して、器楽について歴史と様式の点から多角的考察をするなど器楽に関する研究指導を行う。 (54 安永 和央)教育測定学の知見を基盤として、構成概念を適切に測定するための調査の進め方（質問紙の設計、作成、実施、データ分析、結果の解釈）について研究指導を行う。 (55 横松 友義)幼児教育学上の諸問題に研究の視点からアプローチする力量を養うため、幼児教育学研究のプロセスの一例を理解できるよう研究指導を行う。 (56 大平 修也)研究課題の設定から論文完成に至る、理論の検討と事例や実践の検討を往還する質的研究の知識・技能を中心に、幼児教育・保育での表現行為を核とした研究指導を行う。 (57 高須 裕美)声楽独奏やアンサンブルなどの演奏に関わる知見を応用し、歌唱を起点とした課題の調査・研究指導を行う。 (58 高橋 徹)関連文献の講読と討議により、研究実施のための研究計画の明確化と方法論の習得をめざし、体育・スポーツ哲学に関する研究指導を行う。 (59 津島 愛子)学校保健医科学に関わる課題を設定し、自ら研究に取り組めるよう研究指導を行う。 (60 山内 愛)学校保健を中核的に推進する養護教諭として進んでいくために、自らの課題を見出し、その課題について取り組んでいくよう研究指導を行う。 (61 佐野 亘)地球科学に関する包括的な知識を習得し、論理的なアプローチにより自ら課題を解決することができる。地球科学（実験系・フィールド系）に関する研究指導を行う。 (63 松浦 藍)学術論文講読、書籍輪読や、調査方法等で研究を深化させるよう美術科教育・絵画教育に関する研究指導を行う。 (64 矢口 啓朗)研究に必要な能力を身に着けることにより、修士論文を執筆できる力を養うよう西洋史研究に関する研究指導を行う。	